

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）

設計図

山梨建築設計監理事業協同組合

【図面リスト】

図 面 番 号	図 面 名	S C A L E
南ベ A-01	図面リスト	_____
南ベ A-02	特記仕様書1	_____
南ベ A-03	特記仕様書2	_____
南ベ A-04	特記仕様書3	_____
南ベ A-05	特記仕様書4	_____
南ベ A-06	構造設計標準仕様	_____
南ベ A-07	鉄骨構造標準図1	_____
南ベ A-08	鉄骨構造標準図2	_____
南ベ A-09	壁式鉄筋コンクリート配筋標準図1	_____
南ベ A-10	壁式鉄筋コンクリート配筋標準図2	_____
南ベ A-11	地盤改良工法 特記仕様書	_____
南ベ A-12	建物面積積表	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-13	仕上表	_____
南ベ A-14	全体平面図	A1-1:100 A3-1:200
南ベ A-15	全体立面図	A1-1:100 A3-1:200
南ベ A-16	平面図・屋根伏図・立面図（東屋）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-17	矩計図（東屋）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-18	基礎伏図・小屋伏図（東屋）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-19	鉄骨詳細図（東屋）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-20	平面図・屋根伏図・立面図（機械室）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-21	矩計図（機械室）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-22	基礎伏図・矩計図（機械室）	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-23	平面詳細図1	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-24	平面詳細図2	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-25	詳細図1	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-26	詳細図2	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-27	詳細図3	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-28	詳細図4	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-29	詳細図5	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-30	詳細図6	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-31	詳細図7	A1-1:50 A3-1:100
南ベ A-32	詳細図8	A1-1:20 A3-1:40
南ベ A-33	ケー基礎図・杭伏図	A1-1:100 A3-1:200

[illegible]

特 記 事 項		 山梨建築設計監理事業協同組合	承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺	遊亀公園附屬動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）	図面名称 図面リスト	南へ A-01 No.
				一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	設計年月日			

[illegible]

建具工事	1 見本の製作等	・特殊な建具の仮組（建具符号： ）（表16.1.4）					
	2 アルミニウム製建具	外部に面する建具（表16.2.2）（表16.2.4）（表16.2.1）					
		種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
		・A種	S－4	※A－3	※W－4	※70	※図示
		・B種	S－5				※図示
		・C種	S－6	A－4	W－5	特記による	※図示
		（注）形式が引き違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は枠の見込み100mmとする。					
		断熱等級・ 枠・障子：					
		ガラス：					
		表面処理	※B B－1種 ・C種（ ・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）				（表14.2.1）
	屋内建具						
	表面処理	※B C－1種又はB C－2種 ・C 2種（ ・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）				（表14.2.1）	
網戸	防虫網	網の種類 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316） 形 式 ※外部可動式 ・固定式					（表16.2.3）
3 樹脂製建具	建具の性能及び構造の適用は建具表による 製造所標準仕様による	（表16.3.2） （表16.3.3）					
④ 鋼製建具	簡易気密型ドアセットの適用は特記による 耐風圧性の適用は建具表による 特定防火設備の戸 ・適用あり	（表16.4.2）（表16.4.1）					
5 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による	（表16.5.2）					
6 ステンレス製建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による 耐風圧性の適用は建具表による 表面仕上げ ※H L程度 ・鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（補強あり） 特定防火設備の戸 ・適用あり	（表16.6.4） （表16.6.5） （表16.6.1）					
7 木製建具	かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ） ふすまの上張り ※新角の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く） ・鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外 ・第三種	（表16.7.2） （表16.7.3～10） （表16.7.2）					
8 建具用金物	マスターキー ※製作する ・製作しない 建具用金物 錠前はシンダー錠錠（レバーハンドル）とする なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承認を受ける 吊金物 ・下番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい） ・ピボットヒンジ ・フロアヒンジ	（表16.8.4） （表16.4.6）（表16.5.6） （表16.8.1～5） （表16.8.2）					
9 自動ドア開閉装置	（表16.9.2～3）（表16.9.1～3）						
	開閉方法	センサの種類					
	※スライディングドア ・スイングドア	・マットスイッチ ・電子マットスイッチ ※光線スイッチ ・音波スイッチ ・熱線スイッチ ・光電スイッチ					
	・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）						
10 自閉式上吊り引戸装置	品質規格 ※標仕表16.10.1による ・製造所標準仕様による	（表16.10.2～3）					
11 重量シャッター	（表16.11.2）						
	シャッターの種類						
	・一般重量シャッター	耐風圧性能（ ） N/m ²					
	・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（ ） N/m ²					
	・屋内用防火シャッター						
	・屋内用防煙シャッター						
	開閉機能	※上部電動式（手動併用） ・上部手動式				（表16.11.2）（表16.11.1）	
	危害防止機構 ※障害物感知装置（自動開閉型） ・シャッターの二段降下方式 一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない	（表16.11.2）					
12 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・鋼板 形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm） 耐風圧性能（ ） N/m ²	（表16.12.2）（表16.12.1） （表16.12.3） （表16.12.4） （表16.12.2）					
13 オーバーヘッドドア	（表16.13.2～3）						
	セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール			
	※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチャル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板（SUS304）			
	耐風圧性能（ ） N/m ²						
14 ガラス	※建具表による ・ガラスブロック 標仕16.14.5による	（表16.14.2） （表16.14.5）					
	表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能		
	・正方形			※クリア	※無し		
	・長方形				・有り		
ガラス留め材及び溝	（表16.14.2）（表9.7.1）						
	建具の種類	材 種					
	アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット（FIX部はシーリング材）					
	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材					
	ステンレス製	※シーリング材					
	防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。 板ガラスをはめ込む溝の大きさ 標仕16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会 JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する						
	名 称	種 類	張り面	性能値			
	※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り ・外張り	飛散防止率 D 1			
	品質 JIS A 5759による						

カーテンウォール工事

2

メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類

(17.2.2)

種 類

規格等

※アルミニウム製

※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウォール方式

・方立方式
・バックマリオン方式（ ・単純2辺支持構法 ・SSG構法）
・スバンデル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式（ ・ノックダウン方式 ・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料

下記以外は標仕表9.7.1による

(9.7.2) (17.2.2) (表9.7.1)

被着体の組合せ

シーリング材の種類

記 号

主成分による区分

耐久性による区分

金属

ガラス

石、タイル

ガラス

ガラス

構造用ガasket

※適用しない

・適用する（施工箇所：図示）

(17.2.2)

断熱材

※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm）：施工箇所※図示）

(17.2.2)

製品の寸法許容差

※標仕表17.2.1による

(17.2.3) (表17.2.1)

・製造所標準製作規定寸法許容差による

(17.2.5) (表17.2.2～3)

取付け

(17.2.3) (表14.2.1)

アルミニウムの表面処理

種 別

色 彩 等

・BB-1種 ・BB-2種

無着色

・C種

※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー ・

・着色塗装

塗装材料（ ）焼付け方法（ ）コート（ ）ペーク

耐風圧性能

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/㎡以上及び負圧 N/㎡以上に対して安全であること。

(17.1.3)

主要部材のたわみ

支点間距離（h）

たわみ量

状 態

※4m以下

※±（1/150）×h
かつ絶対量20mm以下

※各部の破壊、残留変形
有害な変形が起こらないこと

・4mを超える

耐震性能

設計用震度 水平方向（KH） ※1.0 ・

垂直方向（KV） ※0.5 ・

(17.1.3)

建物の構造種別

層間変位量（h=支点間距離）

状 態

鉄骨造

※±（1/100）×h以上

※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない
シーリングは補修程度

鉄筋コンクリート造

※±（1/200）×h以上

鉄骨鉄筋コンクリート造

水密性 ・W-4 ・W-5 ・

(17.1.3)

気密性 ・A-3 ・A-4 ・

(17.1.3)

耐火性能 ※適用しない ・適用する（ 時間、施工箇所：図示）

映像調整 ※行わない ・行う（建具表による）

製造所 性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承認を受ける

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。

コンクリートの種類及び品質

※標仕17.3.2による

(17.3.2)

・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類

設計基準強度（Fc）

所要スランプ（cm）

鉄筋 ※SD295A ・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質

(14.2.3) (表14.2.2)

金物種類及び部位

内 部

外 部

PC板打込み金物

※E種 ・

※C種 ・

PC板打込み取付けボルト

※E種 ・

※ステンレスボルト

2次ファスナー

※E種 ・

※C種 ・

取付けボルト

※F種 ・

※C種 ・

レベル調整ボルト

※F種 ・

※C種 ・

上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材料

下記以外は標仕表9.7.1による

(9.7.2) (17.3.2) (表9.7.1)

施工箇所

シーリング材の種類

記 号

主成分による区分

耐久性による区分

カーテンウォール板間目地

断熱材

※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm）：施工箇所 ※図示）

(17.3.3) (表17.3.1)

製品の寸法許容差

※標仕表17.3.1による

(17.3.3) (表17.3.1)

・製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ

()

耐火材料

施工部位

種 別

規格等

・ファスナー部

取付けブラケット

・パネル目地部

・層間ふさぎ

耐風圧性能

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/㎡以上及び負圧 N/㎡以上に対して安全であること。

(17.1.3)

耐震性能

設計用震度 水平方向（KH） ※1.0 ・

垂直方向（KV） ※0.5 ・

(17.1.3)

建物の構造種別

層間変位量（h=支点間距離）

状 態

鉄骨造

※±（1/100）×h以上

※部材が損傷せず、破壊脱落もしない。
ガラス等の破損もない
シーリングは補修程度

鉄筋コンクリート造

※±（1/200）×h以上

鉄骨鉄筋コンクリート造

3

PCカーテンウォール

装 工 事	1. 材 料	屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づく（基材同等の認定のあるものとする。） （表18.2.1～7）（表18.2.1～7）
	2. 素地ごしらえ	各部の素地ごしらえ
	③ 錆止め	塗料の種類 （表18.3.1～2） 鉄鋼面 ※A種 ※B種（標準仕様書8節の場合） 亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・B種（標準仕様書8節の場合） 錆止めの塗料塗り （表18.3.3） 鉄鋼面 ※A種（見え掛り） ※B種（見え隠れ） 亜鉛めっき鋼面 ※A種（鋼製建具等） ・B種
	4. 合成樹脂調合 ペイント塗り （S O P）	合成樹脂調合ペイント塗り 木部 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼板 （表18.4.2） 塗料の種類 ※1種 ・2種 合成樹脂調合ペイント塗り 鉄鋼面 ・A種 ※B種 木部 ※A種（屋外） ※B種（屋内） 木部のクリアラッカー塗り ・A種 ※B種（表18.5.1）（表18.5.1） アクリル樹脂系 非水分散形塗料塗り（N A D） コンクリート・モルタル面 （表18.6.1）（表18.6.1） 耐候性塗料塗り（D P） （表18.7.2～3）（表18.7.1～3） 上塗りの等級 ～特記による 鉄鋼面 工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り→は表18.7.2による 亜鉛めっき鋼面 工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り→は表18.7.3による コンクリート面及び押出成形セメント板の種類の種別 （表18.7.4）（表18.7.3） ・A種 ・B種 ・C種 種別は表18.7.3の特記による
	5. クリアラック 塗り（C L）	
	6. アクリル樹脂系 非水分散形塗料塗り （N A D）	
	7. 耐候性塗料塗り（D P）	
	8. つや有り合成樹脂 エマルションペイント塗り （E P-G）	つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り （表18.8.1～4） コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面 ・A種 ※B種 木部（屋内）（多孔質広葉樹を除く）一仕様工程等は、表18.8.2による 鉄鋼面（屋内） ・A種 ※B種
	9. 合成樹脂 エマルションペイント塗り （E P）	合成樹脂エマルションペイント塗り （表18.9.2）（表18.9.1） コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面 ・A種 ※B種
	10. ウレタン樹脂ワニス塗り （U C）	木部のウレタン樹脂ワニス塗り ・A種 ※B種（表18.10.2）
内 装 工 事	1 1. スティン塗り （O S）	オイルスティン塗りは特記による。（表18.11.2）
	12. 木材保護塗料塗り （W P）	木材保護塗料塗り ・A種 ※B種（表18.12.1）
	2. ビニル床シート張り ビニル床タイル 及びゴム床タイル張り	・ビニル床シート （表19.2.1～4） （表19.2.1～2） JIS A5705のJIS表示認証製品 種 類 記号 色 柄 厚さ（mm） 特殊機能 工 法 ※ 発泡層のないもの ※F S ・無地 ※ 2.0 ・帯電防止 ※熱溶接 ・発泡層のないもの ・T S ・マーブル ・2.5 ・帯電荷重 ・受付け ・発泡層のあるもの ・H S ・K S JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明薄膜を有した木目又は石目調のもの 種類記号色 柄 厚さ（mm） 特殊機能 工 法 F S ・木目調 ※ 2.0 ・帯電防止 ※熱溶接 ・石目調 ・2.5 ・帯電荷重 ・受付け 上記以外はすべてビニル床シートに同じ ・ビニル床タイル JIS A5705のJIS表示認証製品 種 類 記号 寸法 厚さ（mm） 特殊機能 ※ コンポジション ※K T ※300×300 ・2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重 ・ビニル床タイル ・F T ・300×300 ・2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重 ・ビニル床タイル ・450×450 ・2.0 ・耐動荷重 ・特殊機能床材 帯電防止 ・帯電防止性能評価（JIS A 1445）1.2～3.1程度 又は耐電圧（JIS L 1023）3kV以下 ・帯電防止性能評価（JIS A 1445）3.2～5.1程度 又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）0.1×1010オーム未満 ・帯電防止性能評価（JIS A 1445）5.2以上 又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）0.1×107オーム未満 耐動荷重 JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、層間剥離強度試験（発泡層のあるビニルシートのみ）およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。 ・視覚障害者用床タイル 材 質 寸 法（mm） ・ 造化ビニル系 ・ せつ器質タイル系 3 0 0 × 3 0 0 ・ビニル幅木材 材 種 ※ 軟質 ※ 硬質 ※ 溶接 高 さ（mm） ※ 6 0 ※ 7 5 ※ 1 0 0 厚 さ（mm） ※ 1. 5 ※ 2. 0 ・接着剤 J I S A 5536（床仕上材接着剤）により、 種別は表19.2.1による施工箇所に応じたものとする。 ホルムアルデヒド放数量は特記による。特記がなければF☆☆☆☆とする。（表19.3.1～4）（表19.3.1） ・織じゅうたん 種 別 バイル形状 色柄等 備 考 ・A種 ・カットバイル ・B種 ・ループバイル ・C種 ・カット、ループバイル併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下（表19.3.3～4）（表19.3.2） ・タフテッドカーペット （表19.3.3～4）（表19.3.2） バイル形状 バイル長（mm） 工 法 備 考 ・カットバイル ※5～7 ※全面接着工法 下敷き材を敷く。 ・ループバイル ※4～6 ・グリップ工法 ・レベリングバイル ※4 ・カット、ループ併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下
	3. カーペット敷き	

	・タイルカーペット	(表19.3.2)			
	・バイル形状	種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備 考
	※ループバイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	粘着はく離形接着剤を使用する。
	・カットバイル				
	・カット、ループ併用				
	耐電性 ・人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲)				
	(表19.4.1～4) (表19.4.1～8)				
4 合成樹脂床床					
	種 別	仕上りの種類			
	・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ			
	・エポキシ樹脂塗床材	・ 薄膜流し膜べ仕上げ ・ 厚膜流し膜べ仕上げ (・ 平滑 ・ 防滑) ・ 樹脂モルタル仕上げ (・ 平滑 ・ 防滑) ・ 防滑仕上げ			
		特記による			
5 フローリング張り	(表19.5.1～7) (表19.5.1～6)				
	・単層フローリング	種 別	樹種	厚さ (mm)	工 法
	・ フローリング ボード	※ナラ	※1 5	幅 7 5 長さ900以上	・ 釘止め工法 ・ 接着工法
	・ フローリング ブロック	※ナラ	※1 6	303×303	・ 接着工法
	・ モザイク パーケット	※ナラ	・ 6	・ 8 ・ 9	・ 接着工法
	※ウレタン樹脂 ワニス塗り ・ オイルステイン 塗りの上 ワックス ・ 生地のままワックス ・ 既塗装品				
	・複層フローリング				
	種 別	樹種	種別	防湿処理	工 法
	・ 複合1種 フローリング	※ナラ ・ サクラ	・ A種 ・ B種 ※C種	・ 行う ・ 行わない	・ 釘止め工法 ・ 接着工法
	・ 複合2種 フローリング	・ ヒノキ			
	・ 複合3種 フローリング				
	・ 大型積層 フローリング	・ ナラ ・ サクラ		・ 行う ・ 行わ ない	・ 特殊張り 工 法 (体育館床)
6 畳敷き	(表19.6.2) (表19.6.1)				
	畳の種類	・ A種 ・ C種	・ B種 ・ D種 ()		
7 せっこうボード その他ボード 及び合板張り	(表19.7.2～3) (表19.7.1～5)				
	種 類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等		
	・硬質木毛セメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・		
	・普通木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・		
	・けい酸カルシウム板	0.8F K	タイプ2 (無石棉) (・ 6 ・ 8 ・)		
	・ロックウール化粧吸音板	D R	※フラットタイプ (※9 (不燃) ・ 12 ・) ・ 凹凸タイプ (※12 (不燃) ・ 15 ・ 19 ・)		
	・ロックウール化粧吸音板 (軒天井用)	D R (凹凸) D R (軒天) D R (軒天凹凸)	※フラットタイプ 9 (不燃) ・ 凹凸タイプ (※12 ・ 15) (不燃)		
	・せっこうボード	G B-R	※12.5 (不燃) ・ 9.5 (準不燃)		
	・不燃積層せっこうボード	G B-N C	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)		
	・シージングせっこうボード	G B-S	12.5 (不燃)		
	・強化せっこうボード	G B-F	12.5 (不燃) 15.0 (不燃)		
	・せっこうラスボード	G B-L	9.5		
	・化粧せっこうボード (木目)	G B-D	9.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (※柱目・板目) 専用下地材付き		
	・難燃合板		・ 生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)		
	・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による 厚さ1.2		
	・ミディアムデンシティ ファイバーボード	M D F	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・		
	・単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板 ・ 研磨板 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・		
	・ハードボード (素地)	H B	・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンバード) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンバード)		
	・インシュレーションボード	I B	A級 (・ 天井仕上 ・ 内装仕上 ・) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・		
	合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放数量				
	※規制対象外 ・ 第三種				
	軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材				
	※適用する ・ 適用しない				
	吸音材				
	種 類	JISの記号	厚さ (mm)		
	・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	※25		
	※グラスウール吸音ボード32 K	GW-B	※25		
8 壁紙張り	(表19.8.2)				
	施工箇所	壁紙の種類			
		紙	繊維 (繊維物)	フラ (ビニル)	その他 (化学繊維)
					無機質
					・ 不燃・準不燃・難燃 ・ 不燃・準不燃・難燃
	素地ごしらえ (表18.2.4～5) (表18.2.7)				
	モルタル、プラスター面	※B種	・ A種 (施工箇所:)		
	せっこうボード面	※B種	・ A種 (施工箇所:)		
	壁紙のホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外 ・ 第三種 (表19.8.2)				
9 断熱・防露	(表19.9.2～3)				
	種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等	
	・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板	※2種 b	※一般部 ・ 25 ・ 100	特定フロンを使用 しないもの	
	・現場発泡断熱材	※3種 b (スキン層付)	・接地部分 ・ 25 ・		
		※断熱材補修部分 ・一般部	―― ・ 15 ・ 40	特定フロンを使用 しないもの 難燃性 ・ 3級 ・ 2級	
	・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁 (図示の範囲) ※40以下	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.675以上 (m ² ・k/w)	
		製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの			
	ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外 ・ 第三種				

特 記	
事 項	



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号	一級建築士 第162184号	設計年月日
	佐野 正秀	河西 聡	

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南―ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称	特記仕様書 3

南 A-04
No.

ユニット及びその他の工事

1フリーアクセスフロア

(20.2.2)

2可動間仕切

(20.2.3)

3移動間仕切

(20.2.4)

4トイレブース

(20.2.5)

5手すり

(20.2.6)

6階段滑止め

(20.2.7)

7床目地枠

(20.2.8)

8黒板及びホワイトボード

(20.2.9)

9鏡

(20.2.10)

10表示

(20.2.11)

11タラップ

(20.2.12)

12煙突用成形ライニング

(20.2.13)

13ブラインド

(20.2.14)

14ロールスクリーン

(20.2.15)

15カーテン

(20.2.16)

16カーテンレール

(20.2.16)

ブラインドボックス 及びカーテンボックス	・市販品 (アルミニウム製 押出し型材) 溝幅×深さ (mm) ・90×150 ※120×80 ・120×150 ・150×80 ・ 色 彩 ※B－1 ・B－2 (※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) ・図示																							
18 耐震スリット	<table><tr><th>方 向</th><th>タイプ</th><th>耐火性能</th><th>防水性能</th></tr><tr><td>・垂直方向 ・水平方向</td><td>※完全 (全貫通型) スリット</td><td>・耐火型 ・非耐火型</td><td>・有り ・無し</td></tr></table> <table><tr><th>目 地</th><th>内壁 (幅×深さ)</th><th>外壁 (幅×深さ)</th></tr><tr><td>目地材</td><td>シーリング材 (見え掛かりのみ)</td><td>シーリング材 (内外とも)</td></tr><tr><td>目地寸法 (mm)</td><td>※20×10 ・</td><td>※20×10 ・</td></tr></table> 形 状 ・据置式 ・壁張り式 ・差込式 寸 法 製造所 材 質 アルミニウム製 (※縦線タイプ ・目地タイプ) 材 質 アルミニウム製 (受け枠 ※アルミ製 ・ステンレス製)				方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	・垂直方向 ・水平方向	※完全 (全貫通型) スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	目 地	内壁 (幅×深さ)	外壁 (幅×深さ)	目地材	シーリング材 (見え掛かりのみ)	シーリング材 (内外とも)	目地寸法 (mm)	※20×10 ・	※20×10 ・			
方 向	タイプ	耐火性能	防水性能																					
・垂直方向 ・水平方向	※完全 (全貫通型) スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し																					
目 地	内壁 (幅×深さ)	外壁 (幅×深さ)																						
目地材	シーリング材 (見え掛かりのみ)	シーリング材 (内外とも)																						
目地寸法 (mm)	※20×10 ・	※20×10 ・																						
22 鋼製書架及び物品棚	<table><tr><th>種 類</th><th>規格等</th><th>耐荷重による種類</th></tr><tr><td>・鋼製書架</td><td>JIS S 1039の規格による</td><td>水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ</td></tr><tr><td>・鋼製物品棚</td><td>JIS S 1040の規格による</td><td>※1種 ・2種 ・3種</td></tr></table> 市販品 形 式 ・30組用 ・60組用 ・120組用 ・ 市販品 材 質 ・塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製受枠) ・ビニル製 (ステンレス製受枠) ・硬質アルミニウム製 (受枠とも) ・ステンレス製 (受枠とも)				種 類	規格等	耐荷重による種類	・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ	・鋼製物品棚	JIS S 1040の規格による	※1種 ・2種 ・3種											
種 類	規格等	耐荷重による種類																						
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ																						
・鋼製物品棚	JIS S 1040の規格による	※1種 ・2種 ・3種																						
23 かざ箱	市販品 形 式 ・30組用 ・60組用 ・120組用 ・																							
24 くつみきマット	市販品 材 質 ・塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製受枠) ・ビニル製 (ステンレス製受枠) ・硬質アルミニウム製 (受枠とも) ・ステンレス製 (受枠とも)																							
25 流し台ユニット	<table><tr><th>種 類</th><th>寸法 (L＝ mm)</th><th>適用内容</th><th>規格・品質等</th></tr><tr><td>・流し台</td><td>※1200 ・1500 ・1800</td><td>トラップ付き</td><td>※優良住宅部品</td></tr><tr><td>・コンロ台</td><td>※600 ・700</td><td>バックガード ※有り</td><td>(セクショナルキッチンⅠ型)</td></tr><tr><td>・つり戸棚</td><td>※1200 ・900 ・600</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・水切り棚</td><td>※1200 ・900</td><td>ステンレス製 ※1段式</td><td>※市販品</td></tr></table>				種 類	寸法 (L＝ mm)	適用内容	規格・品質等	・流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付き	※優良住宅部品	・コンロ台	※600 ・700	バックガード ※有り	(セクショナルキッチンⅠ型)	・つり戸棚	※1200 ・900 ・600			・水切り棚	※1200 ・900	ステンレス製 ※1段式	※市販品
種 類	寸法 (L＝ mm)	適用内容	規格・品質等																					
・流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付き	※優良住宅部品																					
・コンロ台	※600 ・700	バックガード ※有り	(セクショナルキッチンⅠ型)																					
・つり戸棚	※1200 ・900 ・600																							
・水切り棚	※1200 ・900	ステンレス製 ※1段式	※市販品																					
26 屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・																							
27 洗面カウンター	材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り (心材：集成材) ・人工大理石 奥行き (mm) ・約450 ・約600																							
28 防煙垂れ壁	・固定式 <table><tr><th>材 質</th><th>厚さ (mm)</th><th>高さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス</td><td>※6.8</td><td>※500</td><td>アルミ製枠付き</td></tr></table>				材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備 考	※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き												
材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備 考																					
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き																					
29 視覚障害者用床タイル (誘導用及び 注意喚起用床材)	・可動式 <table><tr><th>種 類</th><th>材 質</th><th>高さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・垂直降下式 (巻取り型)</td><td>※不燃布 (不燃認定品)</td><td>※500 ・800</td><td>ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・可動式 (天井収納型)</td></tr><tr><td>・回転降下式</td><td>鋼板製又はアルミ製</td><td>※500 ・800</td><td>表面仕上げ ※天井材張り</td></tr></table> 降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)				種 類	材 質	高さ (mm)	備 考	・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・可動式 (天井収納型)	・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り								
種 類	材 質	高さ (mm)	備 考																					
・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・可動式 (天井収納型)																					
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り																					
30 旗竿	ブロックパターンはJIS T 9251による (19.2.2) 色彩は黄色を原則とする 屋 内 ※塩化ビニル製 ・磁器又はせっ器質タイル (※300 ・) ・レジンコンクリート製 屋 外 ※レジンコンクリート製 ・磁器又はせっ器質タイル (※300 ・) 材 質 ※アルミニウム合金製 形 式 ※テーパー型 ・同一断面型 地上高さ (m) ・6 ・8 ・10 ・12 操作方法 ※ハンドル式 ・ロープ式 固定方法 ・埋込式 ・ベース式 ・バンド式 製造所																							
31 旗竿受金物	材 種 ステンレス製SUS304																							
32 フェンス	・ビニル被覆エキスパンドフェンス ○図示 ・樹脂塗装メッシュフェンス																							
33 屋外掲示板	照明器具 ※有り ・無し 施 錠 ※有り ・無し 製造所																							
34 車止め支柱	※ステンレス製 (上下式鎖内蔵型) 径114.3mm t＝2.5mm H＝G L＋700mm ※スプリング付 ・スプリング無し																							
35 収納家具	材質 形状・寸法 ※図示 ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三种																							
36 エキスパンション ・ジョイント金物	材質 ・アルミ ・ステンレス クリアランス ・50 ・100 ・150 ・ 耐火性能 ・有り () ・無し 防水型 ※適用する ・適用しない																							
37 プレキャスト コンクリート工事	コンクリートは表6.2.1 [コンクリートの種別]のⅡ類に準ずる (20.3.2) 材料は6章3節[コンクリートの材料及び置合]による																							
38 間知石及びコンクリート 間知ブロック積み	間知石は表面がほぼ方形に近いもので、控えは四方落としとし、控え長さは面の最小辺の (20.4.2) 1.2倍とし、材質は特記材料による コンクリート間知ブロックはJIS A 5371 (プレキャスト無筋コンクリート製品) の積み ブロックに基づき、種類及び質量区分は特記による																							

排水工事	① 排水管	排水管用材料 (21.2.3) (表21.2.1) (21.3.1～3.2)																																			
		<table><tr><th>材 種</th><th>管の種類</th><th>管形状 (接合方法)</th></tr><tr><td>※通心力鉄筋コンクリート管</td><td>※外圧管 (※1種 ・2種)</td><td>B形 (ゴム接合)</td></tr><tr><td>・硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>※V P ・V U</td><td></td></tr><tr><td>・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>・R E P－V U Ⅲ</td><td></td></tr><tr><td>・硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>・D V</td><td></td></tr></table> <p>車道部の排水管の敷設 (21.3.1～2)</p> <p>※図示</p> <p>・砂基礎 (地床厚さ20cm以上 材料 山砂の類)</p>	材 種	管の種類	管形状 (接合方法)	※通心力鉄筋コンクリート管	※外圧管 (※1種 ・2種)	B形 (ゴム接合)	・硬質ポリ塩化ビニル管	※V P ・V U		・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	・R E P－V U Ⅲ		・硬質ポリ塩化ビニル管	・D V																					
	材 種	管の種類	管形状 (接合方法)																																		
	※通心力鉄筋コンクリート管	※外圧管 (※1種 ・2種)	B形 (ゴム接合)																																		
	・硬質ポリ塩化ビニル管	※V P ・V U																																			
	・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	・R E P－V U Ⅲ																																			
	・硬質ポリ塩化ビニル管	・D V																																			
	② 排水樹及びふた	鉄製鉄マンホールふた (21.2.2)																																			
		<table><tr><th>種 類</th><th>適用荷重</th></tr><tr><td>・水封形</td><td>・密閉形 (テーパー・パッキン式)</td></tr><tr><td>・簡易気密形 (パッキン式)</td><td>・中ふた付密閉形</td></tr><tr><td></td><td>・T－2用</td></tr><tr><td></td><td>・T－6用</td></tr><tr><td></td><td>・T－14用</td></tr><tr><td></td><td>・T－20用</td></tr></table>	種 類	適用荷重	・水封形	・密閉形 (テーパー・パッキン式)	・簡易気密形 (パッキン式)	・中ふた付密閉形		・T－2用		・T－6用		・T－14用		・T－20用																					
	種 類	適用荷重																																			
・水封形	・密閉形 (テーパー・パッキン式)																																				
・簡易気密形 (パッキン式)	・中ふた付密閉形																																				
	・T－2用																																				
	・T－6用																																				
	・T－14用																																				
	・T－20用																																				
	グレーチングふた (21.2.2)																																				
	<table><tr><th>材 質</th><th>形 式</th><th>種 類</th><th>適用荷重</th><th>メンバーピッチ</th><th>上面形状</th></tr><tr><td>○鋼製</td><td>※受枠付き</td><td>・溝ふた用</td><td>○歩行用</td><td>※細目</td><td>※凹凸形</td></tr><tr><td>・ステンレス製</td><td>ボルト固定</td><td>○樹ふた用</td><td>○T－2用</td><td>※普通目</td><td>※平形</td></tr><tr><td></td><td>※無し</td><td>・かさ上げ用</td><td>・T－6用</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・図示</td><td>・U字溝用</td><td>・T－14用</td><td>○細目</td><td>・凹凸形</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・T－20用</td><td></td><td></td></tr></table>	材 質	形 式	種 類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状	○鋼製	※受枠付き	・溝ふた用	○歩行用	※細目	※凹凸形	・ステンレス製	ボルト固定	○樹ふた用	○T－2用	※普通目	※平形		※無し	・かさ上げ用	・T－6用				・図示	・U字溝用	・T－14用	○細目	・凹凸形				・T－20用		
材 質	形 式	種 類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状																																
○鋼製	※受枠付き	・溝ふた用	○歩行用	※細目	※凹凸形																																
・ステンレス製	ボルト固定	○樹ふた用	○T－2用	※普通目	※平形																																
	※無し	・かさ上げ用	・T－6用																																		
	・図示	・U字溝用	・T－14用	○細目	・凹凸形																																
			・T－20用																																		
3 埋戻し土	※B種 ・ (21.2.2～3) (表3.2.1)																																				
4 浸透管及び浸透槽	製造所																																				
舗装工事	① 盛り土に用いる材料	・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 (22.2.3) (表3.2.1)																																			
	2 遮断層及び凍上抑制層の材料	・ 遮断層 ※川砂、海砂又良質な山砂 ・ 厚さは図示 ・ 凍上抑制層 ※再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン 切り込み砂利 ・ 砂 厚さは図示 ・ フィルター層 ※透水性舗装 車道部150mm・歩道部50mm																																			
	3 路床安定処理	※添加材料による安定処理 (22.2.2～3) (表22.2.1) 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 kg/m ³ (目標CBR ※5以上 ・)																																			
	4 路床土の支持力比試験	※行う (※乱した土 ・乱さない土) (22.2.5)																																			
	5 路床締固め度の試験	※行う (22.2.5)																																			
	⑥ 路盤材料 Ⅲ	※再生クラッシャーラン (RC-40) ・クラッシャーラン (0-40) 又はクラッシャーランスラグ (GS-40) 透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの (22.3.3)																																			
	⑦ アスファルト舗装	(22.4.2) (表22.4.1) <table><tr><th>舗装の種類</th><th>車道部の基層</th><th>カラー舗装の種類</th></tr><tr><td>※アスファルト舗装</td><td>※無し ・有り</td><td>※顔料混入加熱アスファルト混合物</td></tr><tr><td>○カラー舗装</td><td>※無し ・有り</td><td></td></tr></table> <p>カラー舗装の着色骨材 ・有色骨材 (焼成) ・着色骨材 (樹脂被覆) アスファルト ※再生アスファルト Ⅲ ・ストレートアスファルト (22.4.3)</p> <p>加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4) <table><tr><th>区分</th><th>※一般地域</th><th>・寒冷地域</th></tr><tr><td>表層</td><td>※密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13)</td><td>※密粒度アスファルト混合物 (13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)</td></tr><tr><td>基層</td><td>※粗粒度アスファルト混合物 (20)</td><td></td></tr></table><p>シールコート ※行わない ・行う (施工範囲：) (22.4.5)</p><p>アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う (22.4.6)</p></p>	舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類	※アスファルト舗装	※無し ・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物	○カラー舗装	※無し ・有り		区分	※一般地域	・寒冷地域	表層	※密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13)	※密粒度アスファルト混合物 (13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)	基層	※粗粒度アスファルト混合物 (20)																		
	舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類																																		
	※アスファルト舗装	※無し ・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物																																		
	○カラー舗装	※無し ・有り																																			
区分	※一般地域	・寒冷地域																																			
表層	※密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13)	※密粒度アスファルト混合物 (13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)																																			
基層	※粗粒度アスファルト混合物 (20)																																				
⑧ コンクリート舗装	早強セメント ※使用しない ・使用する (22.5.3) 注入材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ (22.5.3) (表22.5.2) 溶接金網 ※有り ・無し (22.5.3～4) 厚さ試験 ※行わない ・行う (22.5.6)																																				
⑨ 透水性アスファルト舗装	アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う (22.7.4) (22.7.6)																																				
10 ブロック系舗装	・コンクリート平板舗装 (22.8.2～4) <table><tr><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th></tr><tr><td>※普通平板 (N) ・カラー平板 (C)</td><td>※300角</td><td>※60</td><td>※砂 ・モルタル</td></tr><tr><td>・洗出平板 (W) ・振石平板 (S)</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>・インターロッキングブロック舗装 (22.8.2～4) <table><tr><th>種 類</th><th>厚さ (mm)</th><th>色彩及び表面加工等</th></tr><tr><td>※標準ブロック</td><td>車道部 ※80 ・ 歩道部 ※60 ・</td><td>※標準品</td></tr><tr><td>・透水性ブロック</td><td></td><td>誘導、注意喚起用は黄色系とする</td></tr><tr><td>・植生ブロック</td><td>※80 ・100</td><td></td></tr></table></p>	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	※普通平板 (N) ・カラー平板 (C)	※300角	※60	※砂 ・モルタル	・洗出平板 (W) ・振石平板 (S)				種 類	厚さ (mm)	色彩及び表面加工等	※標準ブロック	車道部 ※80 ・ 歩道部 ※60 ・	※標準品	・透水性ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする	・植生ブロック	※80 ・100													
種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材																																		
※普通平板 (N) ・カラー平板 (C)	※300角	※60	※砂 ・モルタル																																		
・洗出平板 (W) ・振石平板 (S)																																					
種 類	厚さ (mm)	色彩及び表面加工等																																			
※標準ブロック	車道部 ※80 ・ 歩道部 ※60 ・	※標準品																																			
・透水性ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする																																			
・植生ブロック	※80 ・100																																				
	インターロッキングブロック																																				
	<table><tr><th>項 目</th><th>品 質 ・ 性 能</th></tr><tr><td>セメント</td><td>JIS R 5210ポルトランドセメント、JIS R 5211高炉セメント、JIS R 5212シリカセメント、JIS R 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。</td></tr><tr><td>骨材</td><td>清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。</td></tr><tr><td>混和材料</td><td>インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。</td></tr><tr><td>着色材料</td><td>無機質材料を用い、耐水性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。</td></tr><tr><td>外観</td><td>使用上有害なすず、ひびわれ、欠け、変形等がない。</td></tr><tr><td>寸法許容差 (mm)</td><td>長 さ 幅 厚 さ</td></tr><tr><td>普通タイプ</td><td>±3 ±3 ±3</td></tr><tr><td>透水性タイプ</td><td>±3 ±3 +5～-1</td></tr><tr><td>植生用タイプ</td><td>±3 ±3 ±3</td></tr><tr><td>曲げ強度 (N/mm²)</td><td>普通タイプ 5.0以上 透水性タイプ 3.0以上 植生用タイプ 4.0以上</td></tr><tr><td>透水係数 (cm/sec)</td><td>透水性タイプ 1×10⁻²以上</td></tr><tr><td>圧縮強度 (N/mm²)</td><td>普通タイプ 32.0以上 透水性タイプ 17.0以上</td></tr></table>	項 目	品 質 ・ 性 能	セメント	JIS R 5210ポルトランドセメント、JIS R 5211高炉セメント、JIS R 5212シリカセメント、JIS R 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。	混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。	着色材料	無機質材料を用い、耐水性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。	外観	使用上有害なすず、ひびわれ、欠け、変形等がない。	寸法許容差 (mm)	長 さ 幅 厚 さ	普通タイプ	±3 ±3 ±3	透水性タイプ	±3 ±3 +5～-1	植生用タイプ	±3 ±3 ±3	曲げ強度 (N/mm ²)	普通タイプ 5.0以上 透水性タイプ 3.0以上 植生用タイプ 4.0以上	透水係数 (cm/sec)	透水性タイプ 1×10 ⁻² 以上	圧縮強度 (N/mm ²)	普通タイプ 32.0以上 透水性タイプ 17.0以上										
項 目	品 質 ・ 性 能																																				
セメント	JIS R 5210ポルトランドセメント、JIS R 5211高炉セメント、JIS R 5212シリカセメント、JIS R 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。																																				
骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。																																				
混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。																																				
着色材料	無機質材料を用い、耐水性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。																																				
外観	使用上有害なすず、ひびわれ、欠け、変形等がない。																																				
寸法許容差 (mm)	長 さ 幅 厚 さ																																				
普通タイプ	±3 ±3 ±3																																				
透水性タイプ	±3 ±3 +5～-1																																				
植生用タイプ	±3 ±3 ±3																																				
曲げ強度 (N/mm ²)	普通タイプ 5.0以上 透水性タイプ 3.0以上 植生用タイプ 4.0以上																																				
透水係数 (cm/sec)	透水性タイプ 1×10 ⁻² 以上																																				
圧縮強度 (N/mm ²)	普通タイプ 32.0以上 透水性タイプ 17.0以上																																				
	・鎮石舗装 (22.8.2～4) <table><tr><th>種 類</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工方法</th><th>基 層</th></tr><tr><td>※小鎮石 (花こう岩)</td><td>※80～100 ・</td><td>※うろこ張り</td><td>※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種 類	厚さ (mm)	施工方法	基 層	※小鎮石 (花こう岩)	※80～100 ・	※うろこ張り	※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装																												
種 類	厚さ (mm)	施工方法	基 層																																		
※小鎮石 (花こう岩)	※80～100 ・	※うろこ張り	※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装																																		

路面標示用塗料	JIS K 5665 (路面標示用塗料) による					
	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	布厚さ (mm)
	・ 1 種 ㊤	常温	液状	※白	※150	※1.0
	・ 1 種 ㊤	加熱				
	・ 3 種 1 号	溶融	粉体状			
	揮発性有機溶剤の含有率 塗料総質量に対して 5%以下					
1	樹木の植栽基盤整備	(23.2.2～3) (表23.2.1～2)				
	適用	有効土層の厚さ (cm)	工 法			
	※行う ・行わない	※20	※B種 ※植栽範囲 ・図示			
	樹木 (23.2.2～3) (表23.2.1～2)					
	樹木の樹高 (m)	有効土層の厚さ (cm)	工 法	整備範囲		
	・ 12以上	※100 ・	※A種	・葉張りの範囲		
	・ 7超～12未満	※80 ・	・ B種	・ 図示		
	・ 3超～7以下	※60 ・	・ C種	・ 図示		
	・ 3以下	※50 ・	・ D種			
	工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。					
②	植込み用土	※現場発生土の良質土 ・客土 (※畑土 ・黒土)				(23.2.3)
3	土壌改良材 ㊤	※適用する 施工箇所 ※植栽範囲 ・図示				(23.2.3～4)
	バークたい肥 有機物の含有量 (乾物) : 70%以上 炭素窒素比 (C/N比) : 35以下 陽イオン交換容量 (乾物) : 70meq/100g以上 pH : 5.5～7.5 水分 : 55～65% 幼植物試験の結果 : 生育阻害その他の異常を認めない 窒素全量 (現物) : 0.5%以上 りん酸全量 (現物) : 0.2%以下 加里全量 (現物) : 0.1%以上					
	発酵下水汚泥コンポスト 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植替試験の調査の結果、害が認められないものとする ひ素 : 0.005%以下 カドミウム : 0.0005%以下 水銀 : 0.0002%以下 ニッケル : 0.03%以下 クロム : 0.05%以下 鉛 : 0.01%以下 有機物の含有量 (乾物) : 35%以上 炭素窒素比 (C/N比) : 20以下 pH : 8.5以下 水分 : 50%以下 窒素全量 (現物) : 0.8%以上 りん酸全量 (現物) : 1.0%以上 アルカリ分 (現物) : 15%以下					
4	支柱材	※杉の焼丸太 (間伐材) ㊤ ・真竹				(23.3.2)
5	幹巻き用材料	※幹巻き用テープ ・わら及びこも				(23.3.2)
6	芝張り	種類 ・こうり芝 ・野芝				(23.4.2)
7	屋上緑化	屋上緑化システム ㊤ ・管理方法による区分 ・省管理型 質量の上限値 () kg/m ² かん水装置 ・設ける (工事区分は図示) 透水路、保水路及び排水層等 保水路及び排水層の鉛直方向の排水性能：240 l/m ² ・h 以上 耐荷重性能 省管理型：3×10 ⁴ N/m ² 以上の載荷重で異常のないこと。 耐根腐の材料 合成樹脂耐根シート (厚さ3mm以上) 又は抗根性剤とする (耐根性能の実績を有すること) 植込み用土 製造所の仕様による 植栽の種類 製造所の指定するものとする ・管理方法による区分 ・管理型				(23.5.2) (23.5.3)

特記 _____
事項 _____



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備 (建築主体) 工事 (南—ペンギン・フラミンゴ舎)
	一級建築士 第145710号	一級建築士 第162184号	設計年月日	工事名称
	佐野 正秀	河西 聡		図面名称 特記仕様書 4

南ペ A-05
No.

構造設計標準仕様

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
建築場所 南—ペンギン・フラミンゴ）
山梨県甲府市太田町10-1

(2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築

(3) 構造種別 ☐木造（W） ☐補強コンクリートブロック造（CB） ☒鉄骨造（S）
☐鉄筋コンクリート造（RC） ☒壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
☐鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

(4) 階 数
地下 階 地上 1 階 塔屋 階

(5) 主要用途 動物園舎

(6) 屋上付属物 ☐広告塔 ☐太陽光発電パネル0.20KN/m² ☐キュービクル KN ☐空調室外機

(7) 増築計画 ☐有（ ） ☐無

(8) 付帯工事 ☐門塚 ☐擁壁 ☐外部外構工事 ☐ ☐

(9) 特別な荷重 ☐エレベータ 人乗（ロープ式 油圧式） ☐リフト KN ☐クレーン KN
☐倉庫積載床用 N/m² ☐受水槽 KN

(10) 構造計算ルート X方向ルート —（ 1 ） Y方向ルート —（ 1 ）

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種 類	設計基準強度 F _c =N/cm ²	耐久設計基準強度 F _d =N/cm ²	スラブ cm	備 考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18		18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18、21		15	
基礎、基礎はり	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18、21、24	24（標準）	18	
柱、はり、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18、21、24	24（標準）	18	
	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18、21、24			比重
押えコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	15、18、24		18	比重
混和剤					

(2) コンクリートブロック（CB）
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 ☐100、 ☐120、 ☐150、 ☐190、

(3) 鉄 筋

種 類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> S D295	D10～D16	基礎、躯体	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
	<input checked="" type="checkbox"/> S D345	D22	基礎	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手
	<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>			
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸 鋼	<input type="checkbox"/> S R235			
溶接金網（JIS G 3551）	<input type="checkbox"/> 6φ@150			（ ）

(4) 鉄 骨

種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
<input checked="" type="checkbox"/> S S400 <input type="checkbox"/> S N490B <input checked="" type="checkbox"/> S N400A、B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input checked="" type="checkbox"/> S T K R400 <input type="checkbox"/> S T K R490 <input type="checkbox"/> S T K 400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> B C R295 <input type="checkbox"/> B C P235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> S M490A <input type="checkbox"/> S N490B <input type="checkbox"/> S N490C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> S S C400 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト ☐メッキ、F8T ☒高力ボルト ☐普通、F10T ☐特殊、S10T 認定品（ ☐M12、☐M16、☐M20、☐M22）
☒中ボルト ☐アンカーボルト ☐SNR490B ☐SS400 ☐スタッドボルト
M 16、12 φ＝ L＝ mm ナット（ ☐シングル、☐ダブル）
φ＝ L＝ mm ナット（ ☐シングル、☐ダブル）
φ＝ L＝ mm 使用箇所（ ☐柱 ☐大梁 ☐小梁）
φ＝ L＝ mm 使用箇所（ ☐柱 ☐大梁 ☐小梁）

(6) 屋根、床、壁 ☐A L C版 厚 H＝ 厚 ☐折 版 型式 H＝ 厚 ☐Q L ルーフ H＝ 厚 ☐特殊デッキプレート ☐フラットデッキ 厚

3. 令129条の2の3の事項

☒建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持部及び緊結金物は腐食または腐朽の恐れのないものとする。
☐屋上から突出する水槽、煙突冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
☐煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
☐煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
☒建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
☒風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。
☒建築物の部分を通して配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☒管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずる恐れがある場合において、伸縮継ぎ手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☒管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☐法第20条第一号から3号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造上安全なものとする。

4. 地 盤

(1) 地盤調査資料 ☒有（ ☒敷地内 ☐近隣） ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☒SWサウンディング ☐無（調査予定 ☐有 ☐無）

(2) 地盤調査計画 ☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定 ☐土質試験 ☐物理探査 ☐平板載荷試験 ☐SWサウンディング

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入土、土質構成 （基礎・杭の位置を明記すること）

5. 地業工事

(1) 直接基礎 ☒ベタ基礎 ☒布基礎 ☒独立基礎 試験堀 ☐有 ☒無
深さG L— m、支持層— 長期許容支持力度 KN/m² 載荷試験 ☐有 ☒無

(2) 地盤改良基礎 支持層—

改 良 工 法	仕様・支持地盤等	施 工 法	備 考
<input type="checkbox"/> 浅層地盤改良		<input type="checkbox"/> 掘削、混入後 転圧 <input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 環境パイルS	礫混じり粘土	<input type="checkbox"/> 環境パイルS工法同等工法 <input type="checkbox"/>	技術審査証明 取得工法とする。

地盤改良仕様 ☐施工計画書承認 ☐施工結果報告書
試験 （ ☐有 ☐無 ） （ ☐一軸圧縮試験 ☐載荷 ）

改良杭径(mm)	設計支持力(KN/本)	杭先端の深さ(m)	本数	特記事項
図示				

6. 鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

(1) コンクリート ☒コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5（2009年度版）による。
☒耐久設計基準強度 F_d ☐一般 ☒標準 ☐長期
☒セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5 T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄 筋 ☒鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
☒D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋の圧接工事標準仕様書」による。
☒ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごとに1回行い、1回の試験は30本以上とする。
外観検査 ☒有 ☐無、引張試験 ☐有 ☒無、超音波探傷試験 ☒有 ☐無
☐柱の帯筋（H00P）の加工方法は、☐H型（タガ型） ☐W型（溶接型） ☐S型（スパイラル型）とする。
☒コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと

試験機関名 公共試験機関
代行業者名
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠 ☒材料 合板厚 12mmを標準とする。 ☒施工 J A S S 5による。
☒型枠存置期間

種類 部位 セメント の種類 許容応力度の 割合	せ き 板		支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下	
コン 材 令 1 日 ト	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種
	15℃以上	2	3	4	6	8
	5～15℃	3	5	6	10	12
コン ク リ ー ト の 圧 縮 強 度	5℃未満	5	8	10	16	15
	5N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85% 100%	

注） 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注） 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注） 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注） 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注） 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注） 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事（施工方法等計画書）

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
☒日本建築センター「冷間成形形鋼管設計・施工マニュアル（改訂版）」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場 ☒製作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書
☒認定または登録工場（ M グレード以上 グレード都登録 ランク）
☒材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☒高力ボルト ☐特殊ボルト ☐頭付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築鋼構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート
☒社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること
☐現寸検査 ☐組立・開先検査 ☒製品検査 ☒建方検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること
☒平成12年度建設省告示第1464号第2号イ、ロ
☒鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
☒日本建築学会「溶接工作規程、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☒日本建築学会「溶接工事技術指針 工事現場施工編」

(5) 接合部の検査
☒溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検 査 箇 所	検 査 方 法	検査率又は検査数				備 考
		社 内	第三者	工事監理者		
<input checked="" type="checkbox"/> 突合せ溶接部 <input type="checkbox"/>	外観検査※	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100 <input checked="" type="checkbox"/>		※平成12年建設省告示 第1464号第二号による （目視及び計測） （注）東京都の要綱に 基づき必要となる建築 物の場合に実施する。
	超音波探傷検査	100 <input checked="" type="checkbox"/>	30 <input checked="" type="checkbox"/>	100 <input checked="" type="checkbox"/>	% 個	
	内質検査 （注） <input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 示温塗料塗布	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	% 個	
	マクロ試験・その他	個	個	個	個	
<input type="checkbox"/>	外観検査（※）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	% 個	
第三者検査機関名 工事監理者が指定する第三者検査機関						
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。						

注1）現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事に報告すること
☒高力ボルトの検査
軸力導入試験 ☐要 ☒否 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☒否
☒一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、供回り等の異常がないことを確認する
☒トルシア形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装 ☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、☐JIS K 5621 ☐JIS K 5625 を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
☐別図（意匠図：耐火リスト）による

7. 設備関係

☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☐エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上とする。
☒給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の挙動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15.0Kgを超える貯湯設備については、地震に対して安全上支障の無い構造として、平成24年国土交通省告示第1447号第5に規定する構造方法によること。
（完了検査までに、詳細図を指定確認機関に提出すること。）

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

特 記 _____
事 項 _____



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	設計年月日

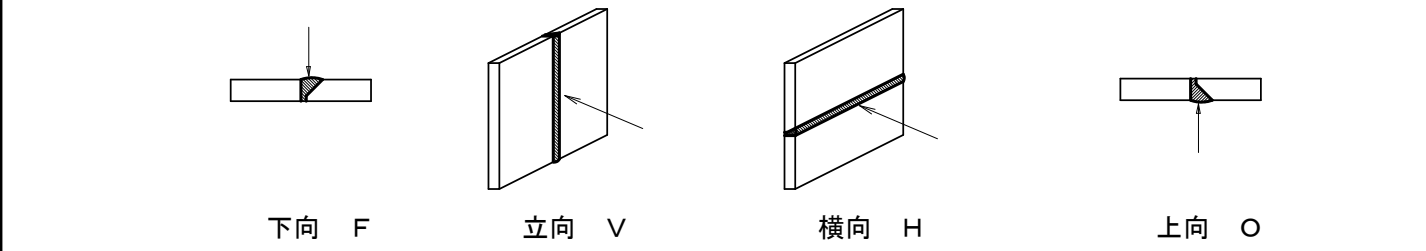
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称	構造設計標準仕様

南ペ A-06
No.

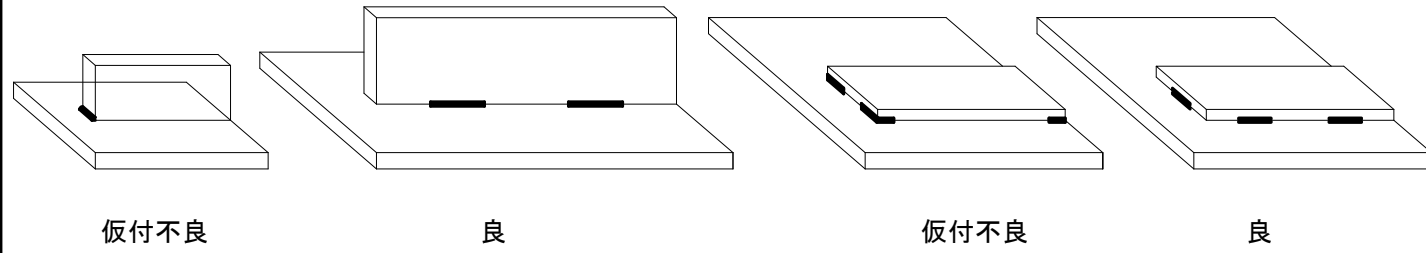
鉄 骨 構 造 標 準 図 (1)

1. 一般事項

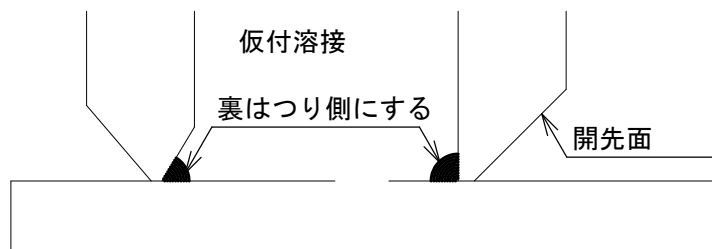
- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計資料による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶 接 工
- 溶接工は施工する溶接に適用するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (i) 交流アーク溶接機 300A～500A (c) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (d) アークエアークウジング機（直流） (e) 溶接電流を測定する電流計
- (f) サブマージアーク溶接機 1式 (g) 溶接棒乾燥機
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接（MC） ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
- セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC） アークエアークウジング（AAG）
- (d) 溶接姿勢



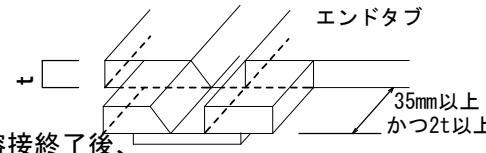
- (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う
- (i) 仮付位置
- 仮付溶接は溶接の始、終端隅口角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



- (d) 突合せ溶接部の仮付け溶接は必ず裏はつり側に施工する



- (f) 溶接施工
- (i) エンドタブ
- I) 突き合わせ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III) エンドタブの長さは、MC：35mm以上
- NGC、GC：40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の確認を得る



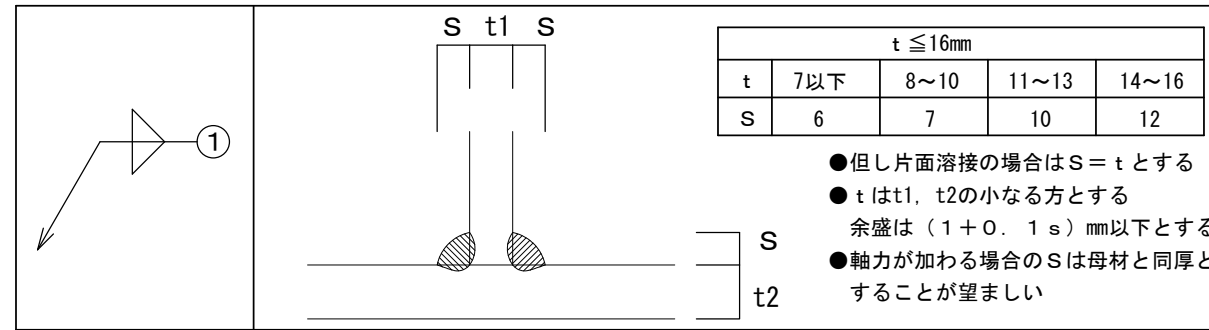
- (d) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (h) スカーラップ 半径は30～35mmとする
- (c) 裏はつり
- 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
- (k) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためないように、養生を行う

- (5) 塗 装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

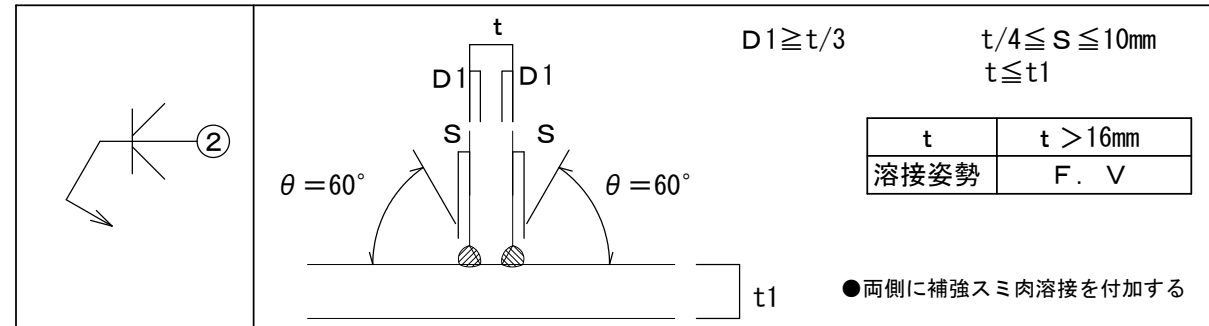
2. 溶接規準図

(注) f：余盛 G：ルート間隔 R：フェース S：脚長 (単位mm)

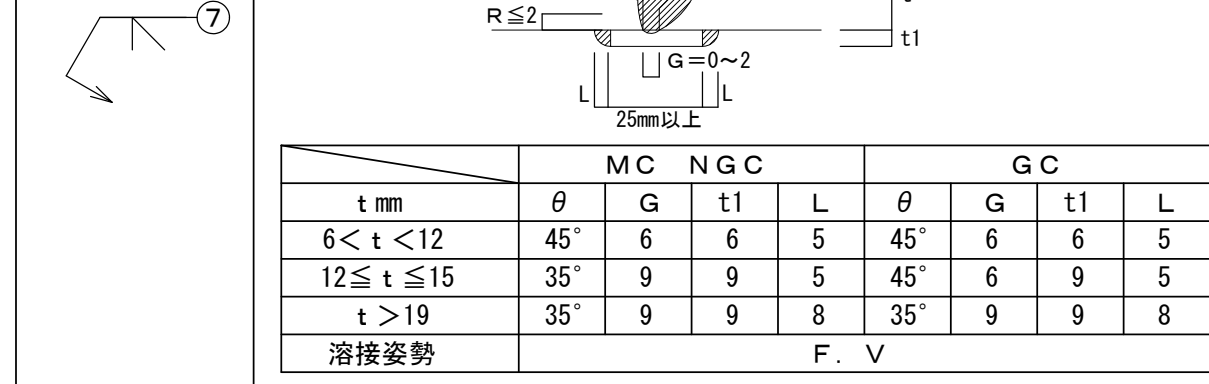
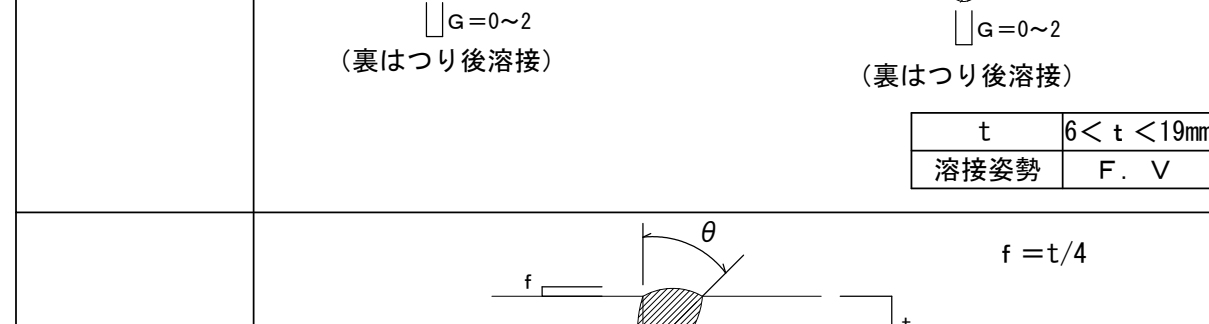
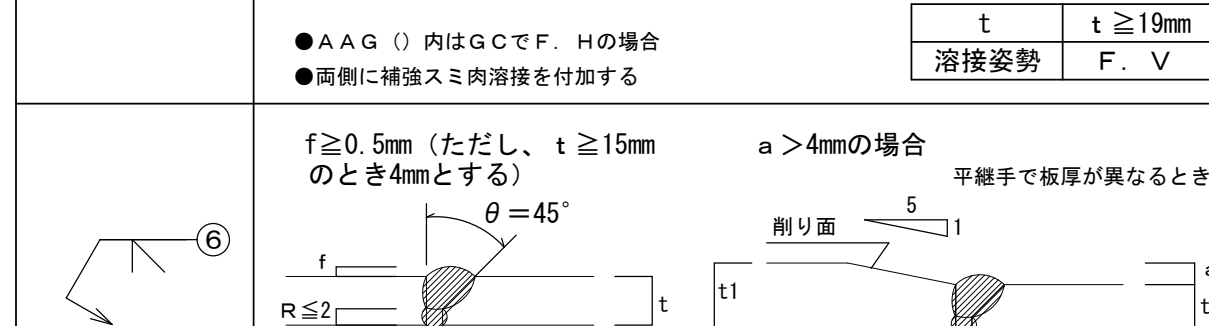
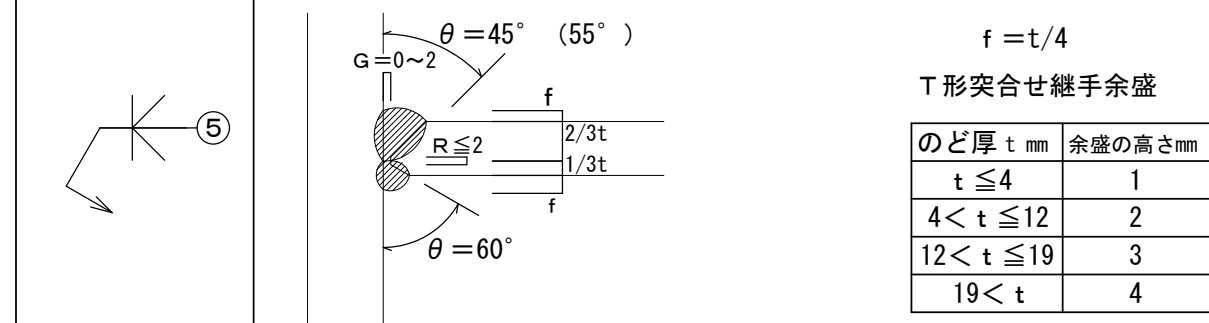
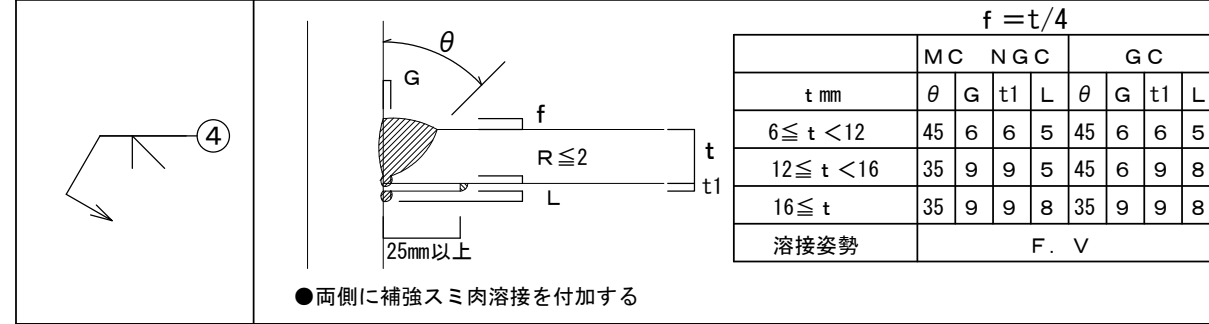
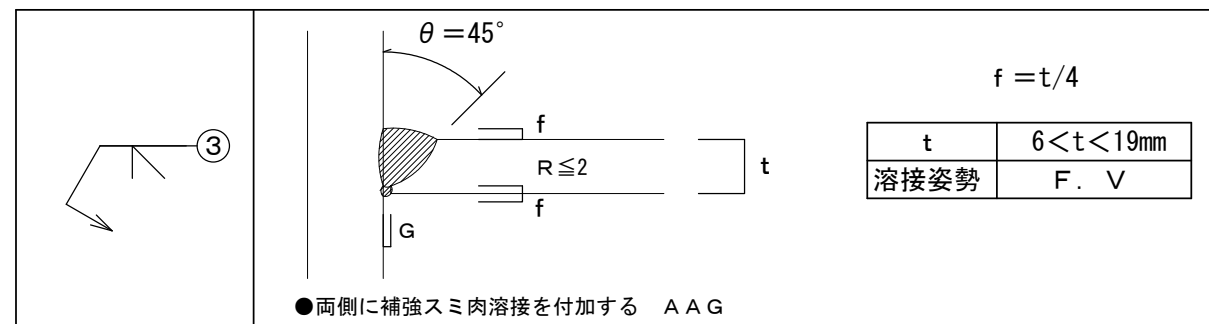
(1) スミ肉溶接



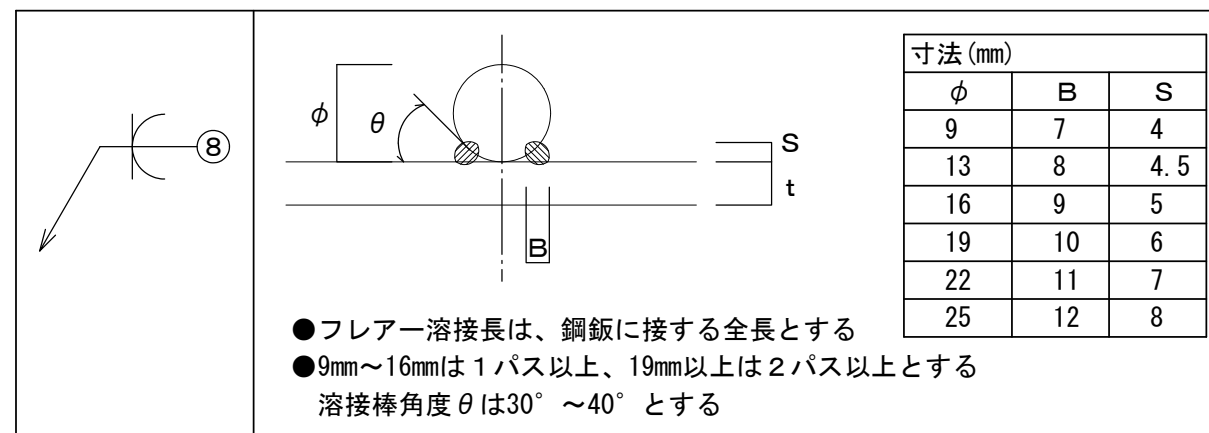
(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所に注意)



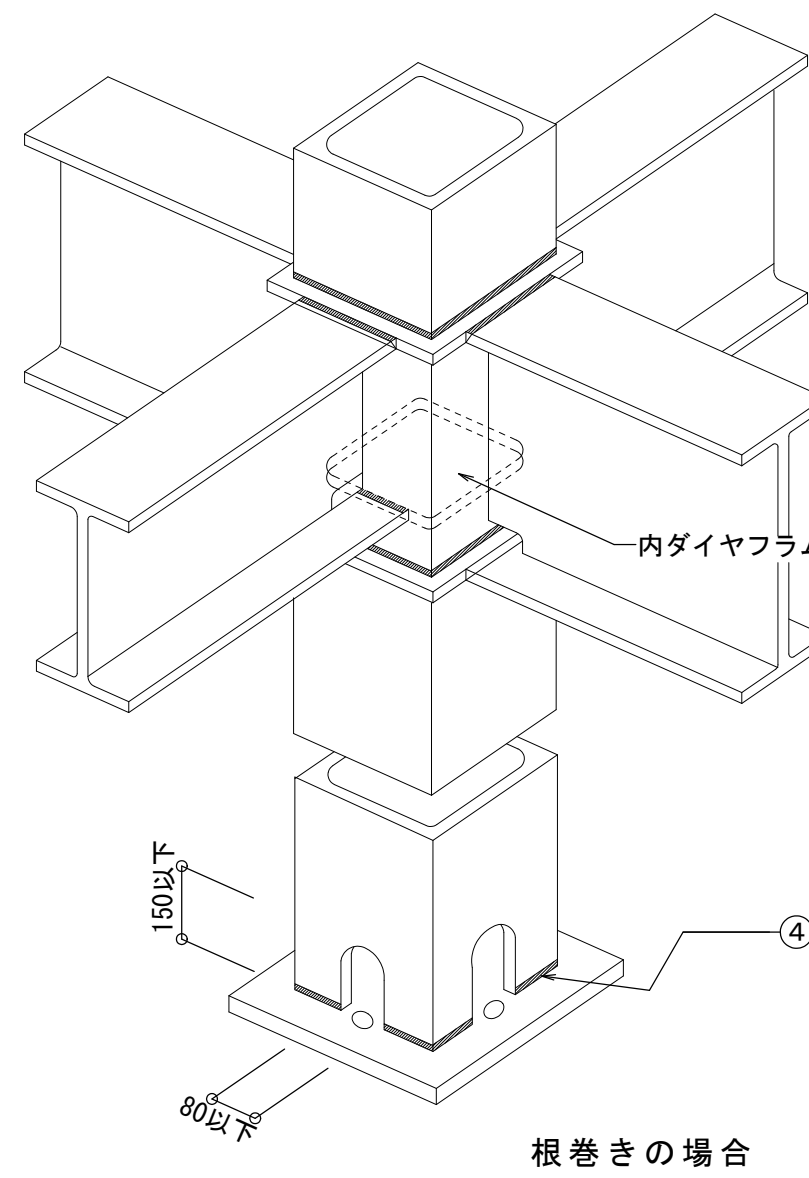
(3) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)



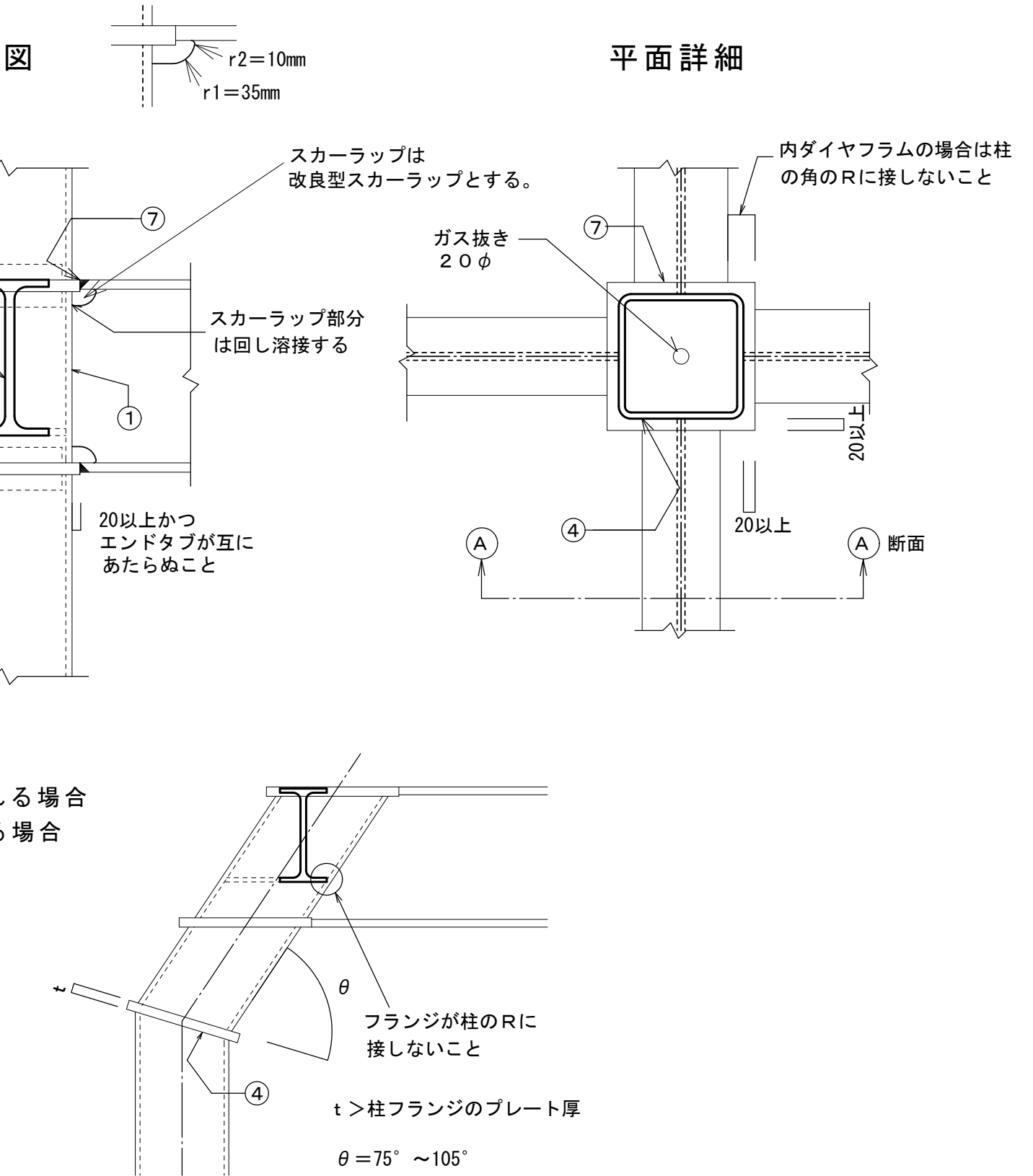
(4) フレー溶接



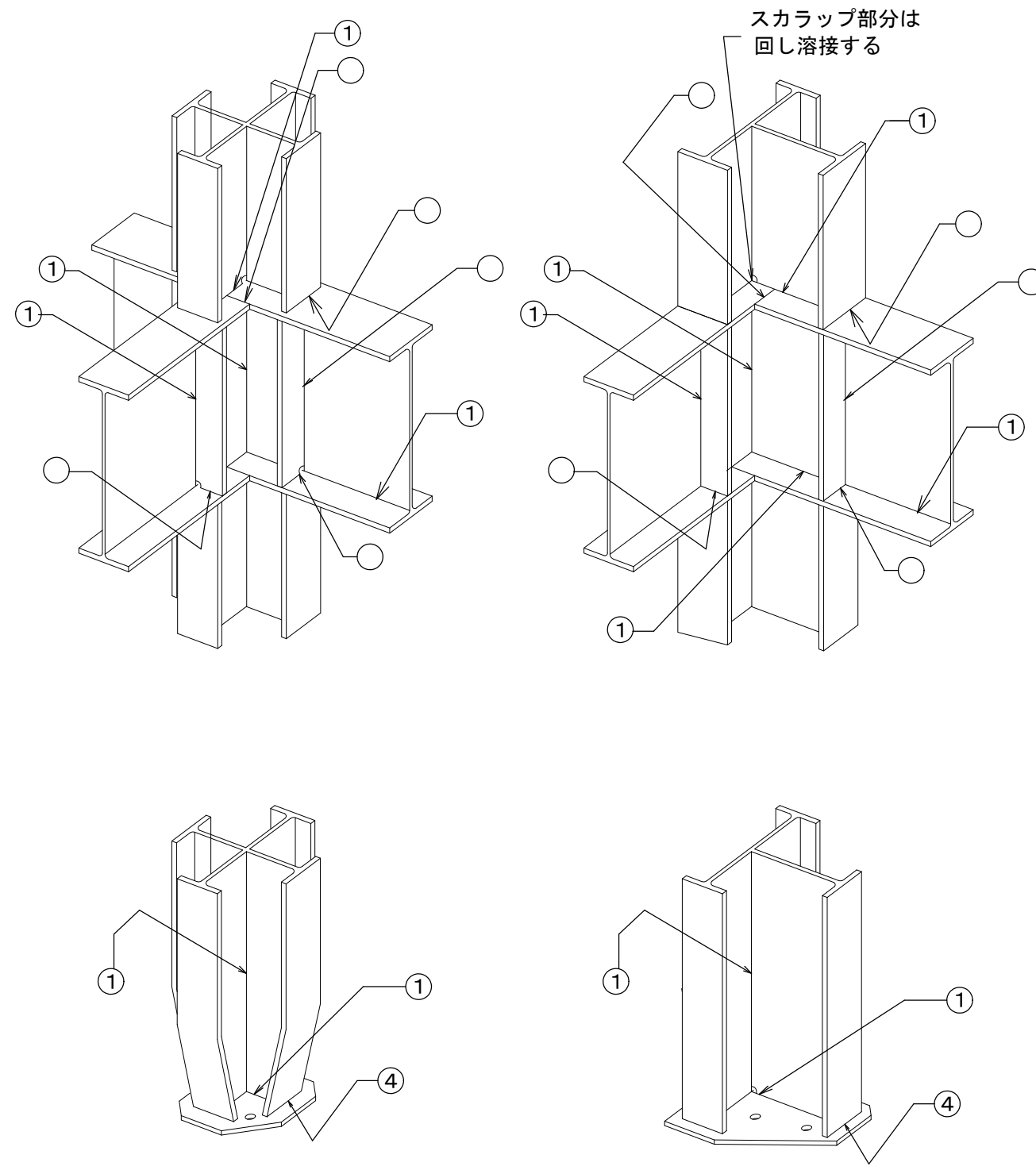
●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



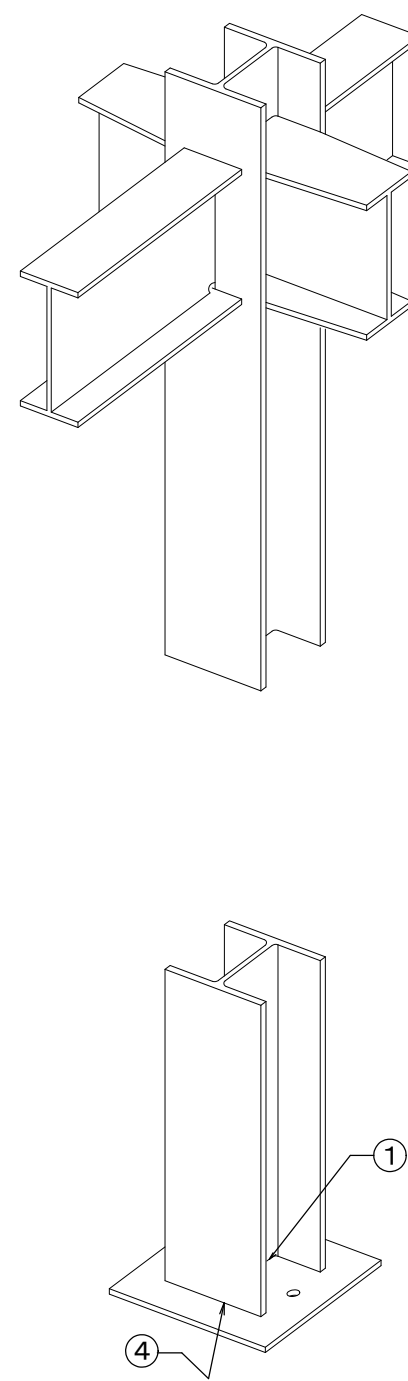
●BH方式



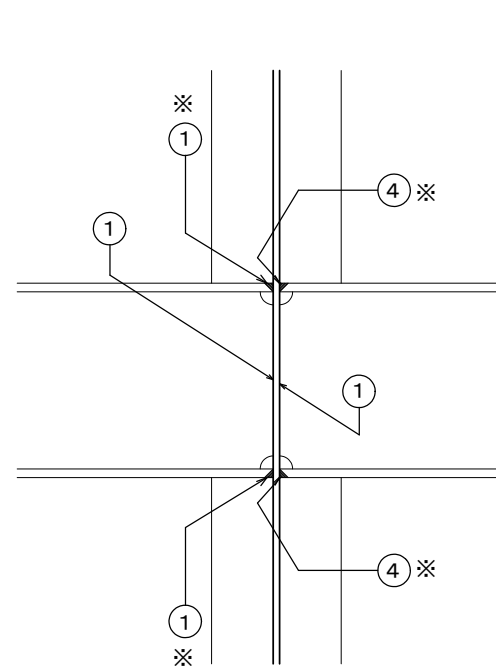
●H型



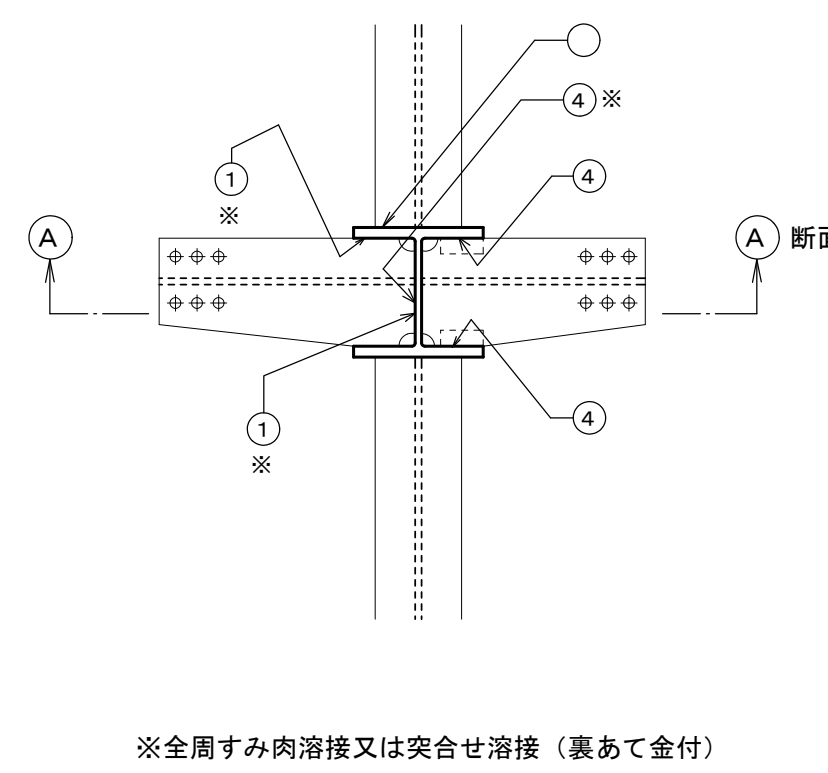
●BH方式



●BH方式



●BH方式



鉄骨構造標準図（２）

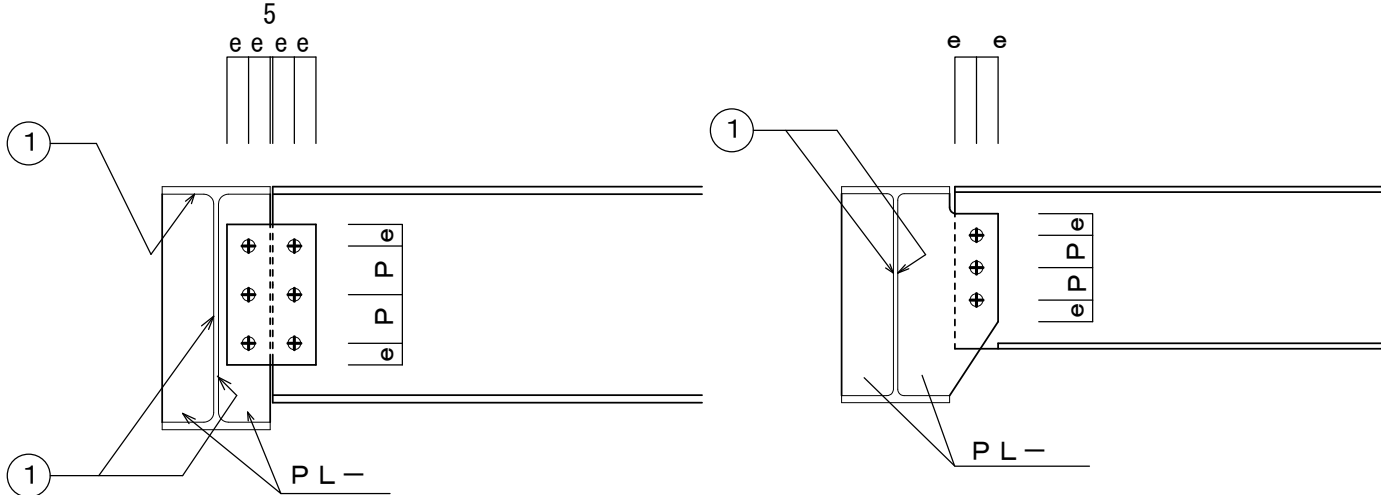
３．継手規準図、その他

（１） ボルトピッチ（P） ボルト穴径・最小縁端距離

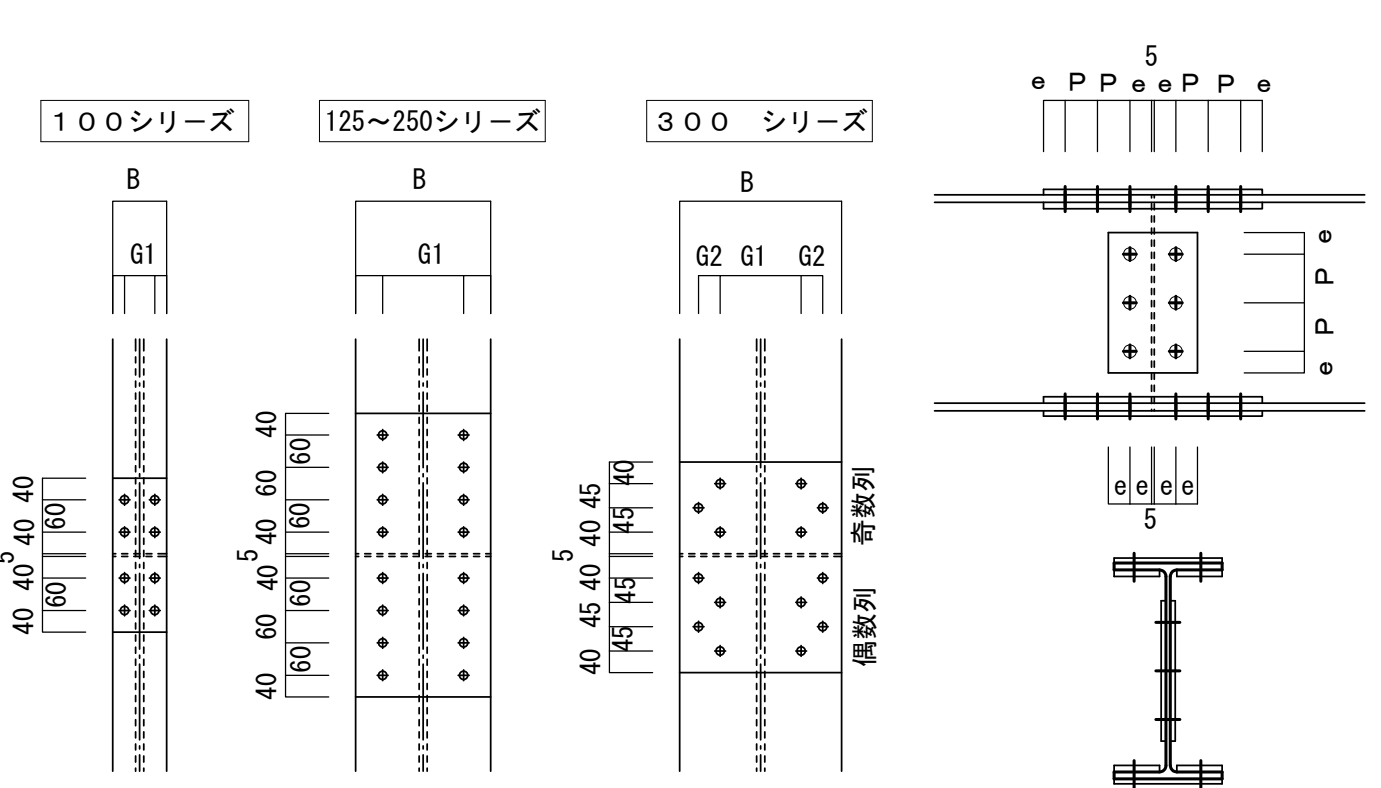
呼 び	ボルト 穴 径	最 小 縁 端 距 離（e）				ピ ッ チ	
		（１）	（２）	（３）	（２）（３）の標準	最 小	標 準
M16	17.0	4.0	2.8	2.2	4.0	4.0	6.0
M20	21.5	5.0	3.4	2.6	4.0	5.0	6.0
M22	23.5	5.5	3.8	2.8	4.0	5.5	6.0
M24	25.5	6.0	4.4	3.0	4.5	6.0	7.0

（注）（１） 引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２） せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３） 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２） 梁ピン接合継手



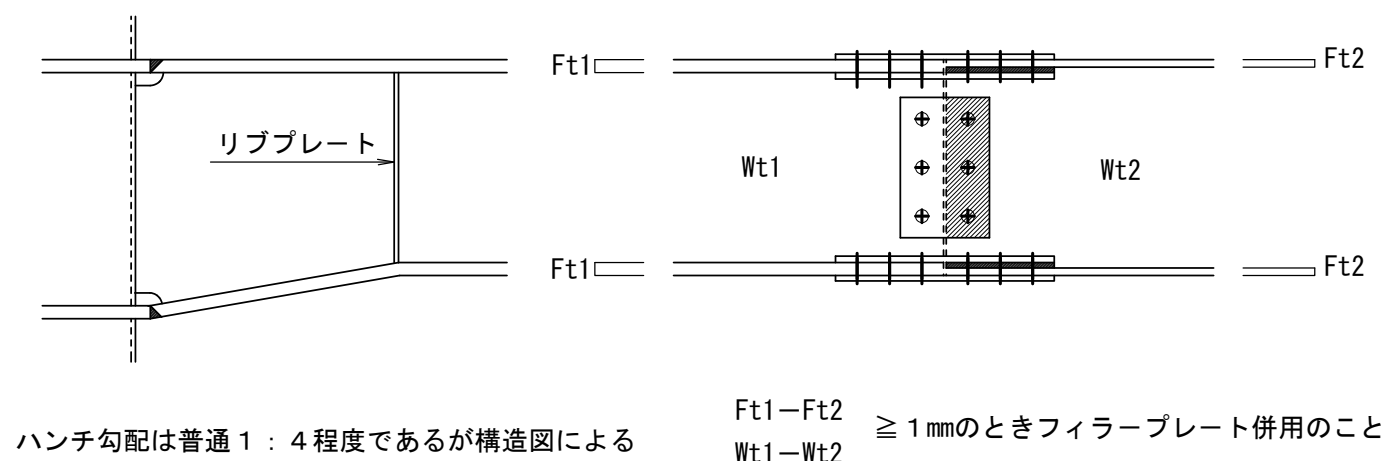
（３） 梁剛接合継手



H形鋼 フランジ幅	高力ボルト使用区分			フランジゲージ		フランジ添板幅		備 考
	M16	M20	M22	G1	G2	外 側	内 側	
100	○	△	△	5.6	10.0	10.0		
125	○	△	△	7.5	12.0	4.5		
150	○	△	△	9.0	14.5	5.5		
175	○	△	△	10.5	17.0	6.5		
200	○	△	△	12.0	19.5	7.0		
250	○	△	△	15.0	24.5	9.5		
300	○	△	△	15.0	4.0	29.5	10.5	千鳥打ち

（４） ハンチ部分継手

フランジ及ウェブ厚の差のある場合

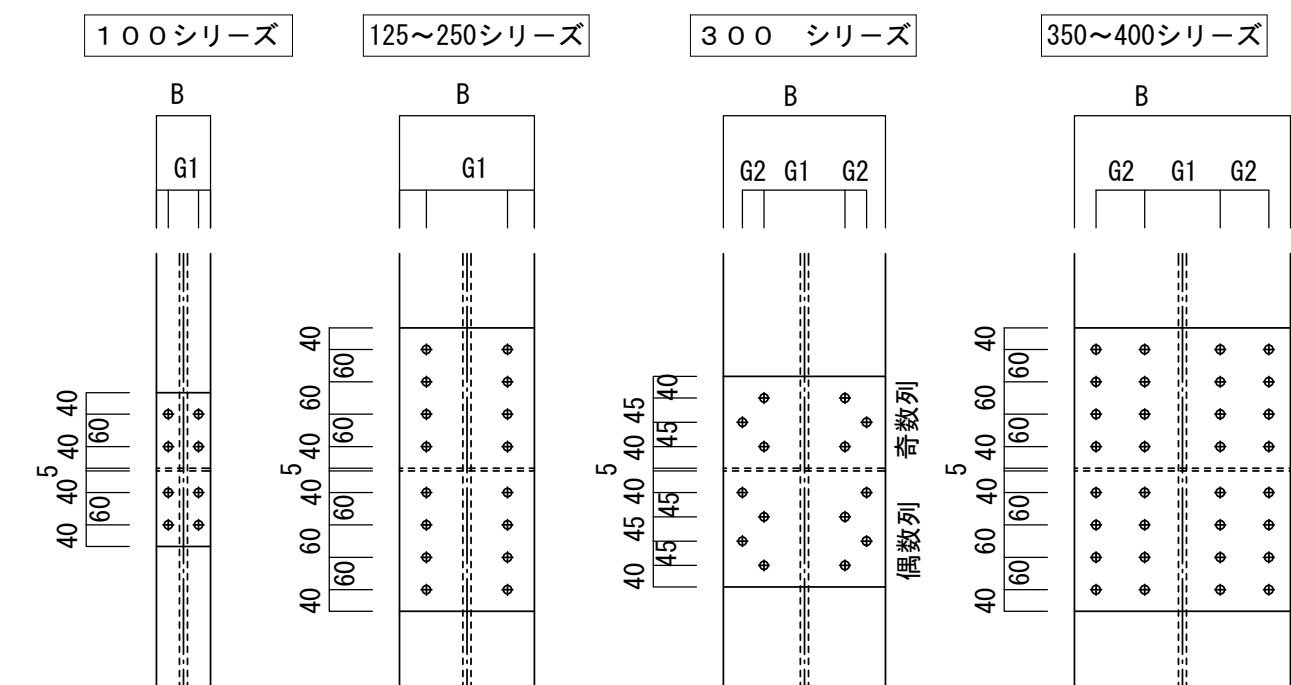


ハンチ勾配は普通 1：4 程度であるが構造図による

Ft1-Ft2 ≥ 1mm のときフィラープレート併用のこと
Wt1-Wt2

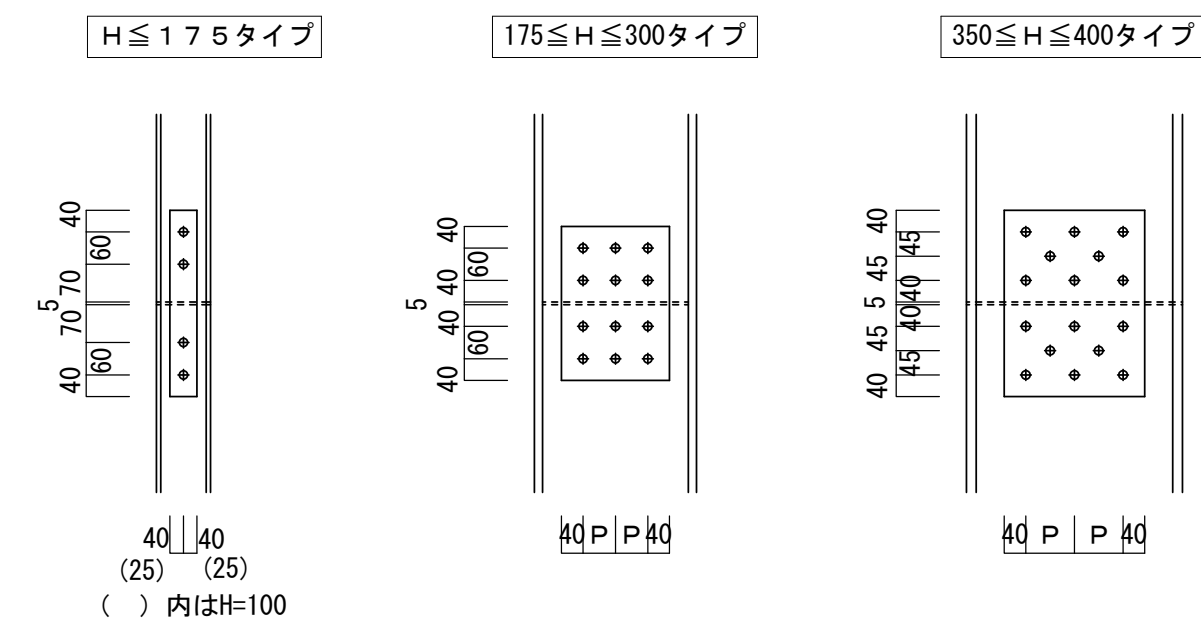
（５） 柱 継 手

a) フランジ継手

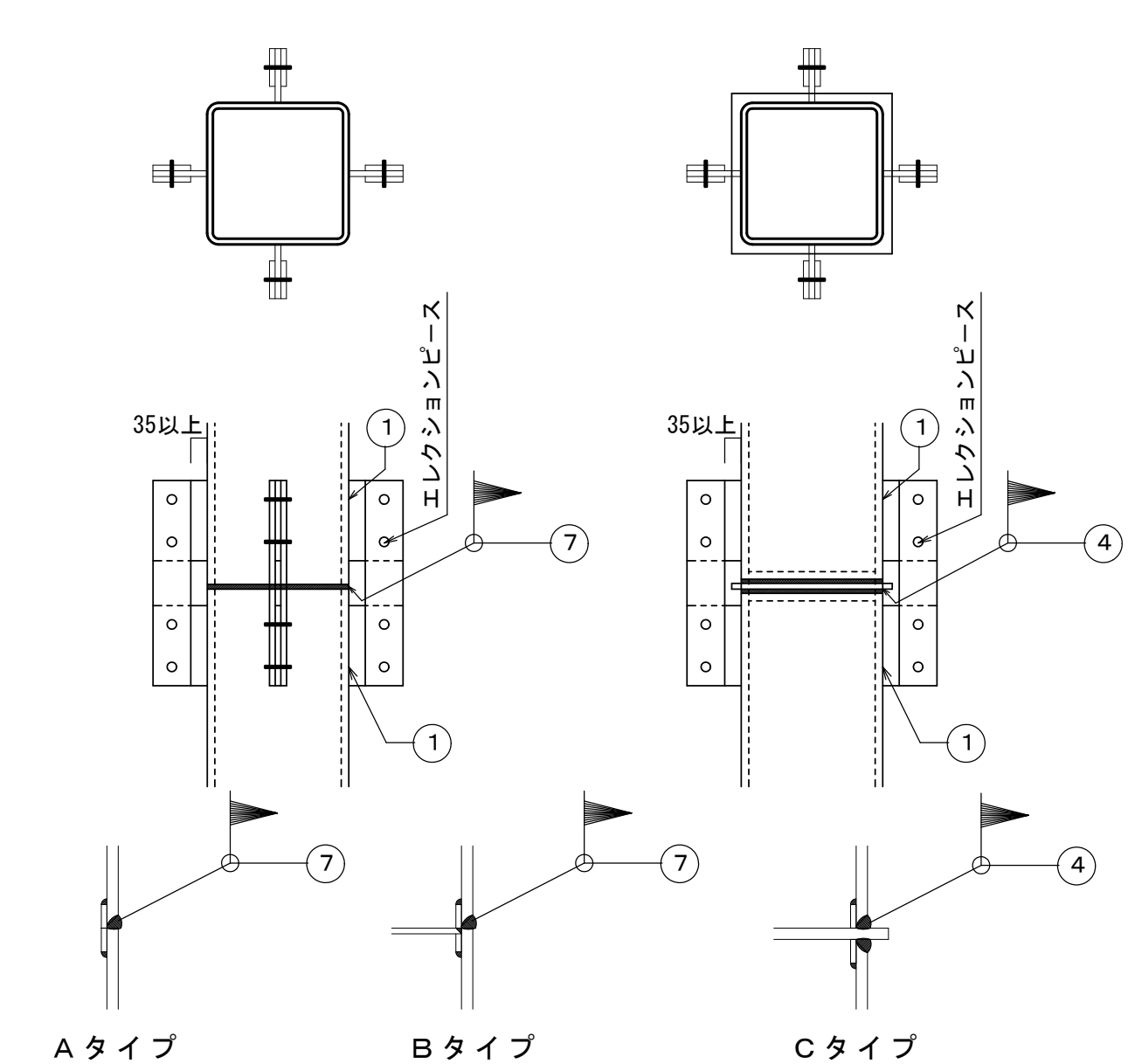


H形鋼 フランジ幅	高力ボルト使用区分			フランジゲージ		フランジ添板幅		備 考
	M16	M20	M22	G1	G2	外 側	内 側	
100	○	△	△	5.6	10.0	10.0		
125	○	△	△	7.5	12.0	4.5		
150	○	△	△	9.0	14.5	5.5		
175	○	△	△	10.5	17.0	6.5		
200	○	△	△	12.0	19.5	7.0		
250	○	△	△	15.0	24.5	9.5		
300	○	△	△	15.0	4.0	29.5	10.5	千鳥打ち
350	○	△	△	14.0	7.0	34.5	13.5	
400	○	△	△	14.0	9.0	39.5	16.5	

a) ウェブ継手



c) 現場溶接継手



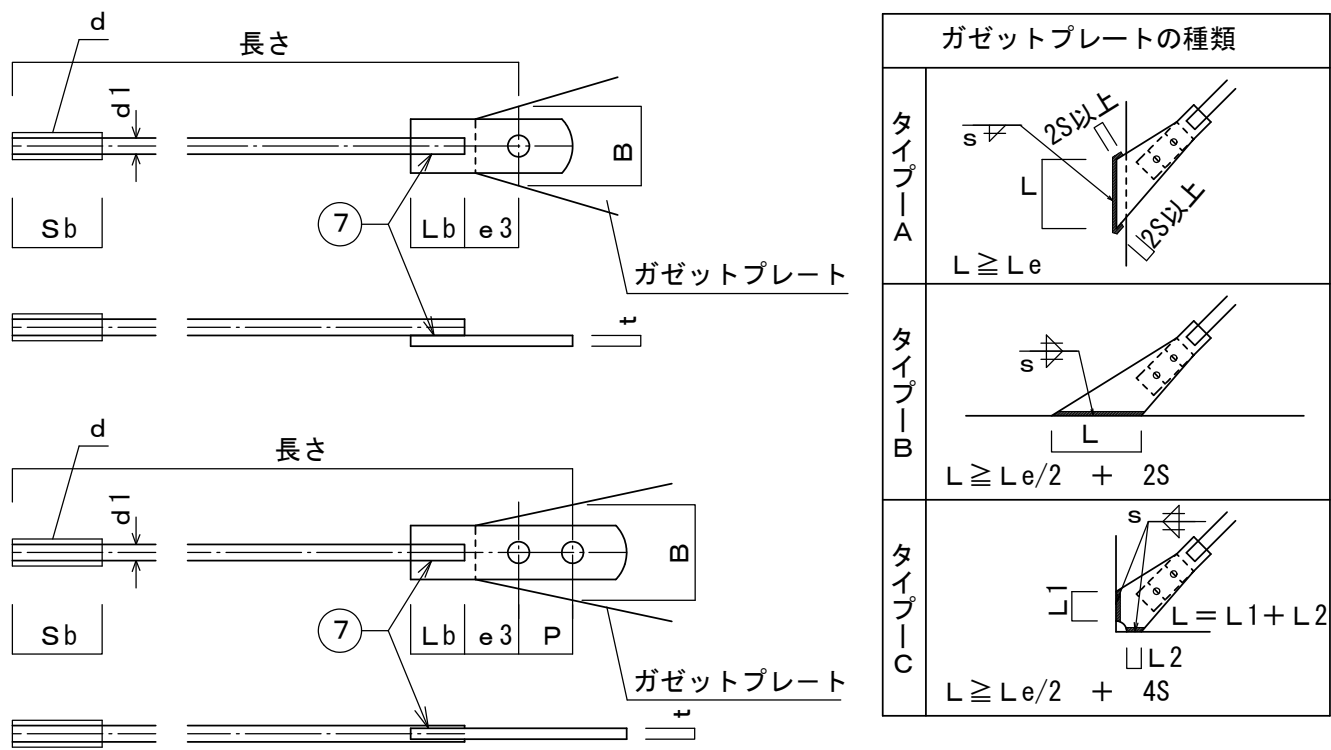
注) Cタイプ使用は柱D=250mm以下とする
注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

（６） 鉄骨ブレス

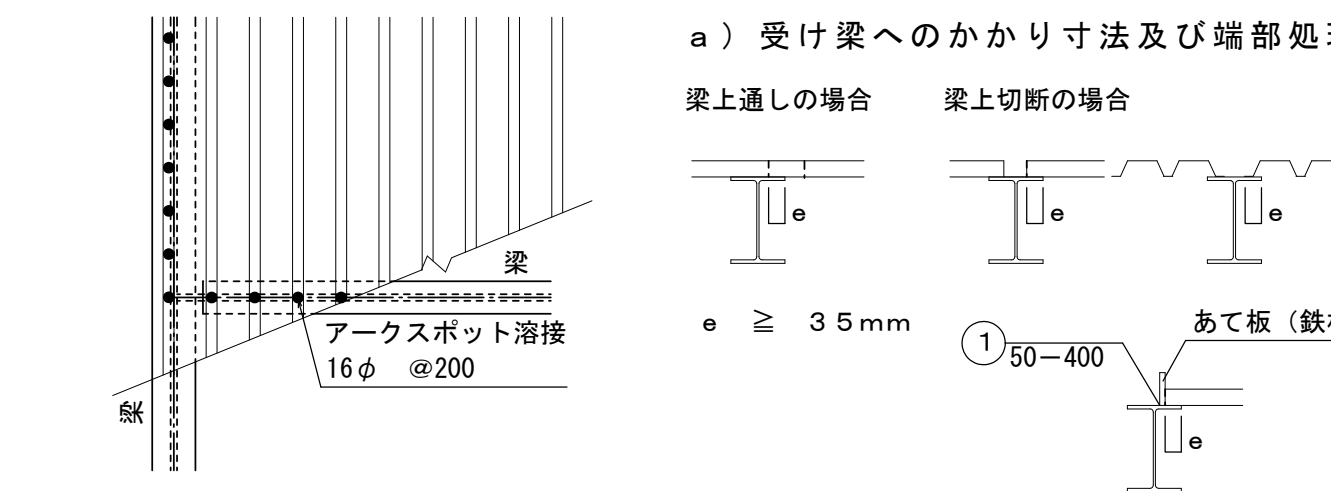
ねじの呼び（d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ Sb		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0.5mm R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）（2）e1		35	40	45	50	50	55	50
切 板 製	へりあき（最小）（1）e2	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平 鋼 製	へりあき（最小）（1）e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト頭から取付ボルト穴心のあき（最小）e3		47	52	59	66	66	73	70
溶 接 長 さ（最小）Lb		40	50	55	60	75	85	85

(2) 取付ボルト	種 類	J I S B 1186 2種高力ボルト（F10T）							
	ね じ の 呼 び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20	
	本 数	1	1	1	1	1	1	2	
ガゼット プレート	厚さ (gt) × 必要幅 (B)	6 × 60	6 × 70	9 × 75	9 × 85	9 × 85	9 × 85	12 × 100	
	ガゼット プレート 溶接長さ	必要溶接長 Le	26mm	36	36	45	56	69	65
		溶接材 JIS	6	6	8	8	8	8	10
		タイプ-A	60	60	80	80	80	80	100
		タイプ-B	42	42	56	56	56	56	70
		タイプ-C	54	54	72	72	72	72	90

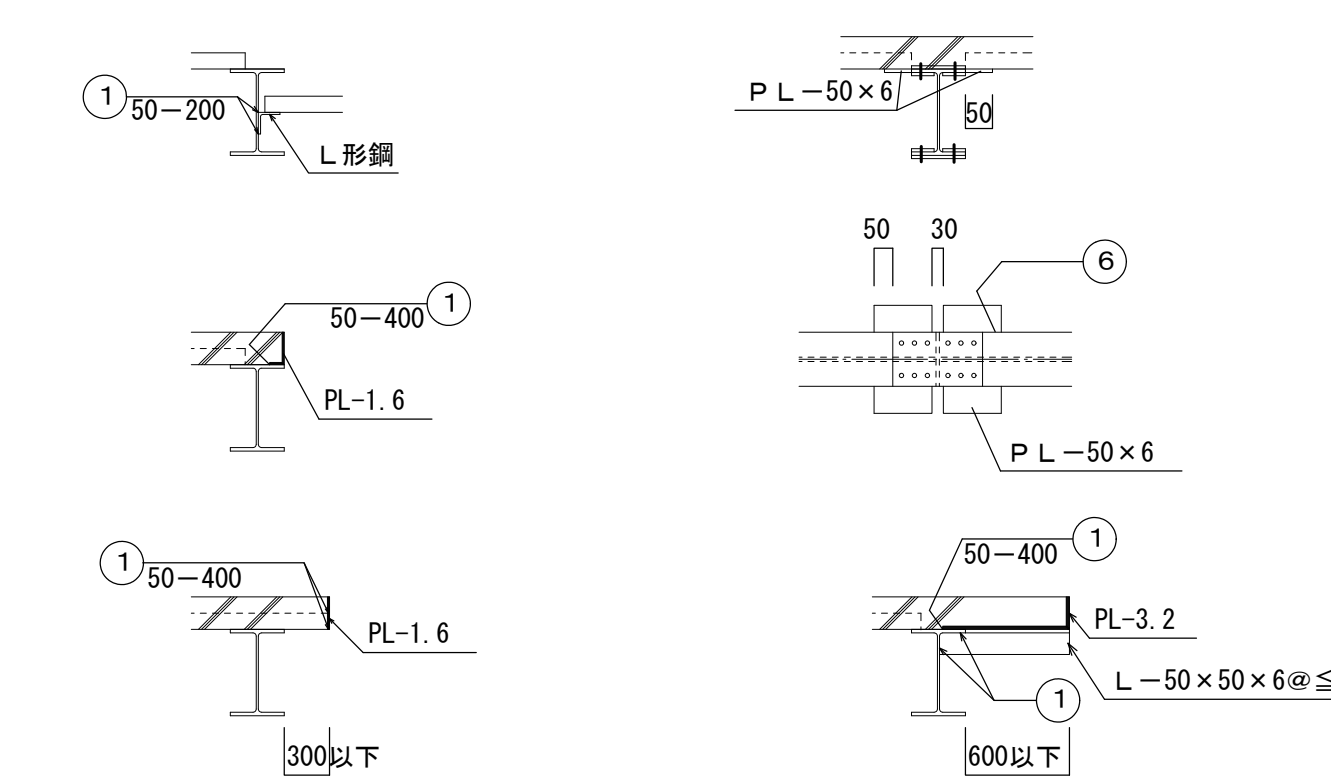
注（１） e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
（２） 羽子板とガゼットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする



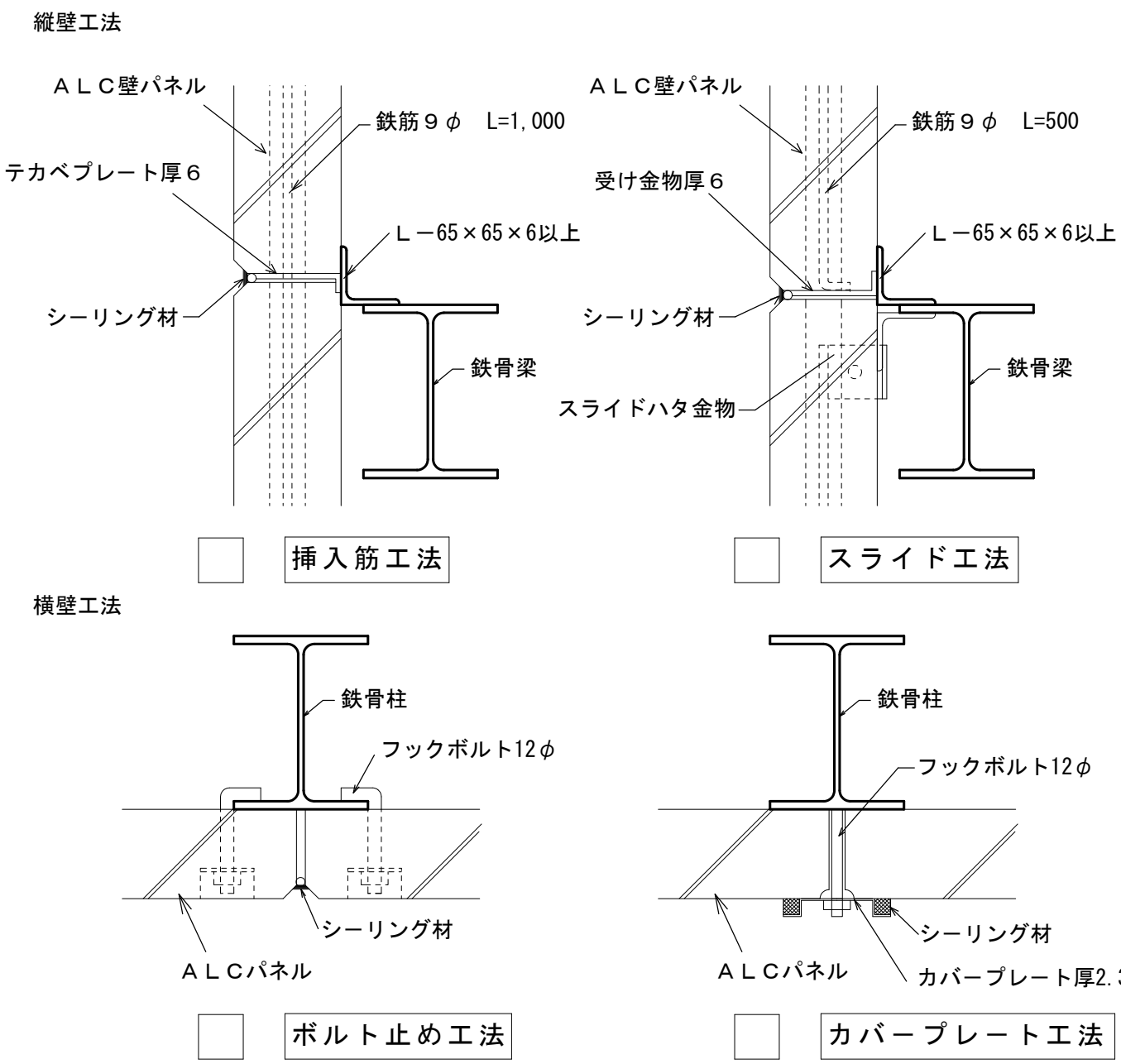
（７） デッキプレート（日鐵スーパーEデッキ、川鉄Q.Lデッキ等については別添付標準図参照）



b) スラブ端部補足材



（８） A L C板取付要領

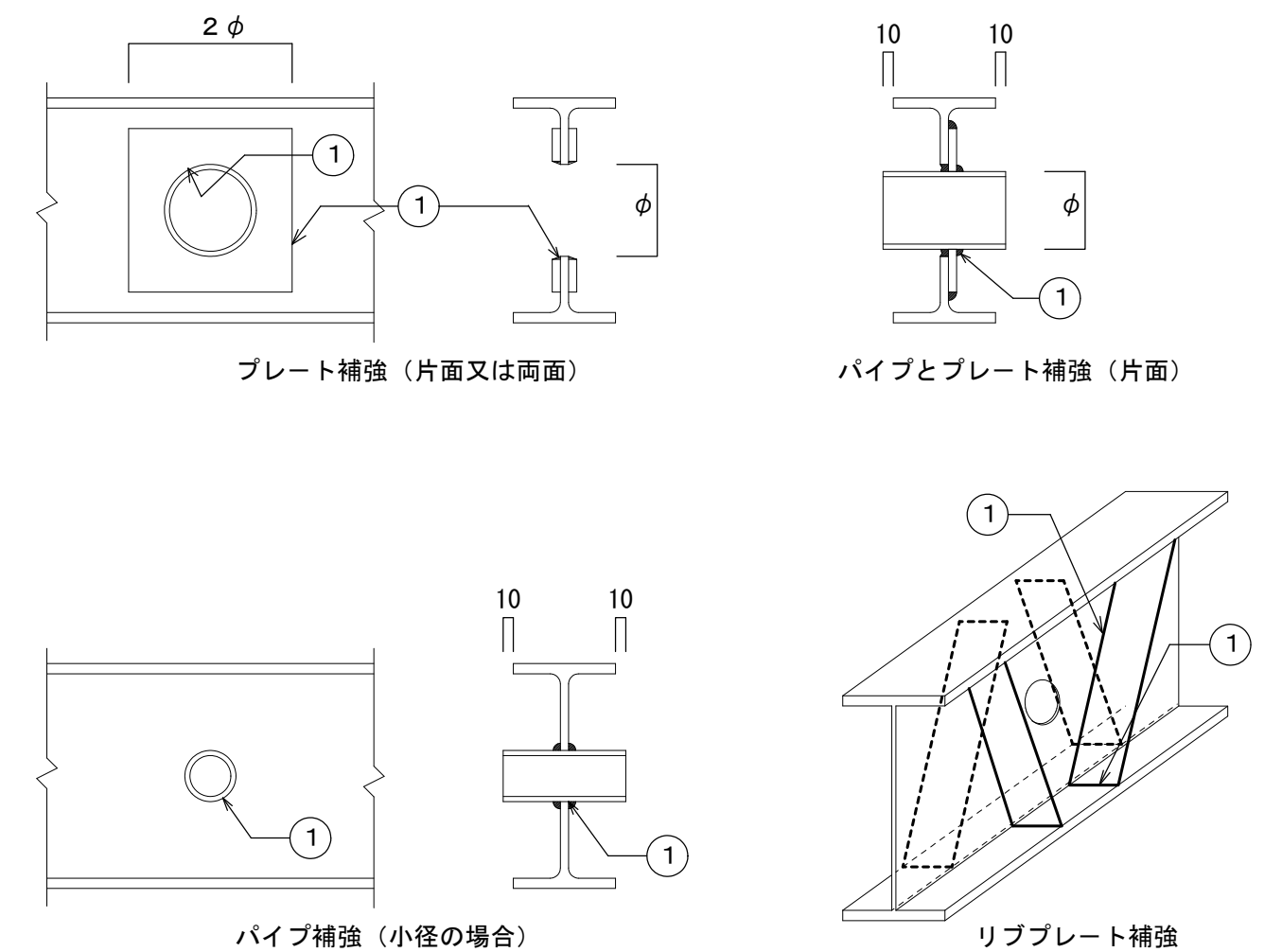


（９） 頭付きスタッド（J I S 1198）

呼び名	ス タ ュ ッ ド 材			
	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150

（１０） 梁貫通補強

●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
●梁端部（スパンのL/10以内かつ2D以内）は避ける
●φ≤0.4D



壁式鉄筋コンクリート配筋標準図（１）

１．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
d：異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D：部材の成 R：直径
@：間隔 r：半径 CL：中心線 L0：部材間の内法距離 h0：部材間の内法高さ
ST：あばら筋 HOOP：帯筋 S、HOOP：補強帯筋 ϕ：直径

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・帯筋の末端部、またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4 d 以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

折曲げ寸法Rは、SR235は3 d 以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3 d 以上、D19以上は4 d 以上

※片持ちスラブ上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による 区分	鉄筋の折曲げ 内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	3 d 以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	D16 D19~D25	4 d 以上 6 d 以上

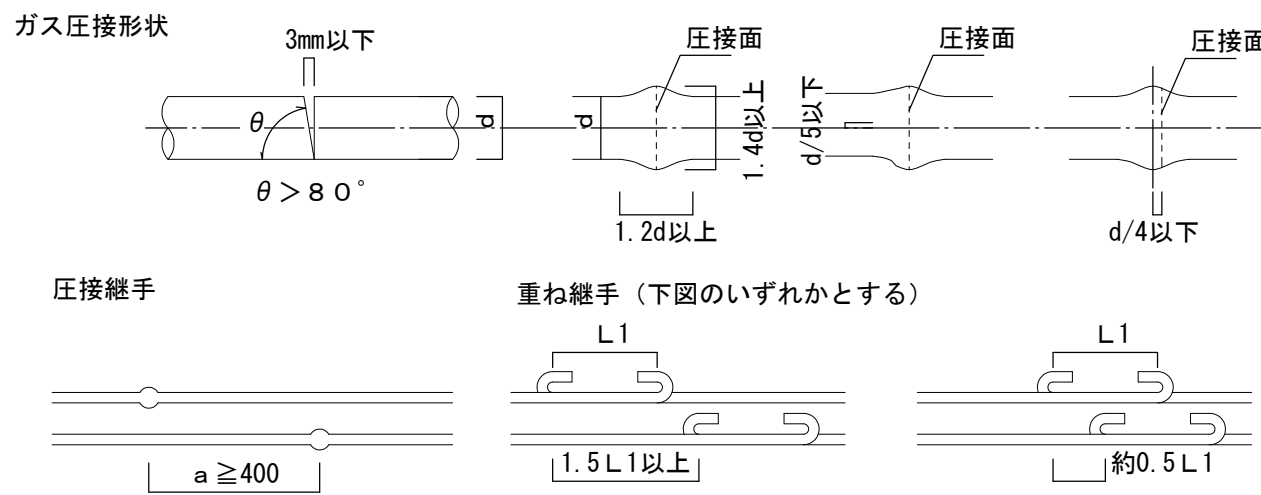
(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (kg/cm ²)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下ば筋 (L3)		
			小 梁	スラブ	
S D 295A S D 295B S D 345	210 225 240 180	35 d または 25 d フックつき 40 d または 30 d フックつき	25 d または 15 d フックつき	10 d かつ 15 cm 以上	40 d または 30 d フックつき 45 d または 35 d フックつき

コンクリートは普通 Fc=180kg/cm²以上240kg/cm²以下、軽量 Fc=180kg/cm²以上225kg/cm²以下

継 手

1. 末端フックは、定着及び重ね継ぎ手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継ぎ手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。



(4) かぶり厚さ(単位:mm)

構 造 部 分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ **・非耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	40	50
基礎つなぎ梁	60	70
基 礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

* 耐久性上有効な仕上がりがない場合は、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

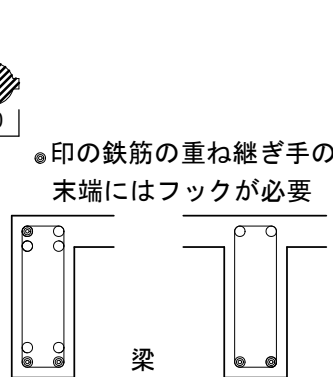
** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照]

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上 異形鉄筋 間隔
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出隅部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

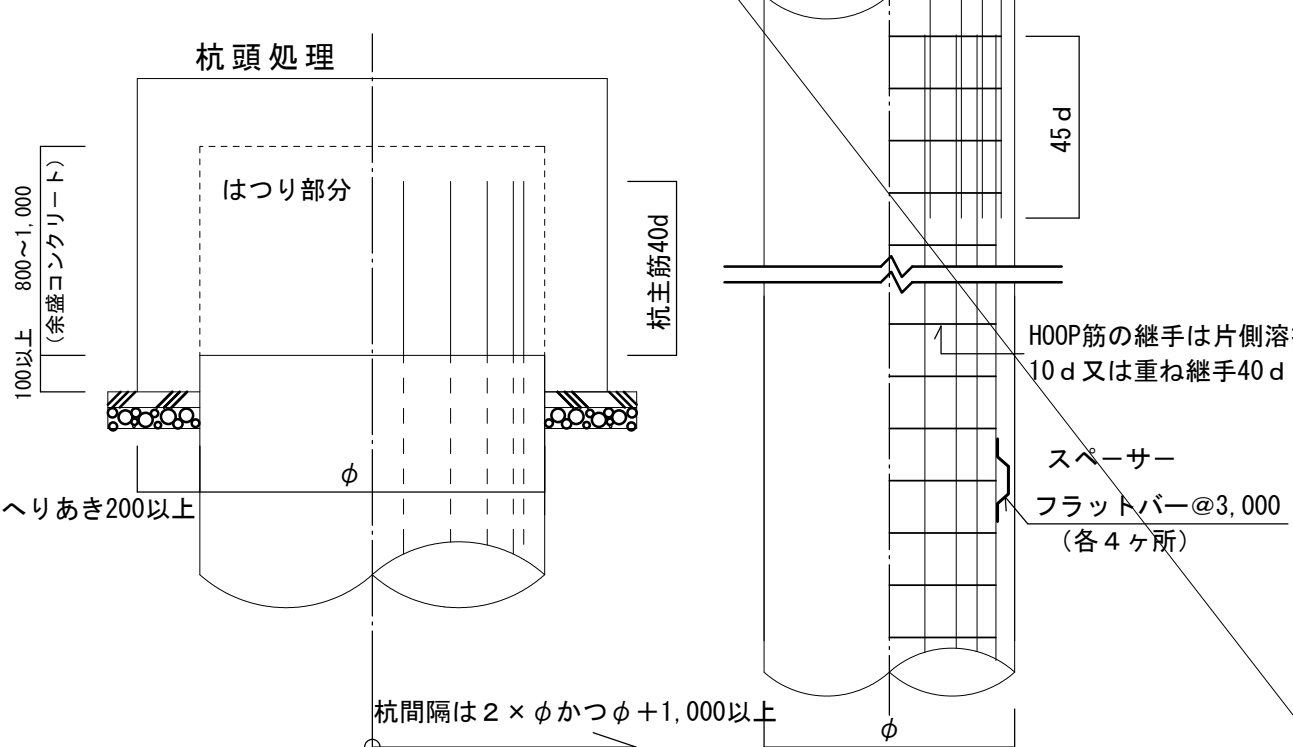


３．杭 (設計図書に記載なき場合は監理者と協議の上、下図にとり施工すること。)

(1) PHC杭の全てに補強を行う

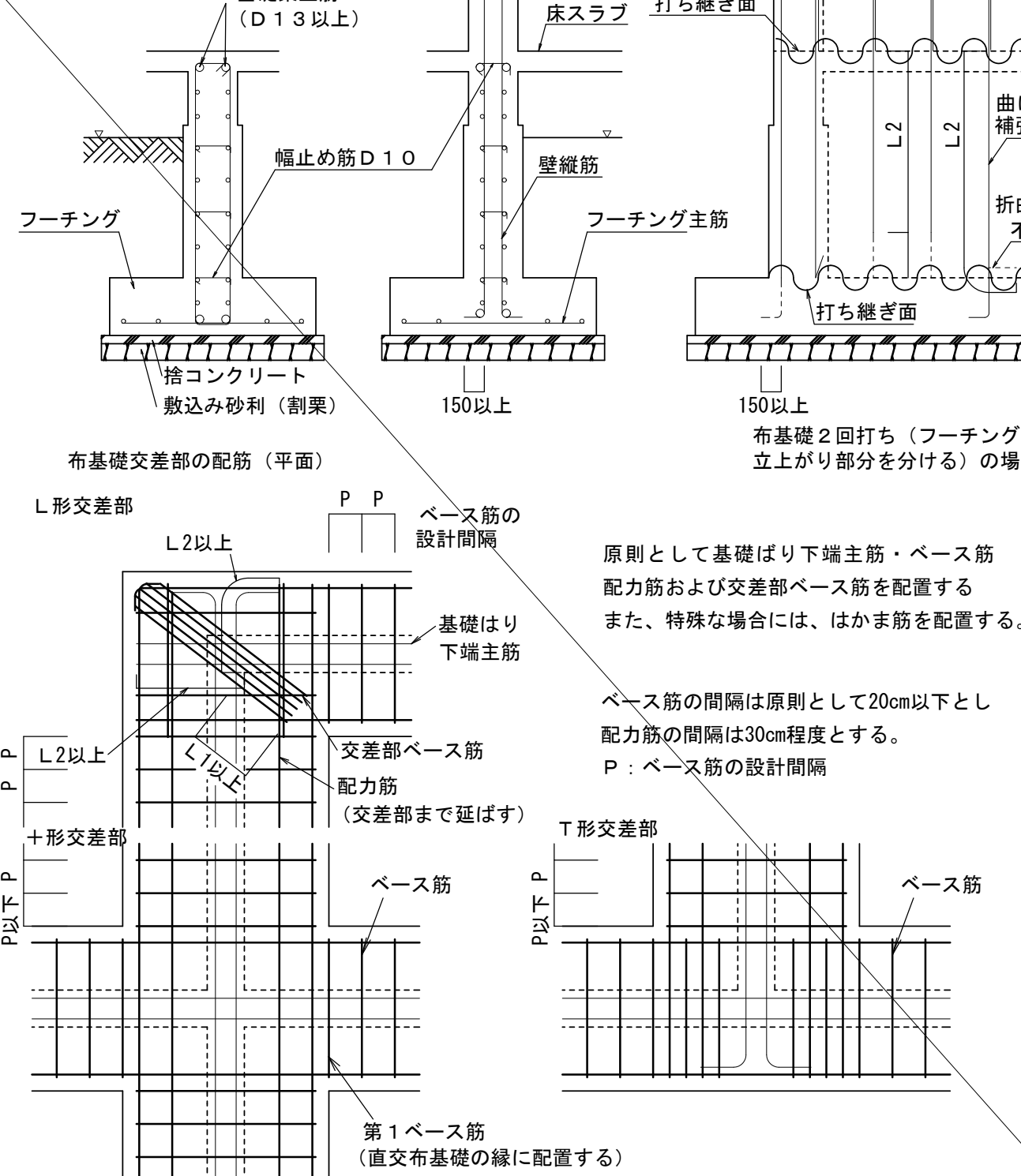
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合			
杭 径	300 φ、350 φ	400 φ	450 φ	500 φ	600 φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
H O O P	D 1 0 @ 1 5 0				

(2) 現場打ちコンクリート杭

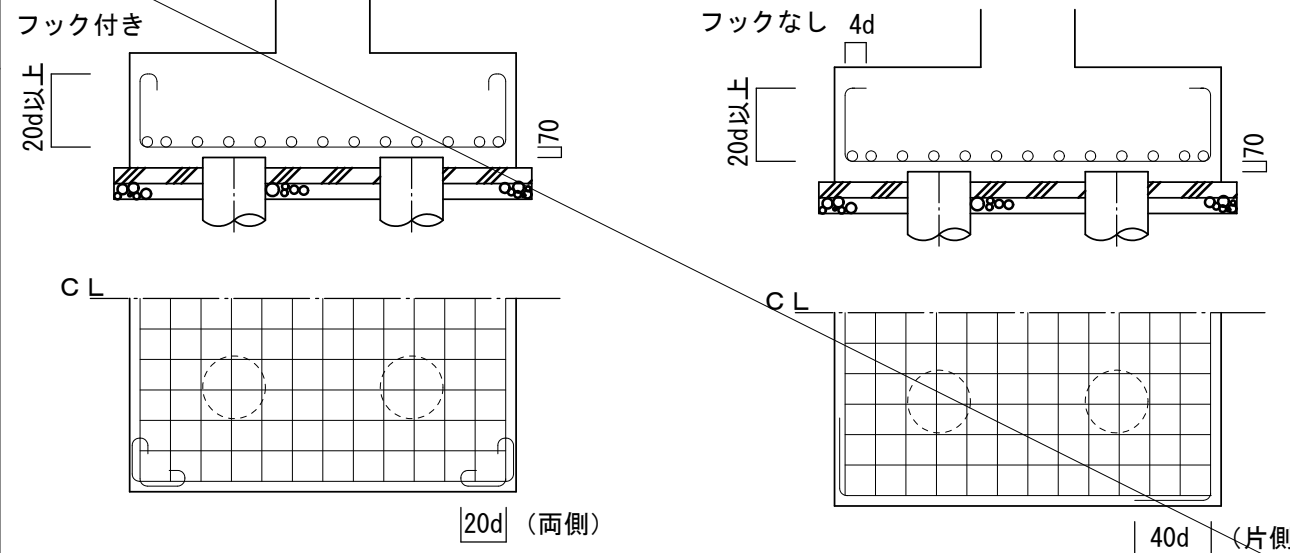


４．基礎

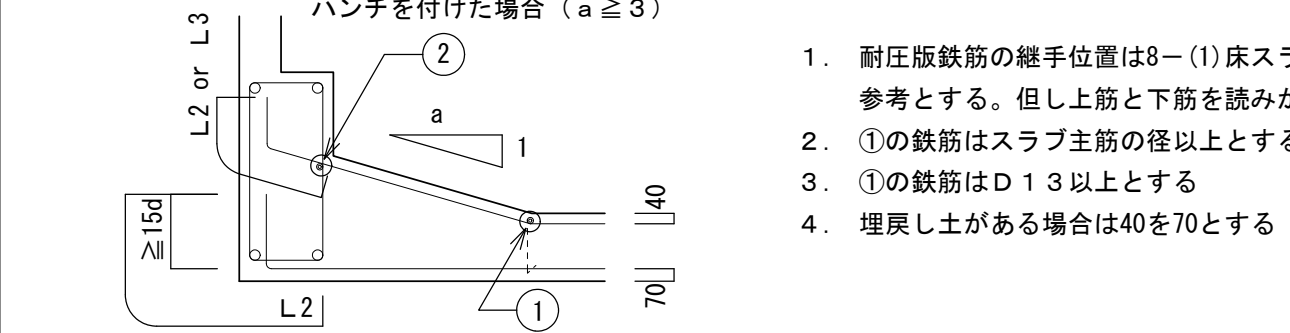
(1) 布基礎



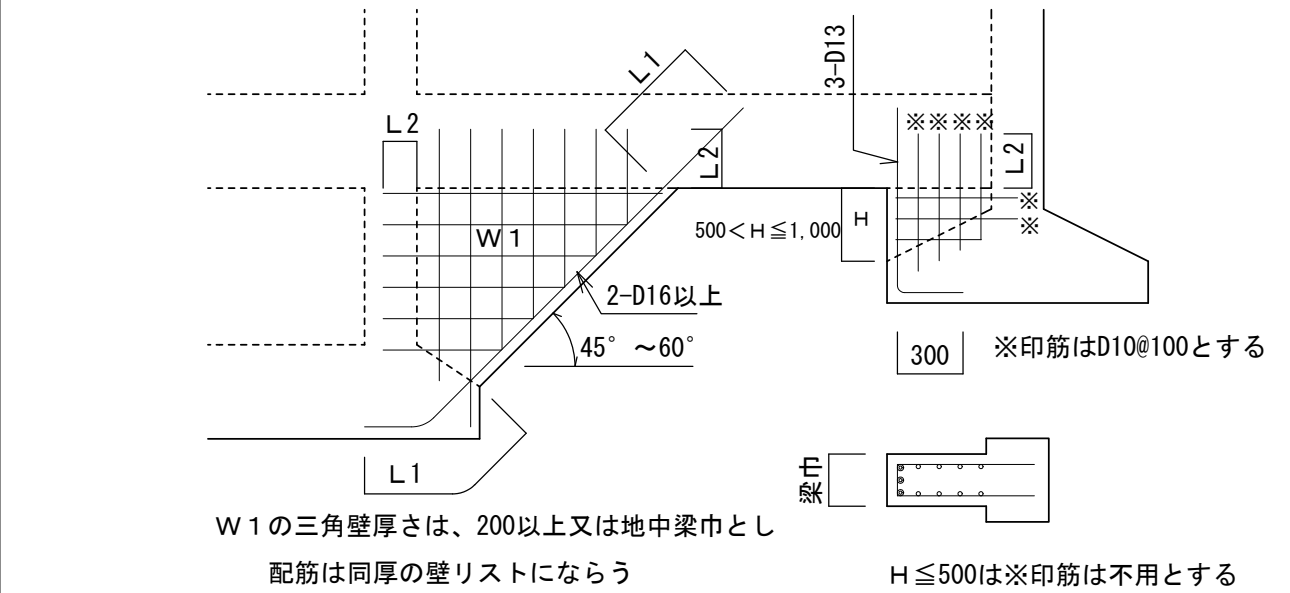
(2) 杭基礎



(3) ペタ基礎

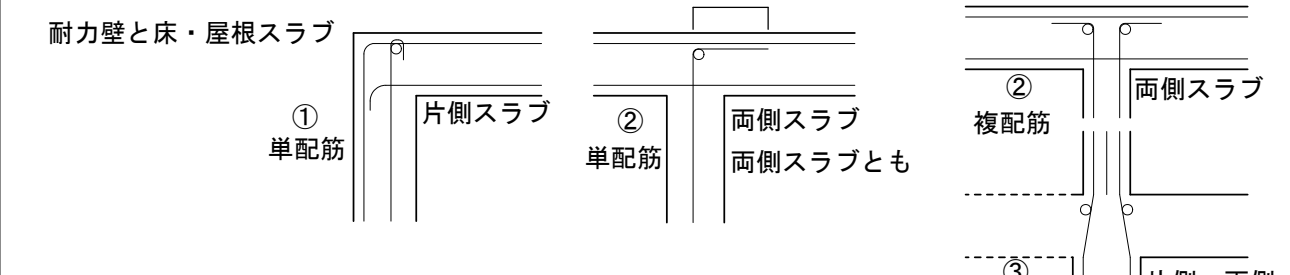
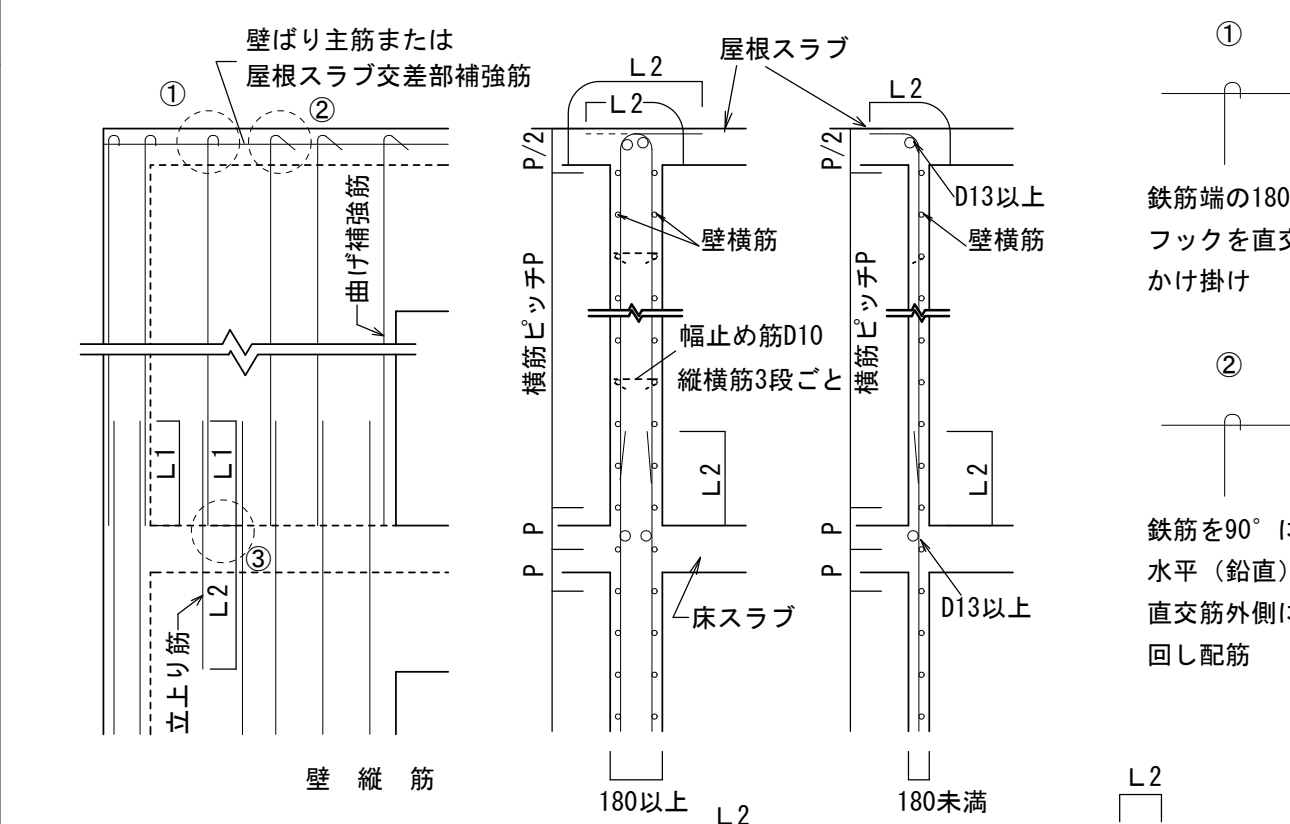


(4) 基礎接合部の補強

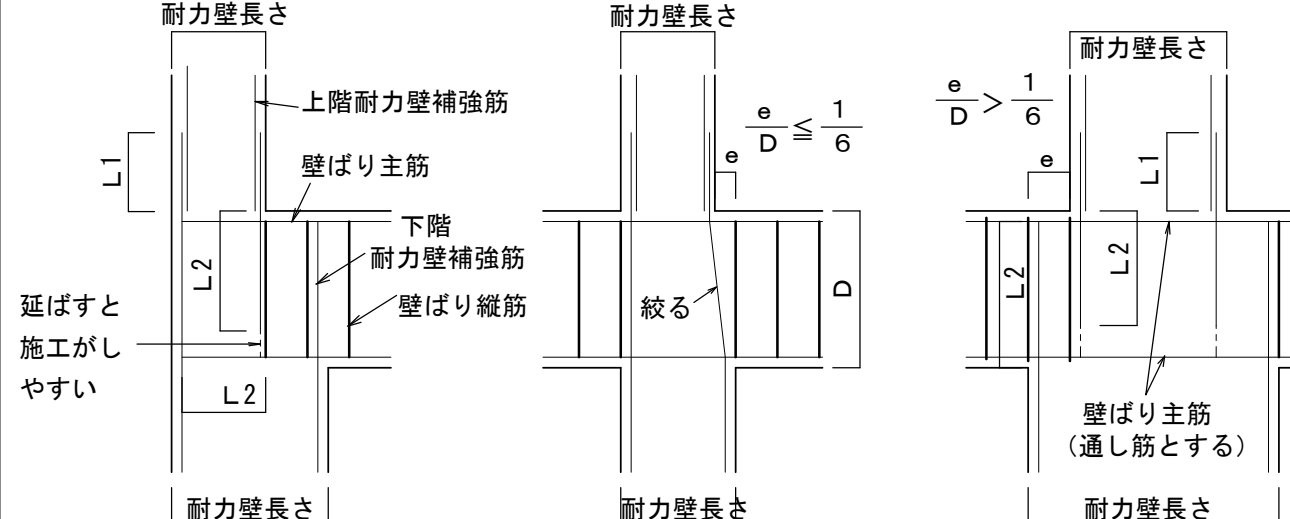


５．耐力壁

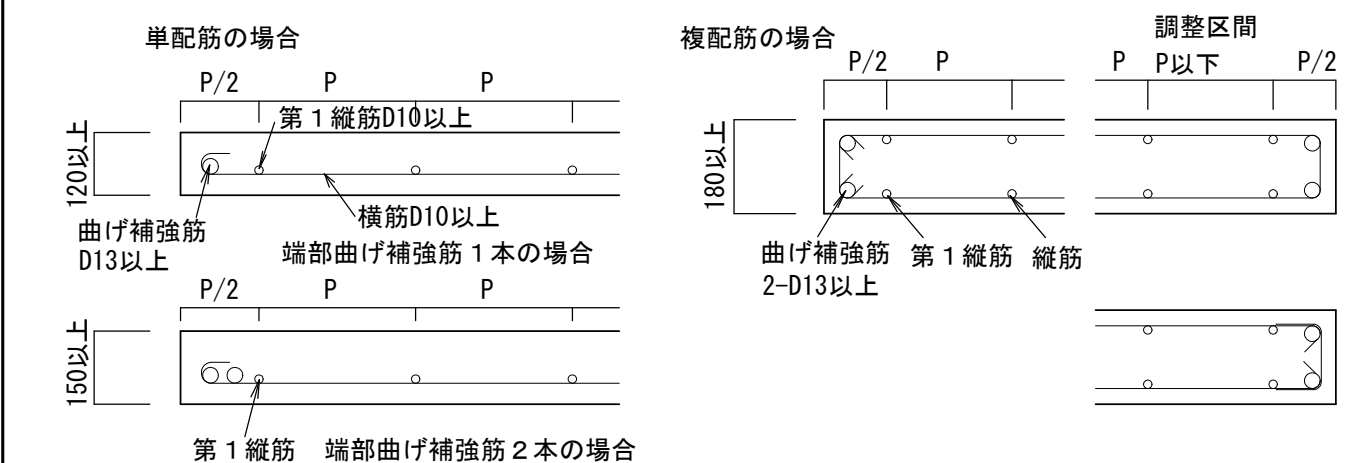
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



(2) 上・下階耐力壁の各種配筋



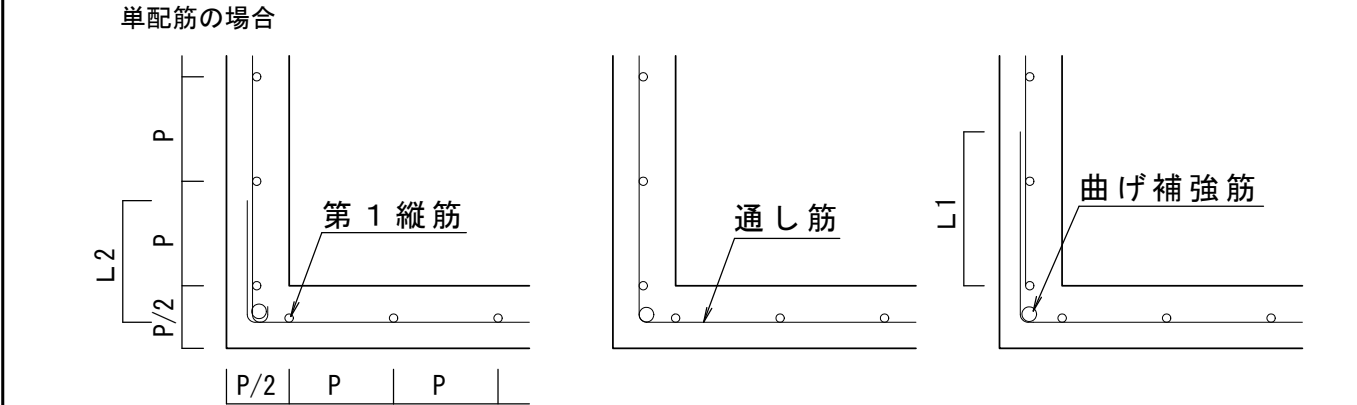
(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



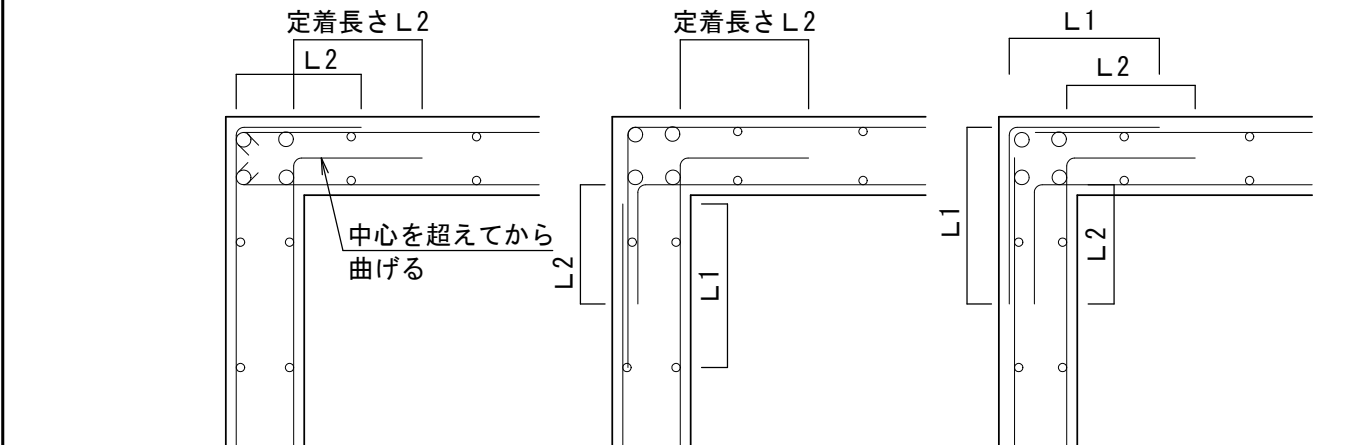
注) 壁長1500以下の横筋はHOOP状に加工すること。

(4) 耐力壁が交差する場合(平面)

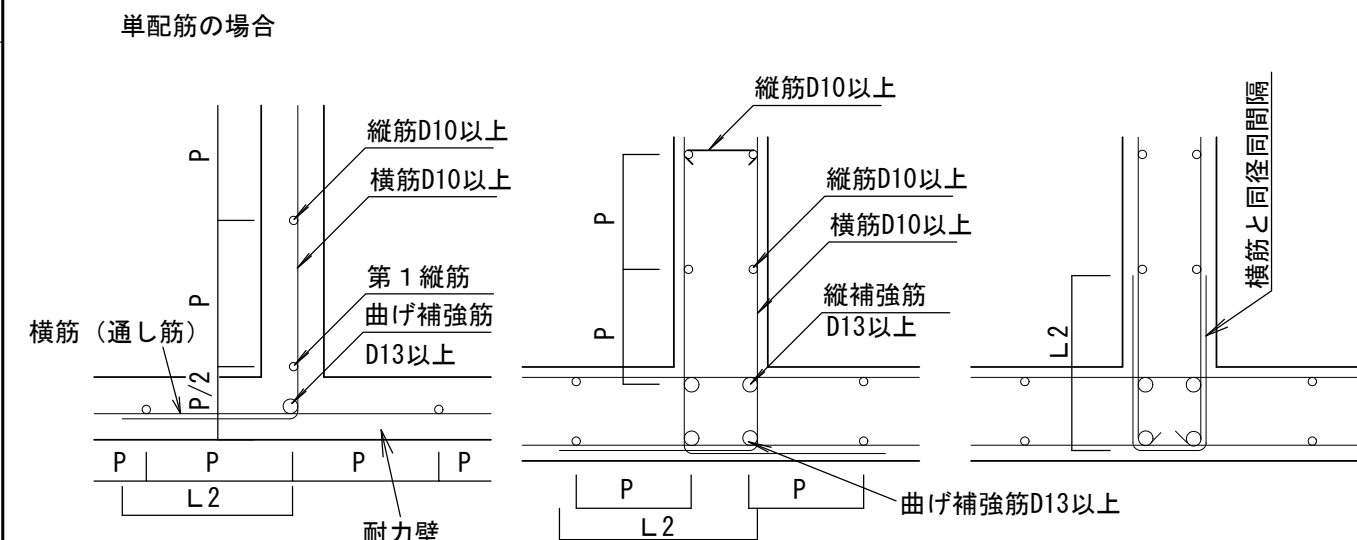
① L形交差部の縦・横筋などの配置



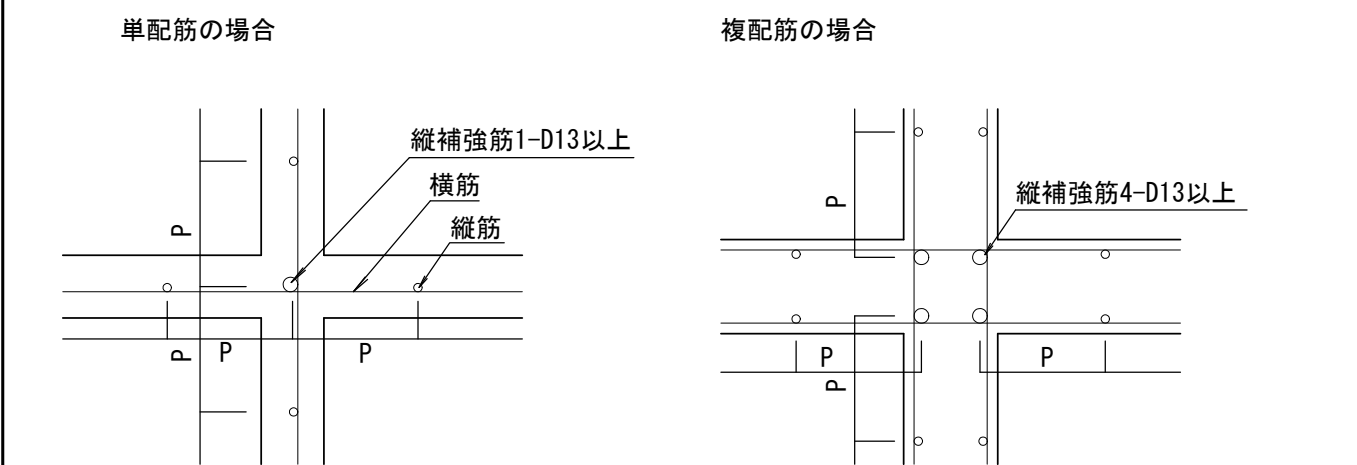
② T形交差部の縦・横筋などの配置



③ 十形交差部の縦・横筋などの配置



④ 耐力壁の縦筋・横筋の配置



６．使用可能な鉄筋の最大径(標準)

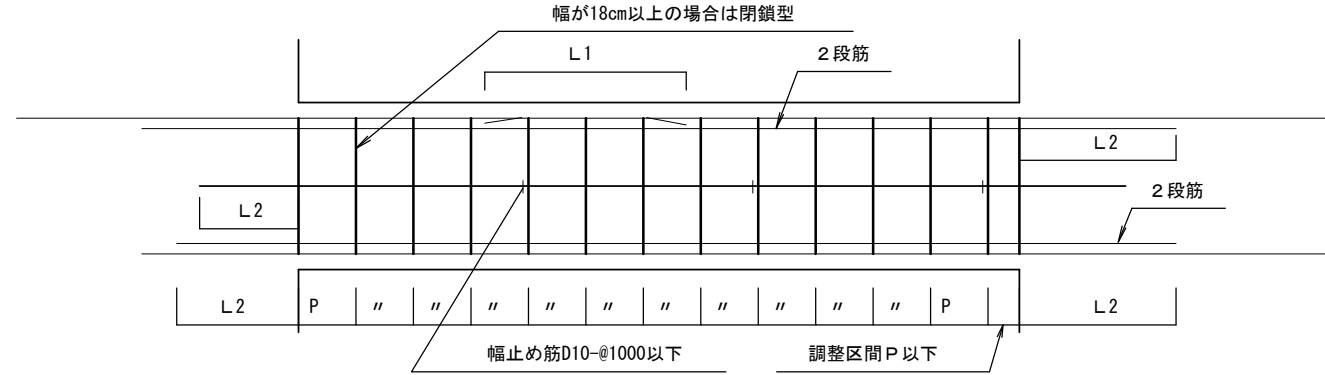
部 位	耐力 壁	壁 がりよう 小 梁	布 基 礎 基 礎 梁	ス ラ ブ	非 耐 力 壁	塀
壁式鉄筋 コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16



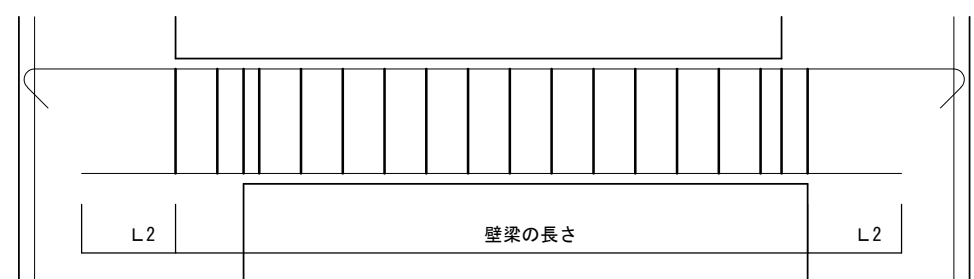
壁式鉄筋コンクリート配筋標準図（２）

7. 壁梁、小梁

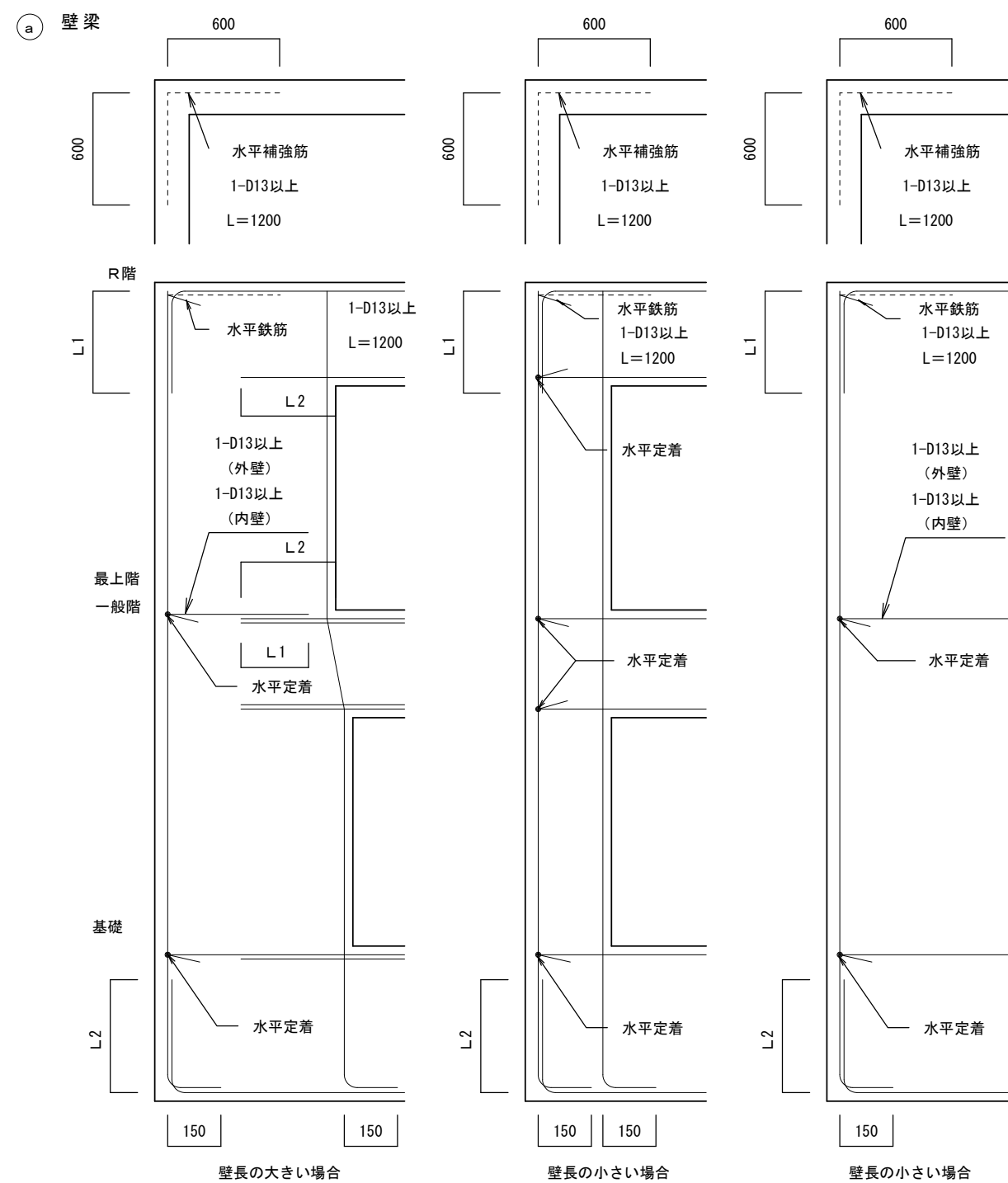
(1) 壁梁の標準配筋図



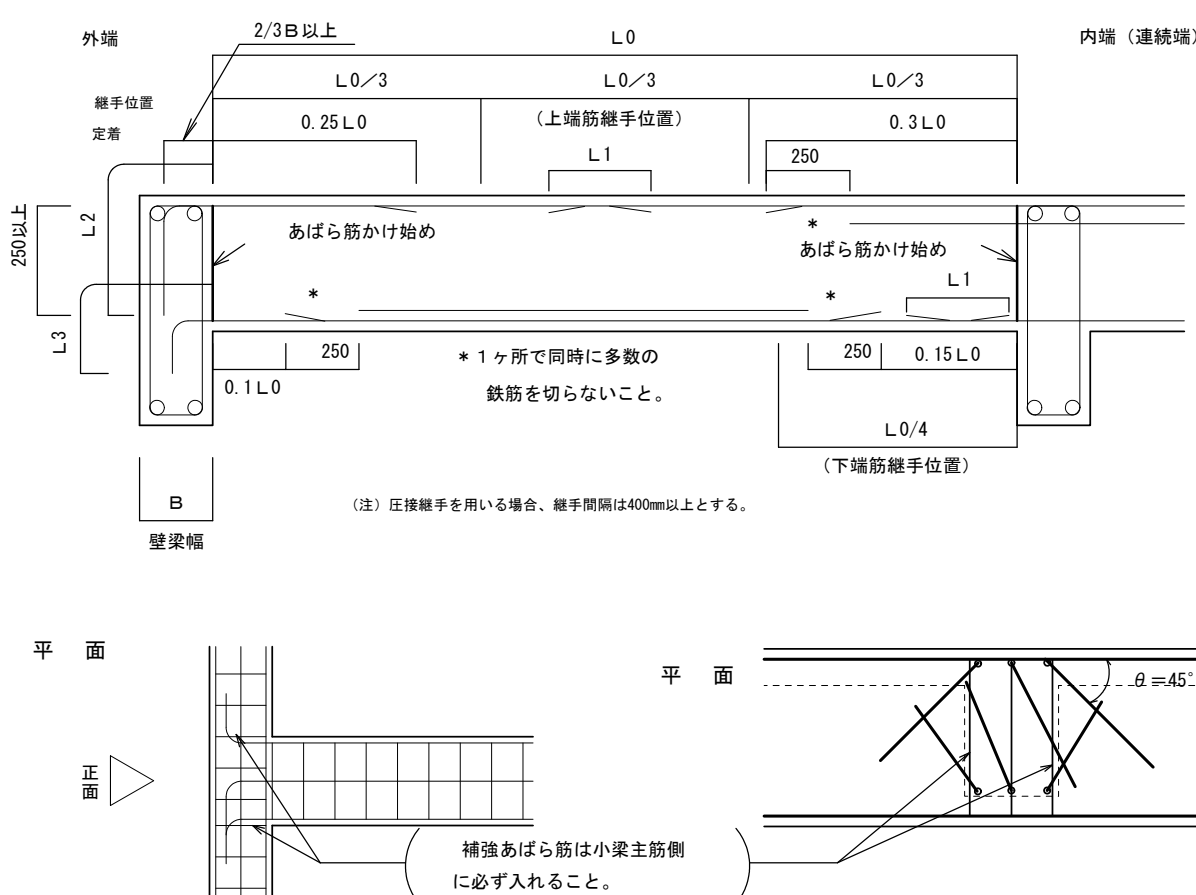
(2) 壁梁の範囲



(3) 定着

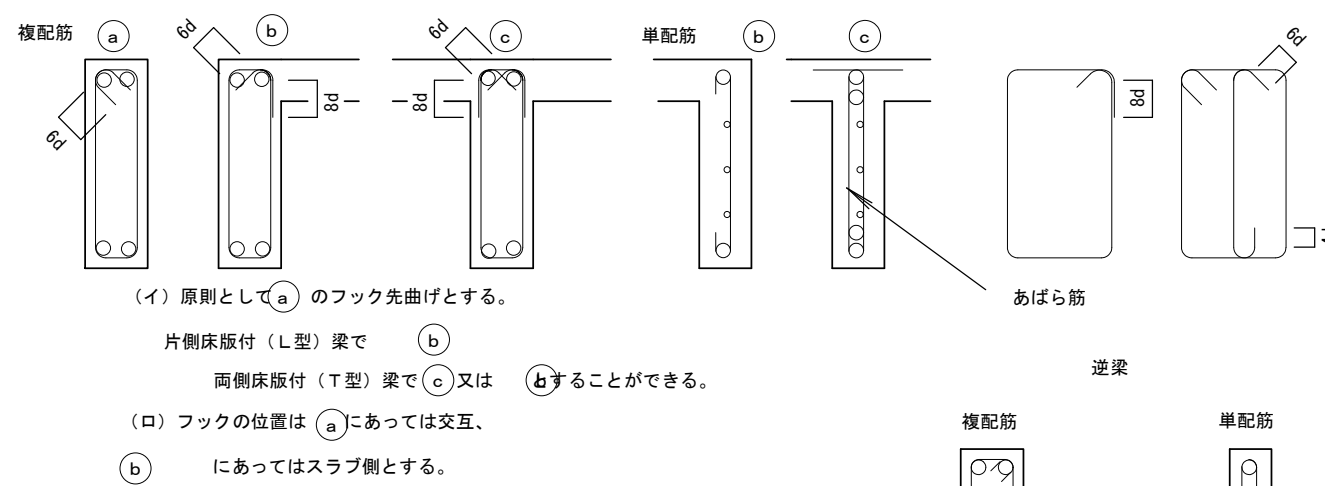


(d) 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ

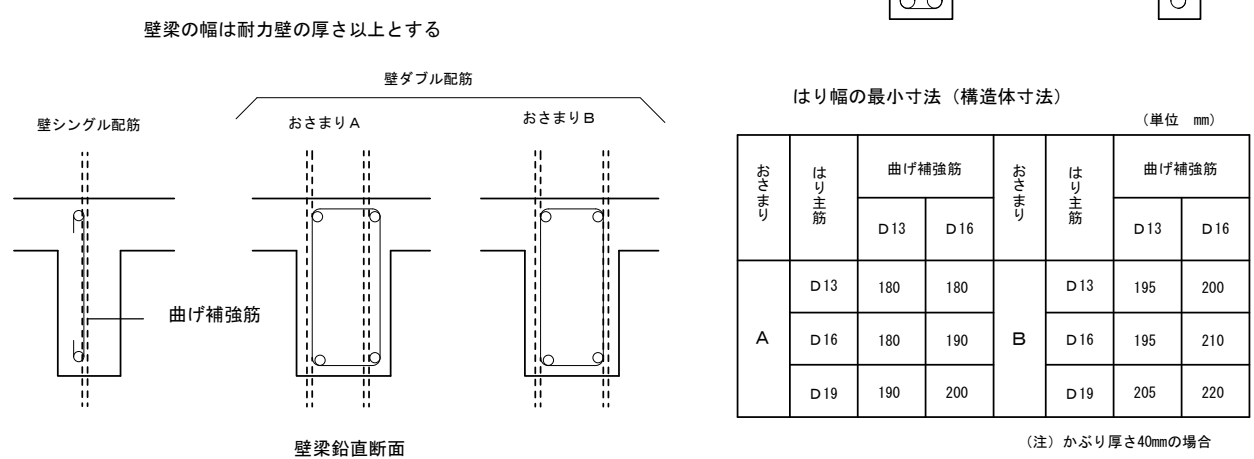


L=鉄筋コンクリート構造
標準図(1)の2-(3)による。

(4) あばら筋の型

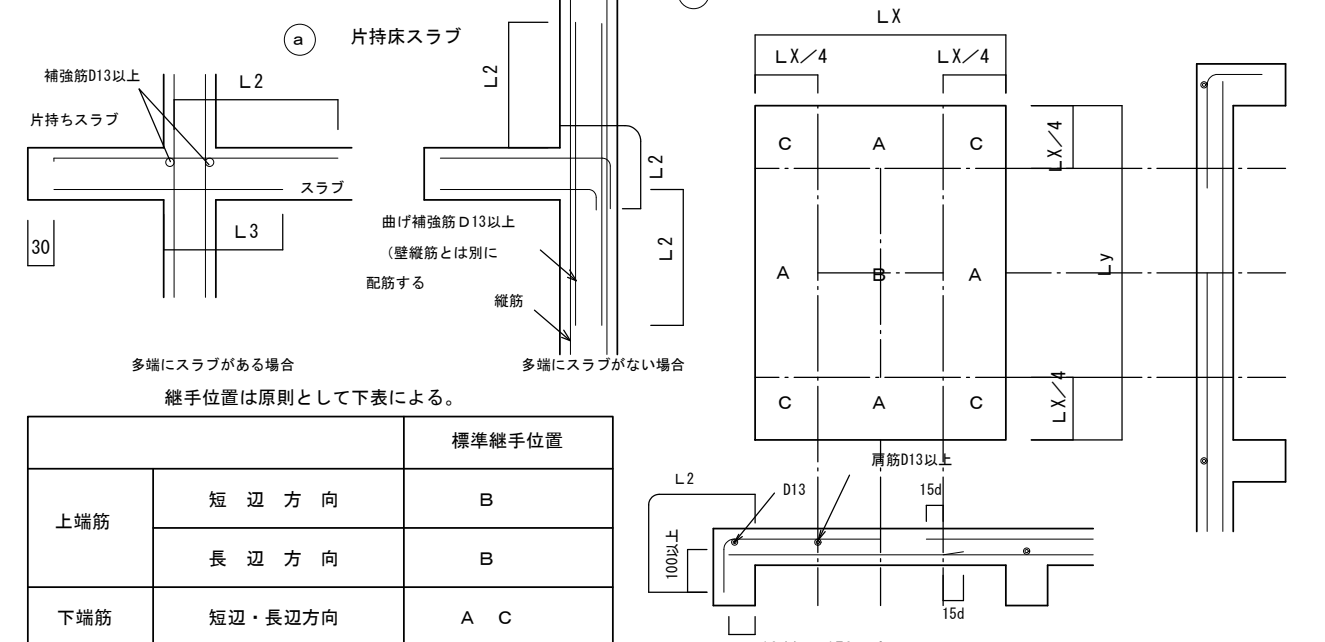


(5) 幅止め筋の本数、加工

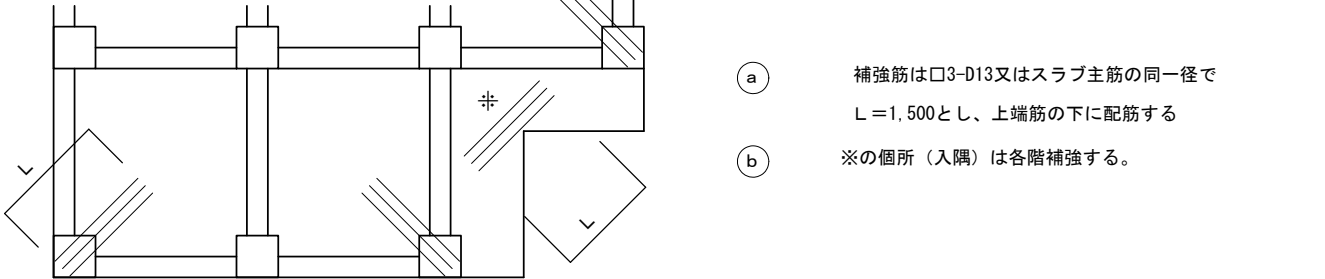


8. 床板

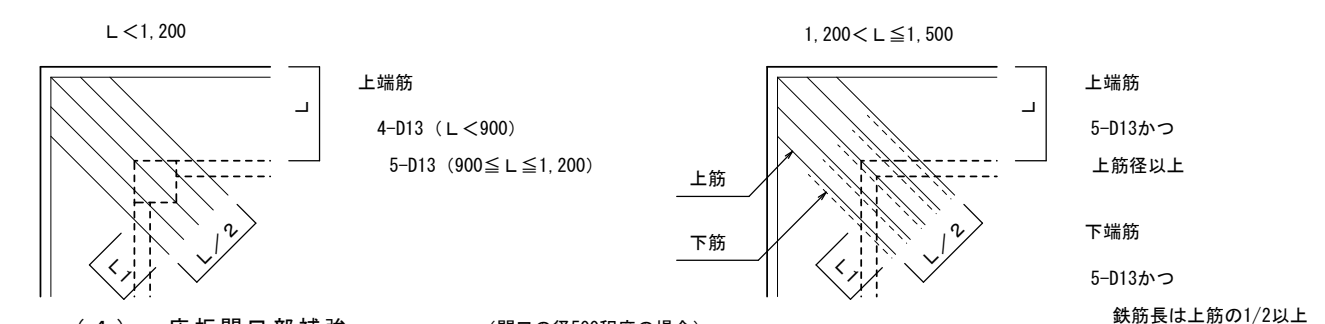
(1) 定着及び継手



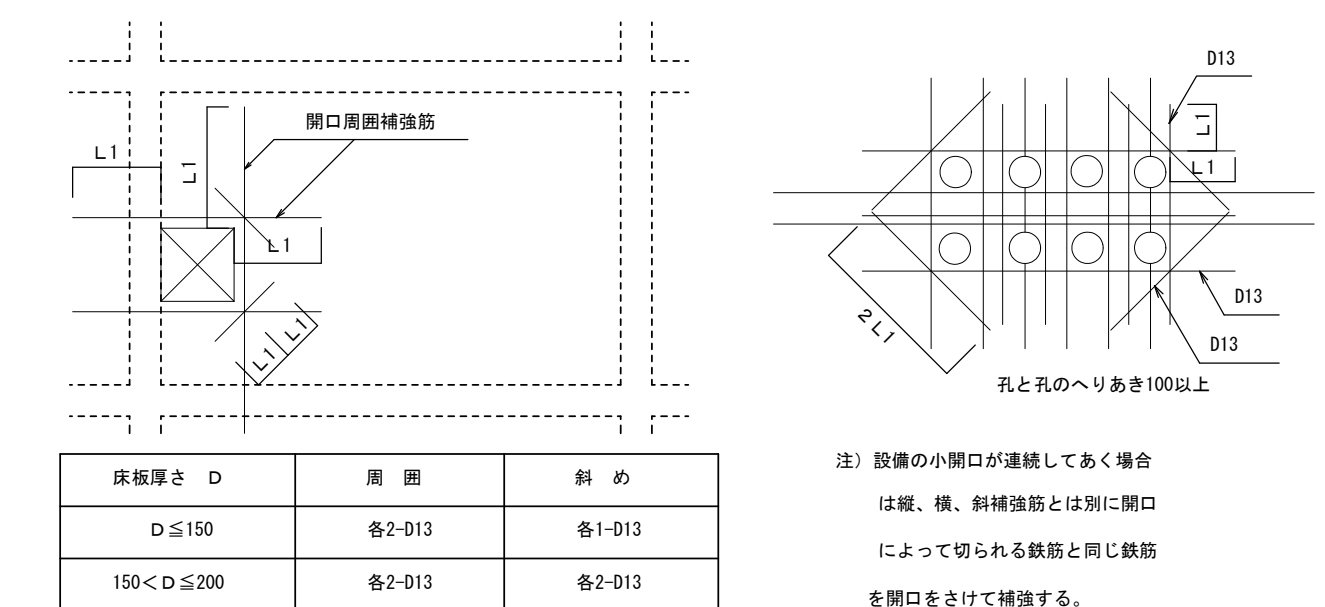
(2) 屋根スラブの補強



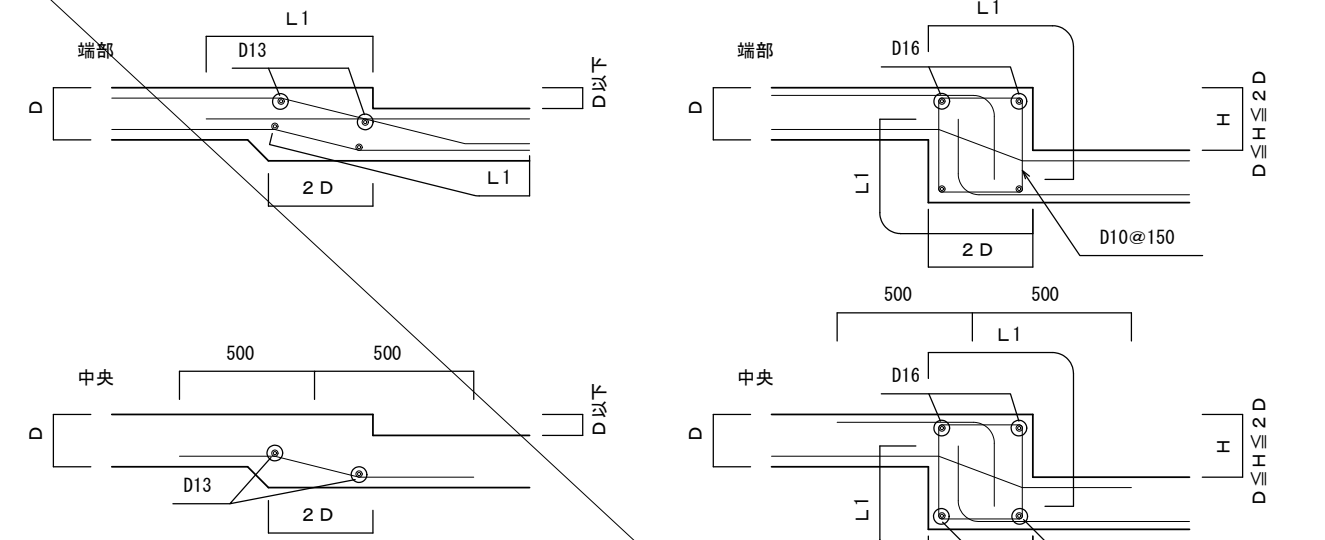
(3) 片持ちスラブの出隅部補強



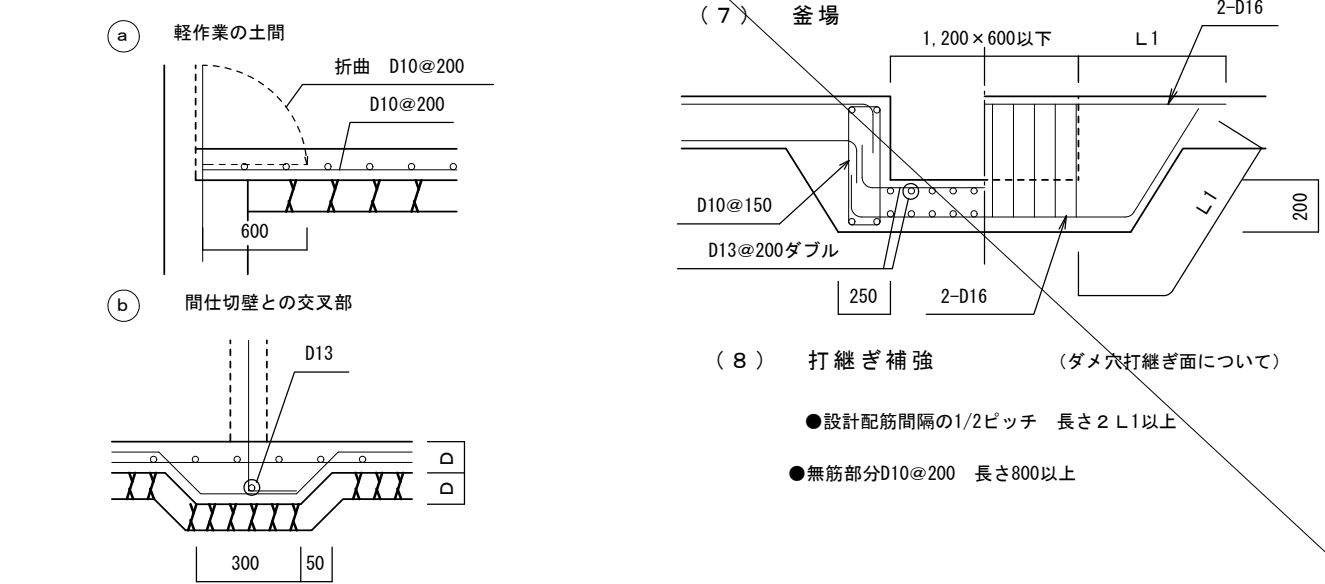
(4) 床板開口部補強



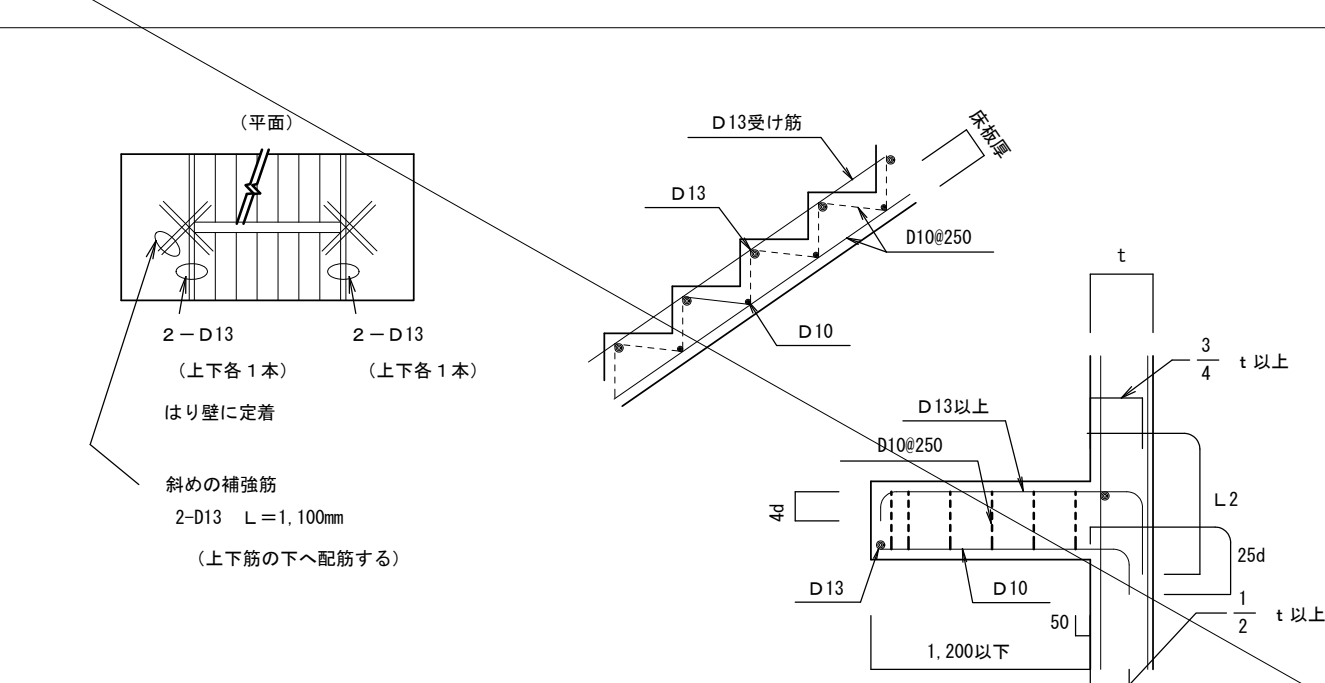
(5) 床板段差



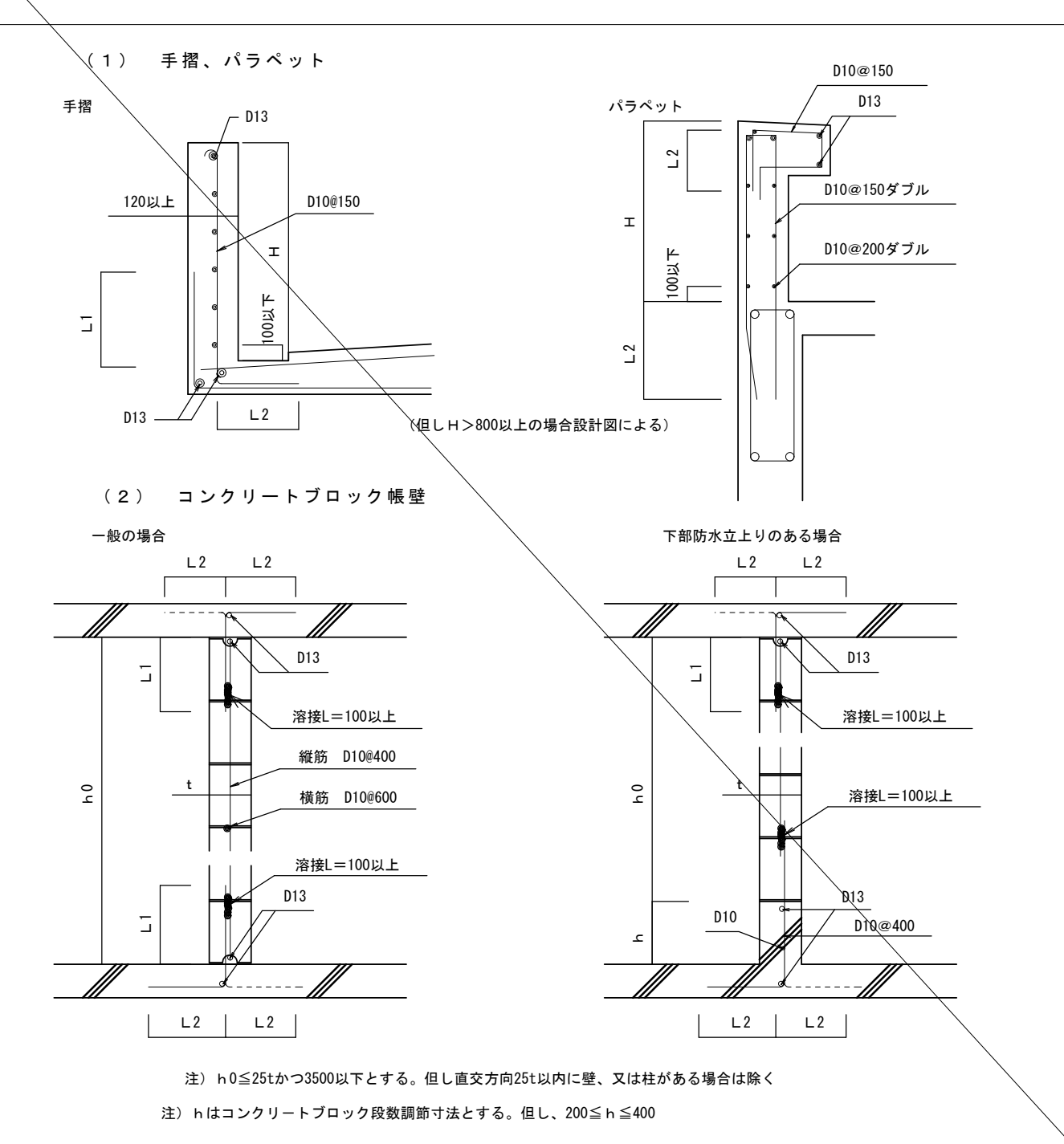
(6) 土間コンクリート



9. 階段



10. その他



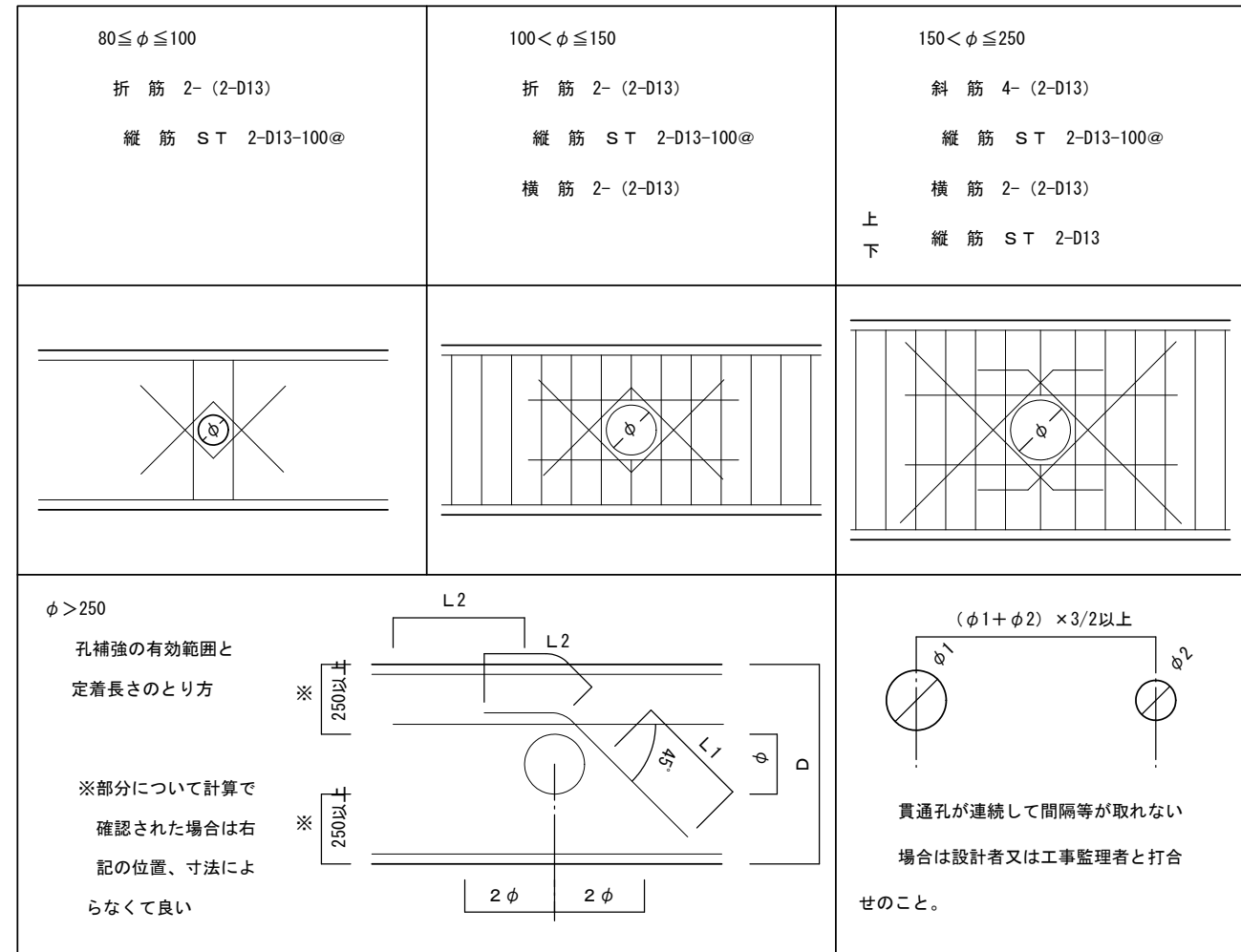
11. 梁・壁柱 貫通孔補強

(1) 既製品（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

リング型 バイプ型 金網型 プレート型 既成品

(2) 鉄筋標準配筋（但し $\phi \leq D/3$ とする）

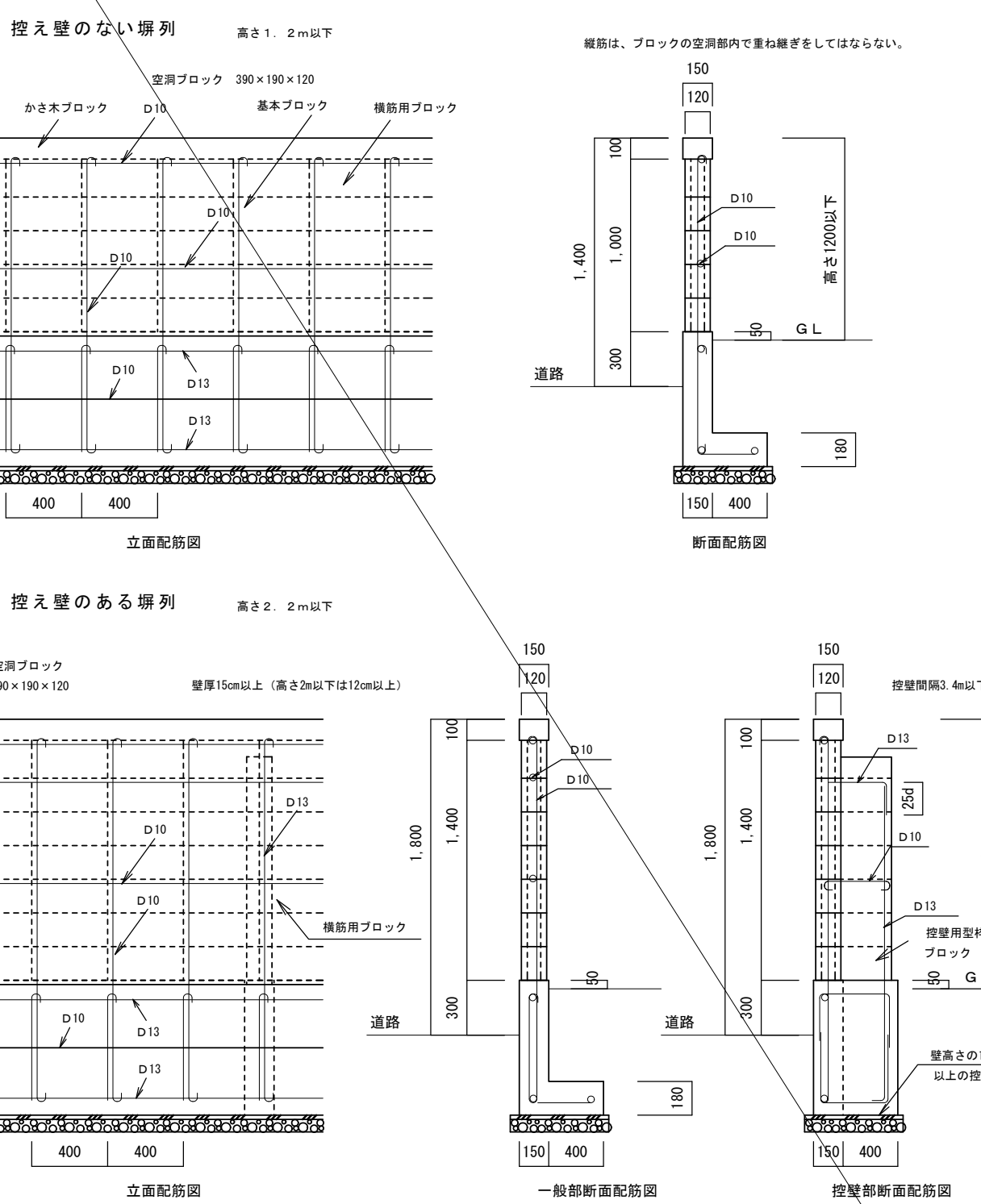
設置可能範囲 梁端部（スパン/10以内かつ2D以内）は避ける



12. コンクリートブロック塀

(1) 既製品（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

a. 塀の高さ（地盤面に高低差のある場合は低い方による）は2.2m以下。
b. 塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上。
c. 地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は、別途検討する。
d. 鉄筋挿入部はモルタルを充填すること。



スリーエスG-cube工法特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いたスラリー系機械攪拌式深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、現地盤をコラム状に固化する地盤改良を行うものである。

2. 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（平成14年11月30日 財団法人 日本建築センター、以下指針という）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。但し、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) コラム設計基準強度はFc=750kN/㎡とする
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (4) セメントスラリーを用いた機械攪拌式深層混合処理工法のスリーエスG工法協会に所属する会員とする。
- (5) 工法の選定は、(財)日本建築総合試験所において下記の性能証明を有する工法を選定する。

①変動係数25%が砂質土、粘性土、ローム地盤で採用できること。

②小規模建築物に対する品質管理が規定されていること。

③材齢7日強度で合否判定が可能であると認定されていること。
- (6) 品質及び施工管理は、スリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに基づいて行うものとする。

4. 施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。

- (1) 地盤概要
- (2) 工事内容（コラム径・コラム長・空掘り長・コラム数・設計基準強度）
- (3) 工事期間及び工程
- (4) 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）
- (5) 施工機器及び仮設設備と配置
- (6) 配合管理・施工管理・品質管理の方法
- (7) 建築技術性能証明書
- (8) その他、必要事項

5. 施工機械

- (1) 攪拌翼はセメントスラリーと原位置土を確実に攪拌混合するための共回り現象を防止する攪拌装置を装備すること
- (2) 攪拌翼は上下にセメントスラリー吐出口を設け、掘削時に下吐出口から引上げ時に上吐出口からセメントスラリーを吐出可能な吐出切替構造であること
- (3) 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること
- (4) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したものでリーダー付及び自走式タイプであること
- (5) ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給できる能力を有していること

6. 配合試験

- (1) 本工事に先立ち現場から試料土を採取して、所定の室内配合試験を実施し、所要の強度が得られるよう配合条件を決定する。

試験名	室内配合試験
試料箇所数	1箇所

7. 配合管理

- (1) セメントスラリーに使用する固化材は、セメント及び、セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度

配合強度 X_f は設計基準強度Fcの1.7倍に設定する。

$$X_f = F_c \times 1.7$$

X_f : 配合強度 (kN/㎡)

Fc : 設計基準強度 (kN/㎡)

- (3) 配合量（固化材量とW/C)

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$$X_{128} = X_f \div \alpha_f$$

X_{128} : 室内配合強度 (28日強度) (kN/㎡)

X_f : 配合強度 (kN/㎡)

α_f : 現場／室内強度比（強度比0.65；実績より）

$$X_{17} = (X_f \div \alpha_f) \div \sigma_7$$

X_{17} : 室内配合強度 (7日強度) (kN/㎡)

X_f : 配合強度 (kN/㎡)

α_f : 現場／室内強度比（強度比0.65；実績より）

σ_7 : 材齢28日／材齢7日強度比

室内配合試験 (3日強度： X_{13}) により決定する場合は、 X_{17} を材齢7日／材齢3日強度比で割った配合強度とする。

$$\text{暫定配合量} 300 (\text{kg/m}^3)、W/C = 70\%$$

【最終的には配合試験により決定する。】

8. 品質検査

- (1) 設計対象層及び調査箇所数。

① 設計対象層は最弱層とし、砂質土、粘性土、ロームの土質区分では（シルト）とする。

② 設計対象層 (最弱層) の深度は、GL-(1.70 ～ 2.70m) 付近とする。

表 1. 調査箇所数

項 目	採取部位	採取箇所数	備 考
小規模建築物における品質検査	頭部モールドコア	1箇所	材 齢 7日
	深部モールドコア	1箇所	材 齢 7日

注) 深部モールドコアにおいて、 $X_{i7} < F_c$ の場合は、材齢28日強度を確認する。
頭部モールドコアの抜き取り数は、改良体100本に1箇所以上とする。

- (2) メーターサンプラーによる品質管理

設計対象層に対しメーターサンプラーにてサンプリングを行う。

改良部の連続性、土塊混入状況、及び不良率の確認をフェノール試験、指圧試験により行う。

ただし、現場状況等によりメーターサンプラーによるサンプリングが困難な場合は、深部モールドコアを1箇所追加し、計2箇所

でサンプリングすることによりメーターサンプラーの代用を行う。

高温養生（60℃）による材齢1日圧縮試験を行う。

これらにより、健全な品質を確認しモールドコア試験を実施する。

- (3) 合否の判定（小規模建築物における品質検査）

- ① 抜き取り 1 箇所に對して 3 個の供試体を採取する。
- ② 合否の判定はn個 (コアの個数) の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_i \geq F_c$$

X_i : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（材齢7日）（ $1 \leq i \leq n$ ）（kN/㎡）、
（もし $X_{i7} < F_c$ の場合は、 $X_{i28} \geq F_c$ を確認する。）

F_c : 設計基準強度 (kN/㎡)

n : コアの抜き取り個数

i : 個々の供試体

9. 工事報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- ① コラム伏図及び番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラムの径及び改良長
- ④ 掘削深度
- ⑤ 固化材の配合と使用量
- ⑥ モールドコア圧縮強度試験結果

特 記

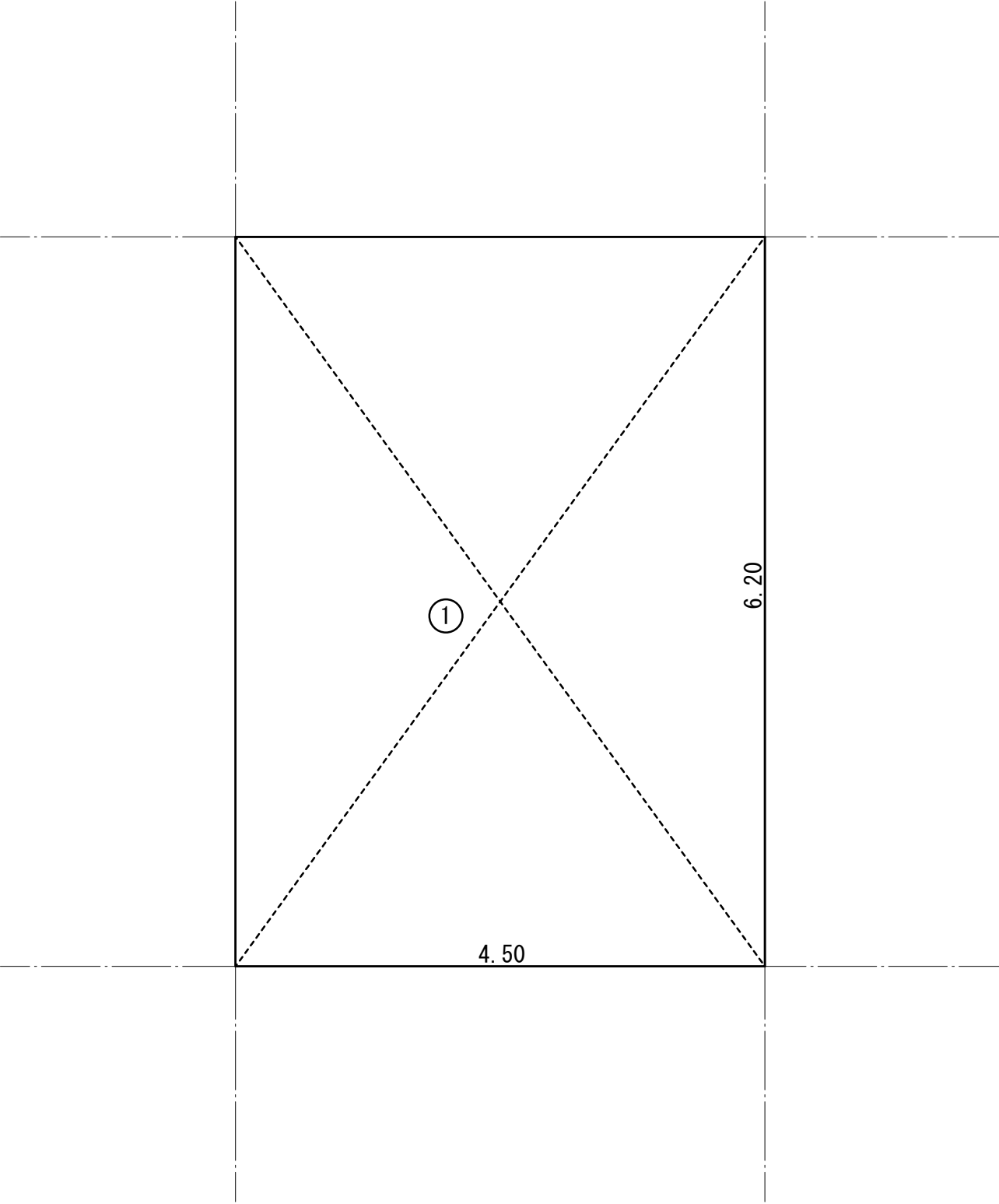
事 項



山梨建築設計監理事業協同組合

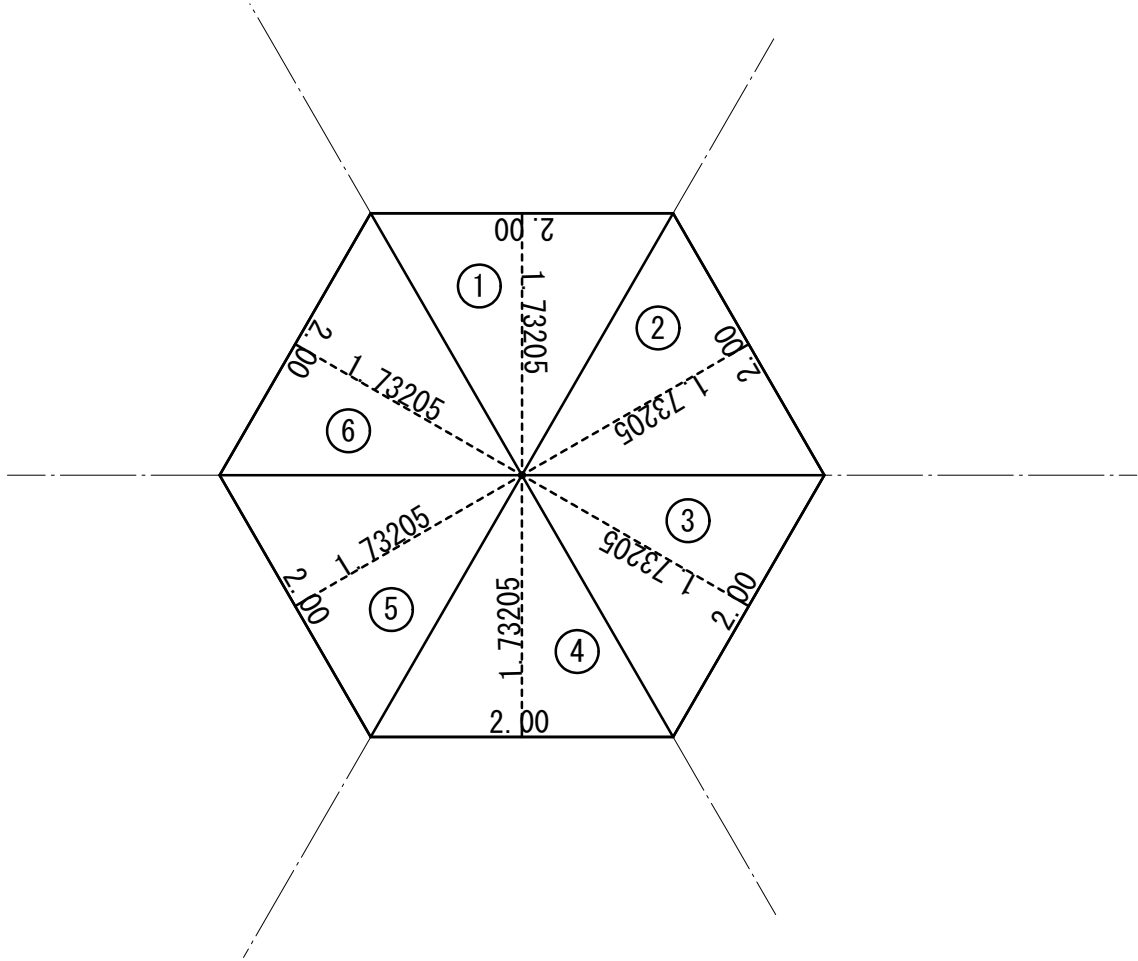
承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺	工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	設計年月日	図面名称	地盤改良工法 特記仕様書

南 ぺ A-11
No.



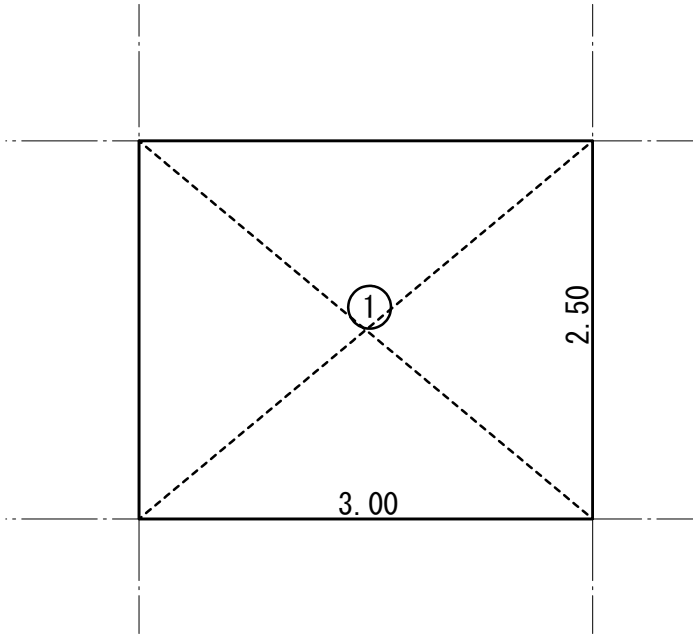
機械室

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	6.20 × 4.50	27.9000
合計		27.9000
延床面積		27.90
建築面積		27.90



東屋

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
2	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
3	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
4	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
5	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
6	2.00 × 1.73205 ÷ 2	1.732050
合計		10.392300
延床面積		10.39
建築面積		10.39



ゲート

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	2.50 × 3.00	7.5000
合計		7.5000
延床面積		7.50
建築面積		7.50

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	2.50 × 3.00	7.5000
合計		7.5000
延床面積		7.50
建築面積		7.50

特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡

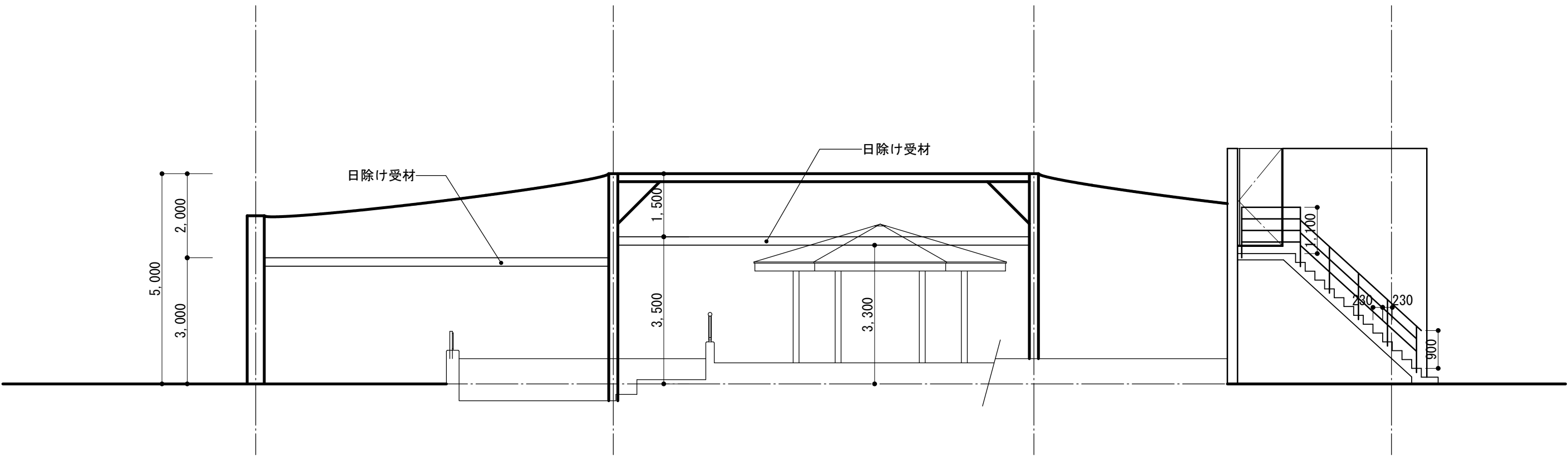
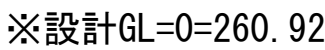
縮尺
設計年月日

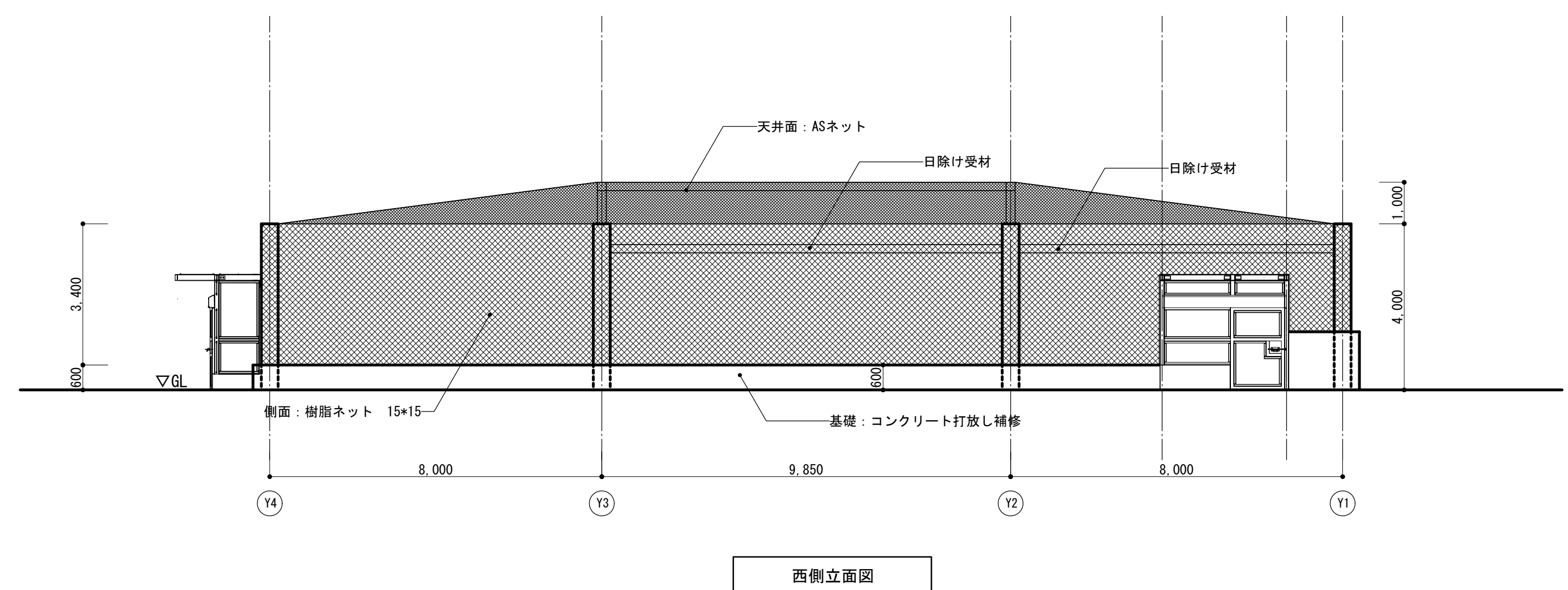
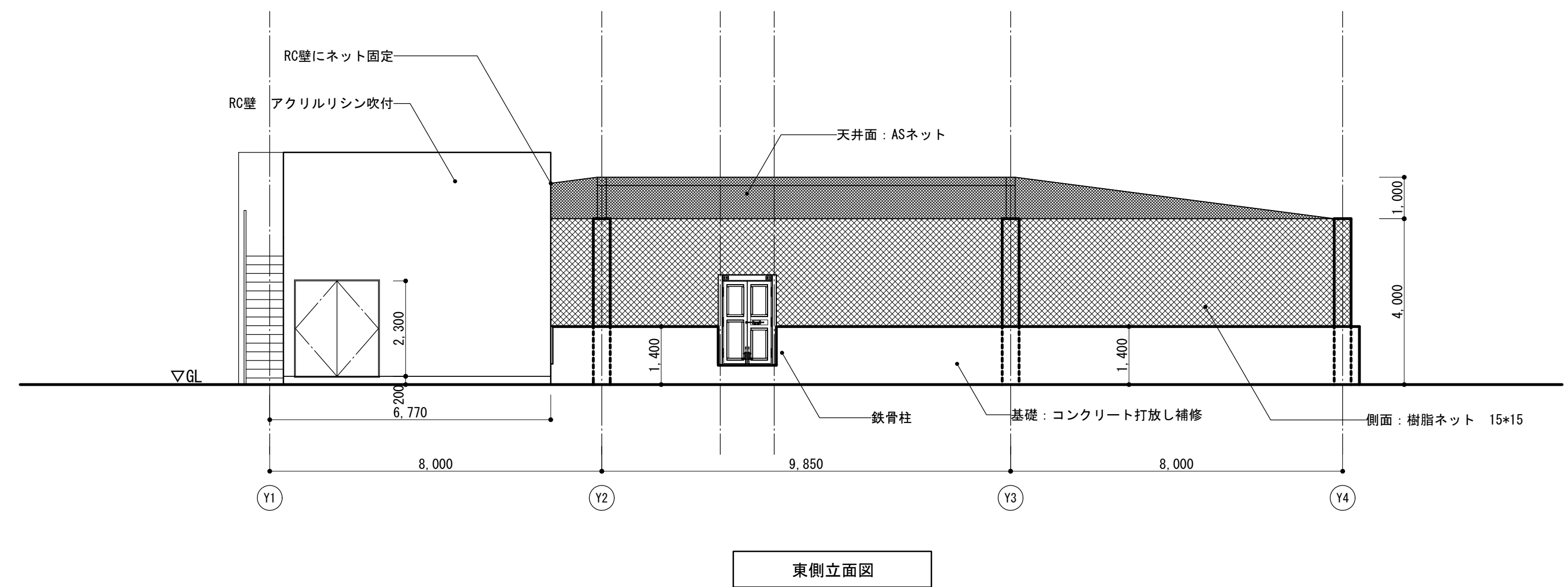
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称	建物面積求積表

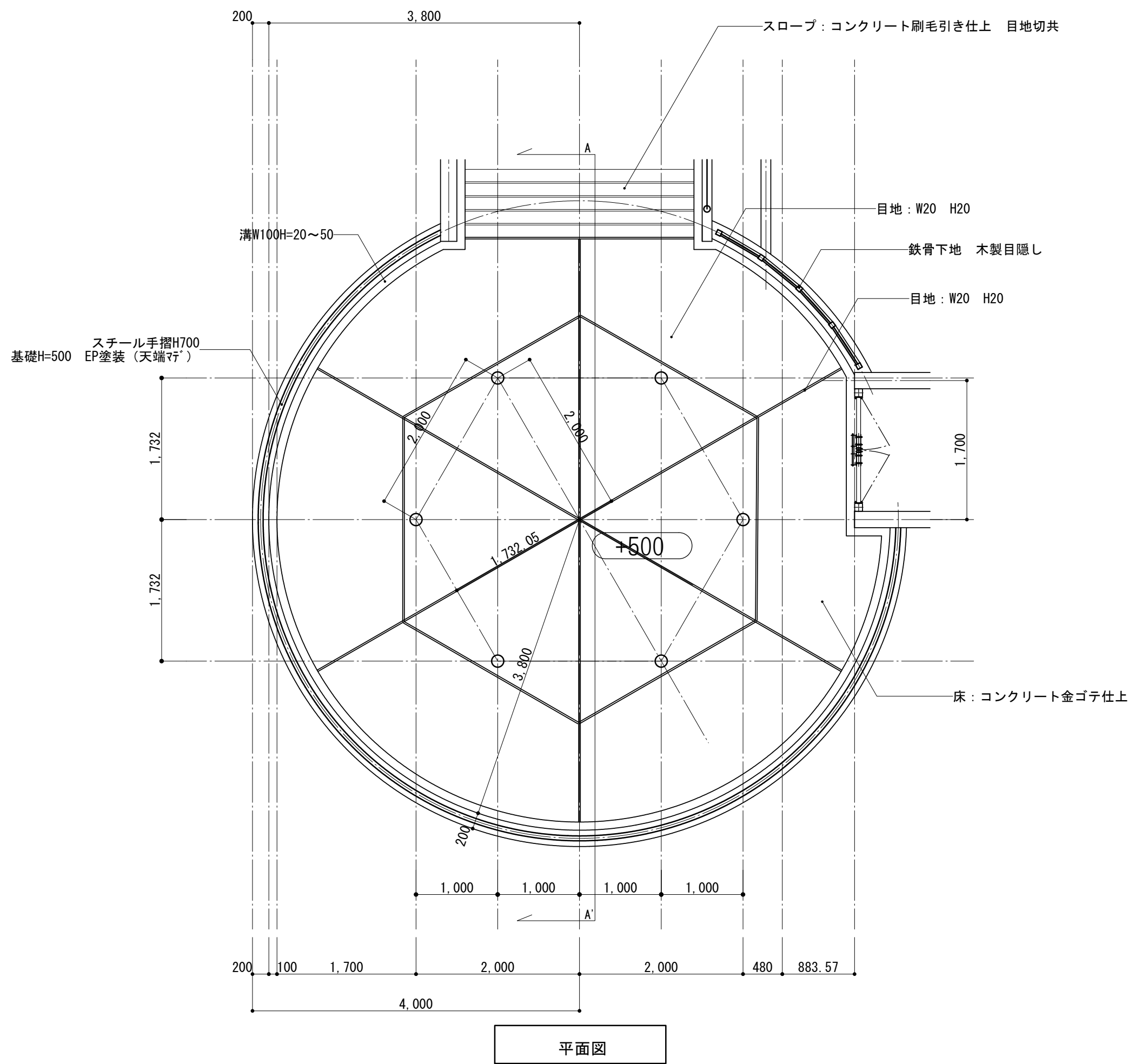
南ペ A-12
No.

外部仕上			
部位	仕 上 げ	部 位	仕 上 げ
ウォークスルーゲージ	屋根：ASネット150*150 線径2.0mm	フラミンゴ放飼場	プール：水槽内 コンクリート打ち放し補修仕上 その他：コンクリート打ち放し補修の上 EP
	側面：樹脂ネット 15*15		土部分：砕石敷きの上 土敷き
	柱、梁：鉄骨+有機金属不動態化塗装（指定色仕上げ） 基礎：コンクリート打放し補修		
出入口ゲート	屋根：アルミ複合パネル t=4	機械室	屋上：ウレタン塗膜防水防滑仕上 立上：ウレタン塗膜防水仕上
	壁：ASネット150*150 線径2.0mm		壁：アクリルリシン吹付 壁：コンクリート打ち放し補修
	柱、梁：鉄骨+有機金属不動態化塗装（指定色仕上げ） 基礎：コンクリート打放し補修		床・基礎：コンクリート打ち放し補修
	床：モルタル金ゴテ仕上		
		その他	通路：カラーアスファルト舗装 t=50
ペンギン放飼場	プール：水槽内 コンクリート打ち放し補修の上 ポリウレア樹脂スプレー防水仕上 その他：コンクリート打ち放し補修の上 EP		通路壁：コンクリート打ち放し補修
	土部分：砕石敷きの上 土敷き		
	巢穴：発砲スチロール 擬岩仕上		
	島・飛び込み台・巢山：鉄筋コンクリート 擬岩仕上		
	東屋：S造 平屋建て 屋根：カラーガルバニウム鋼板 t=0.4段葺き 梁・柱：DP塗 床：コンクリート金ゴテ仕上		
<div><凡例（塗装記号）> ・EP ー 合成樹脂エマルションペイント ・天然砂舗装材仕上 四国化成 ラ克蘭HG同等品 ・EP-G ー つや有合成樹脂エマルションペイント ・SOP ー 合成樹脂調合ペイント ・OSCL ー オイルステイン・クリヤラッカー ・溶融亜鉛メッキー A種(6mm以上)・B種(3.2mm以上)・C種(1.6mm以上)</div>			

内部仕上									
室名	F L	床	巾木	下地	壁	天井	廻り縁	天井高	備考
					仕上				
機械室	±0	モルタル金ゴテ仕上	コンクリート打放し H=400	C	コンクリート打放し	コンクリート打放し		2.650	
<div><凡例（下地記号）> ・C ：コンクリート ・LGS：軽量鉄骨下地 壁：100型 @455、天井：19型 @303・360</div> <div><内装準不燃・不燃番号> ・石膏ボード t=12.5 ・強化石膏ボード t=12.5 ・防水石膏ボード t=12.5 ・化粧ケイカル板 t=6 ・木目調化粧ケイカル板 t=6 ・不燃石膏ボード t=9.5 ・石膏ボード t=9.5 ・不燃化粧石膏ボード t=9.5 ・化粧石膏ボード t=9.5 ・ケイカル板 t=6 建告第1400号 第1-15 NM-8615 NM-1498 NM-1453 NM-1453 NM-0441 OM-9828 NM-1864 OM-0524 NM-3522</div> <div><その他> ・塗装仕上を行うボードの継目部分は、ジョイントテープなどを使用し目地処理を行うこと。 ・使用材料は、ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆ とする。 ・ステンレスは、特記なき限りH/L仕上とする。 ・天井下地は、屋外LGS25型、屋内LGS19型とする。 ・ライニング下地はLGS100型とする。 ・手摺・衛生器具・家具等の取付部は下地補強を施す。 ・耐水合板はT1とし、合板はT2とする。 ・屋内壁外周部・柱型下地は、LGS19型とする。</div> <div><メーカーリスト（同等品以上）> ・富業系サイディング t=15(木目調)：NPTスプリームウッド【アイジー工業株式会社】 ・ウォークスルーゲージ・出入口ゲート【テック大洋工業株式会社】 ・フェンス スチールメッシュフェンスLMF10型 H18サイズ 【四国化成】 ・オイルタンクフェンス EAF4型 H18サイズ 【四国化成】 ・プールガラス 【田中ガラス工業株式会社】 ・東屋屋根 スリッゲル→GR800S程度 【綿半リノベーション株式会社】 ・擬岩 【岡三リビック株式会社】 ・地盤改良工法 【野寺基礎工業株式会社】</div>									

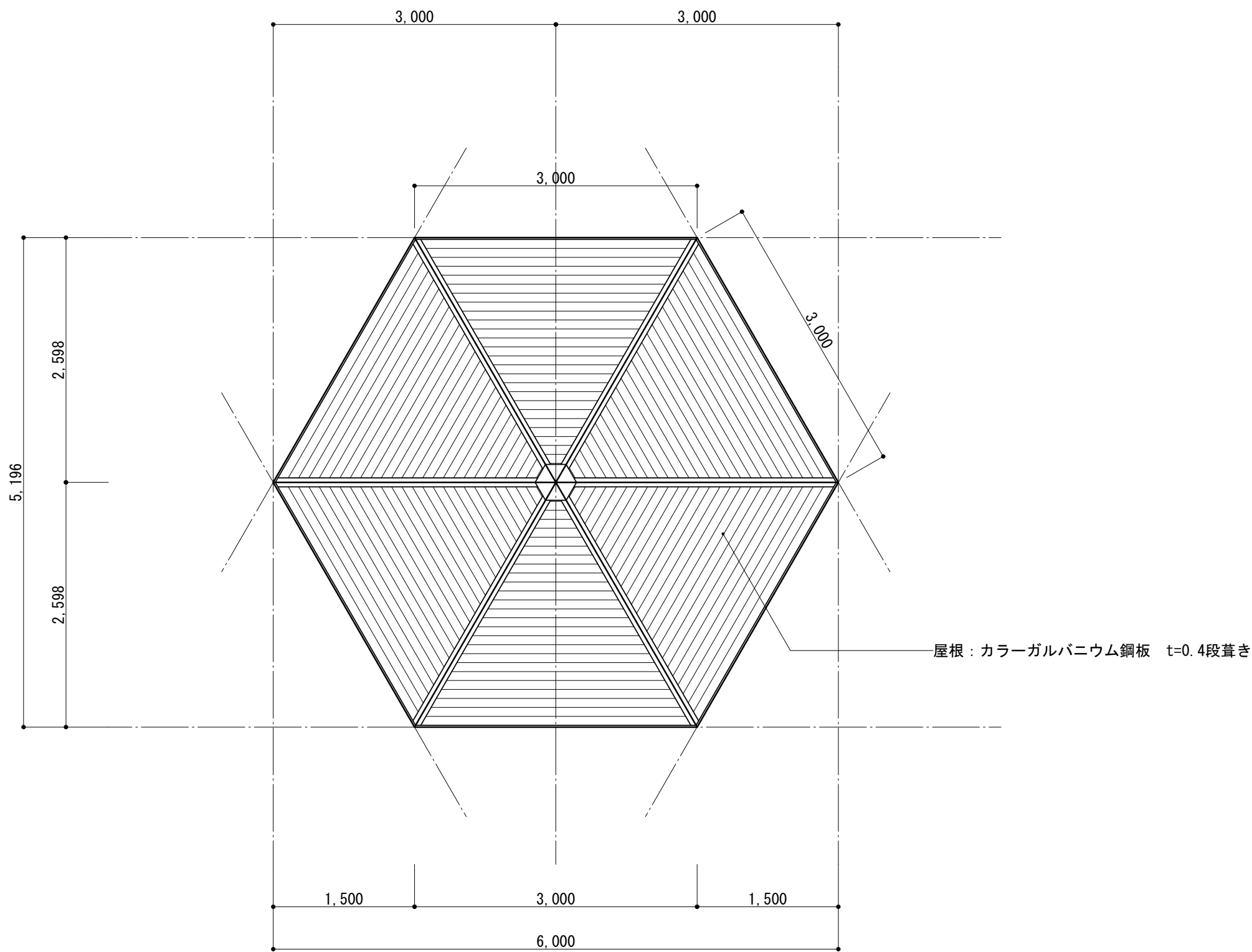




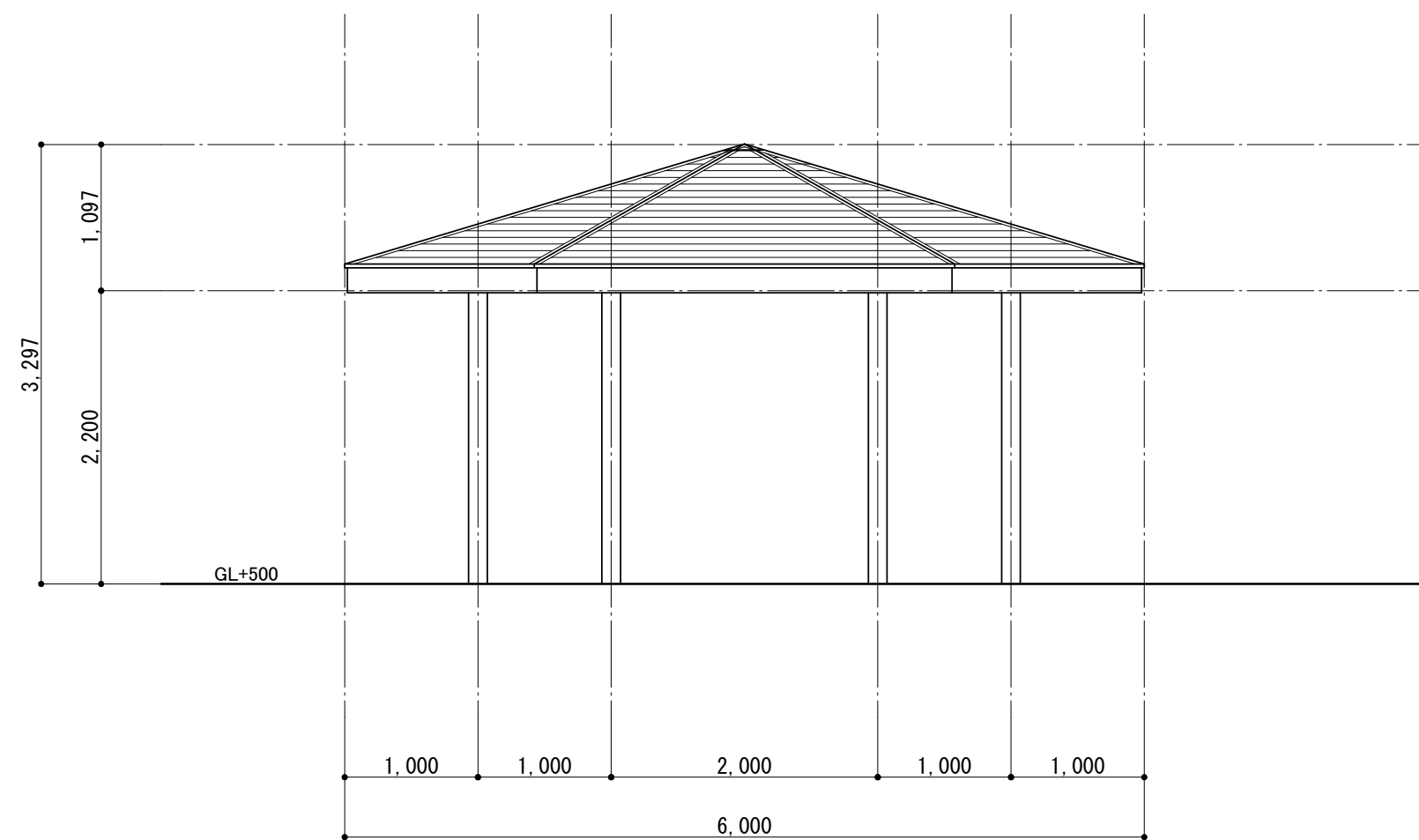


平面図

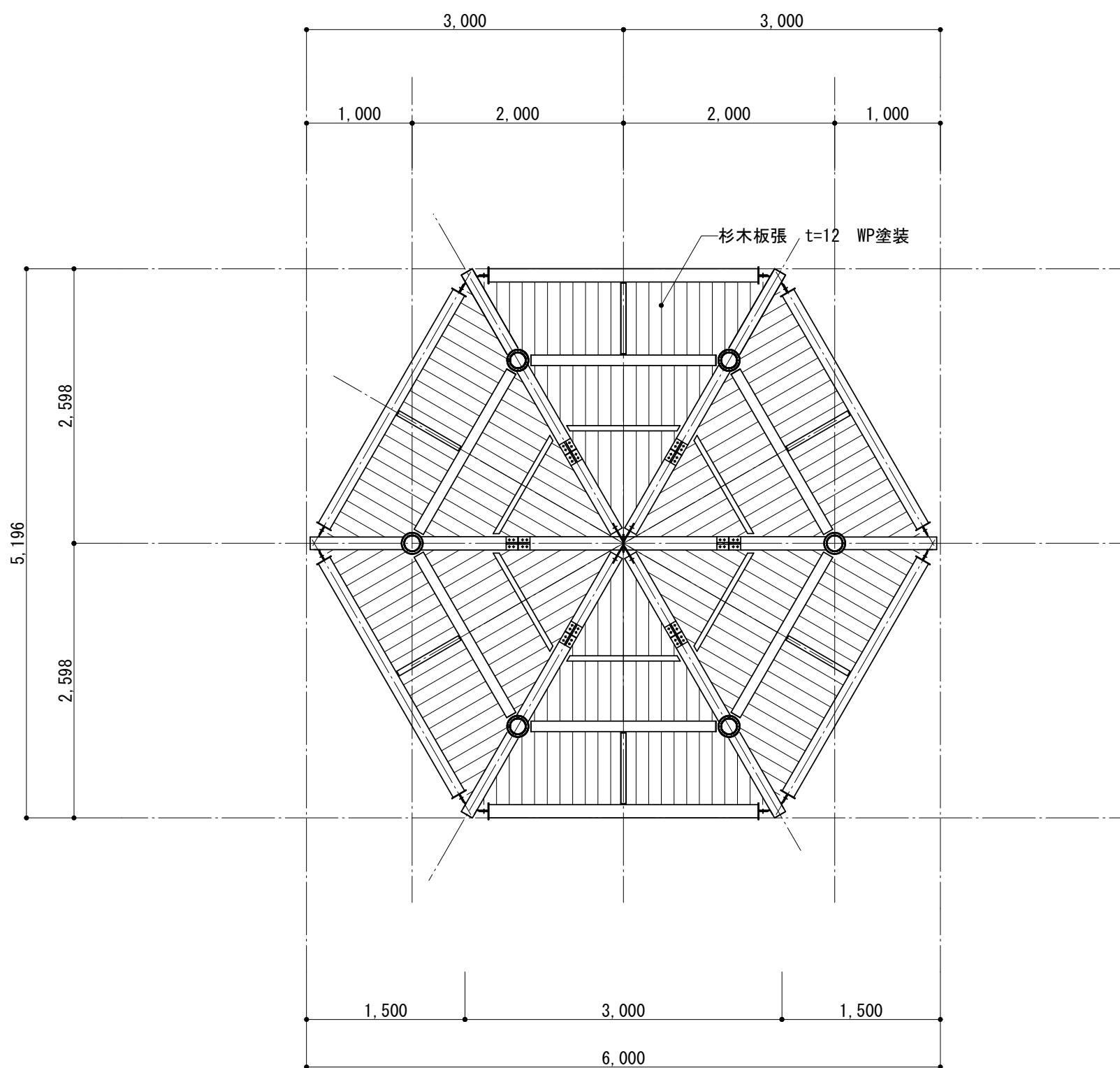
※設計GL=0=260.92



屋根伏図



南側立面図



天井伏図

特記事項

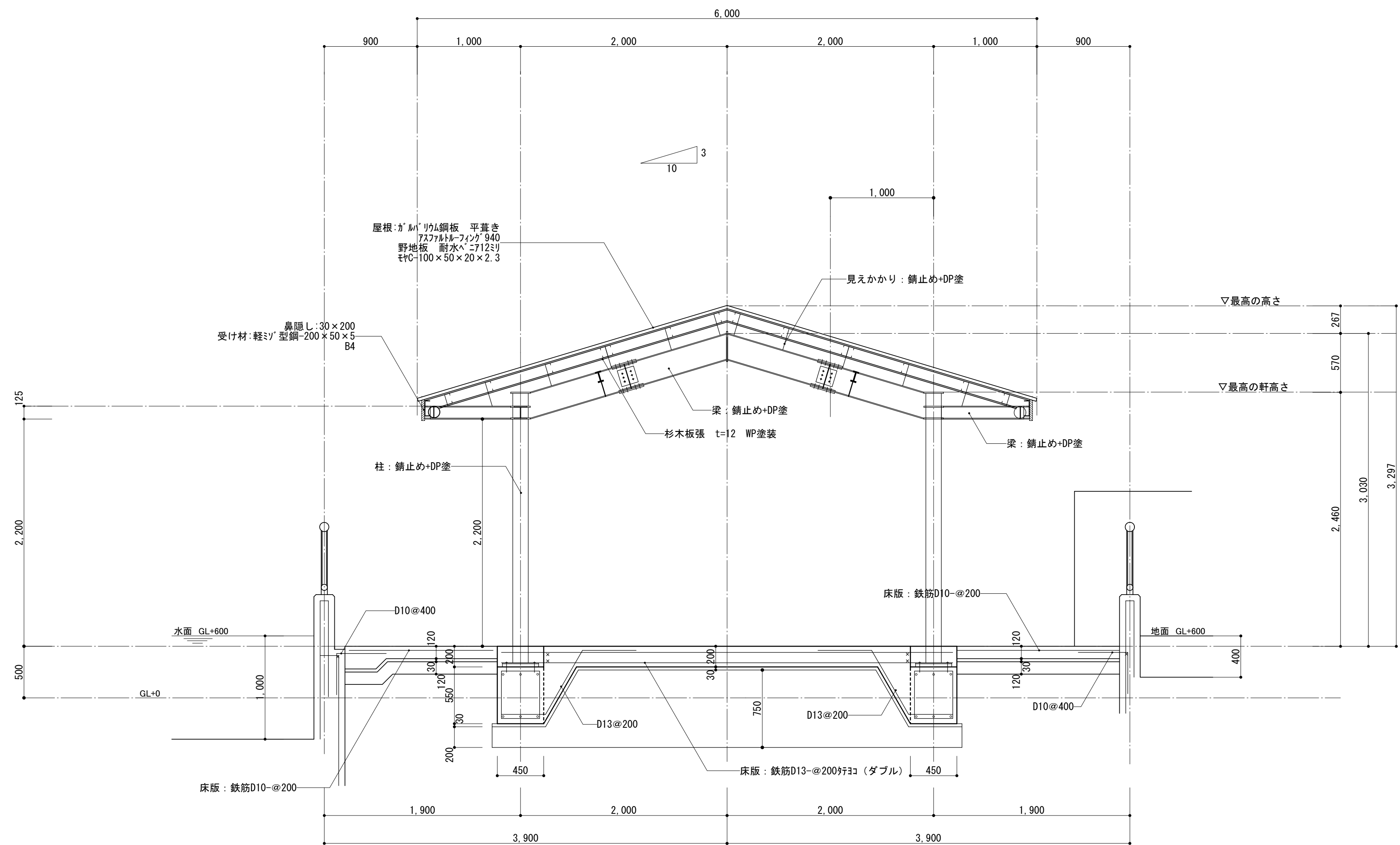


山梨建築設計監理事業協同組合

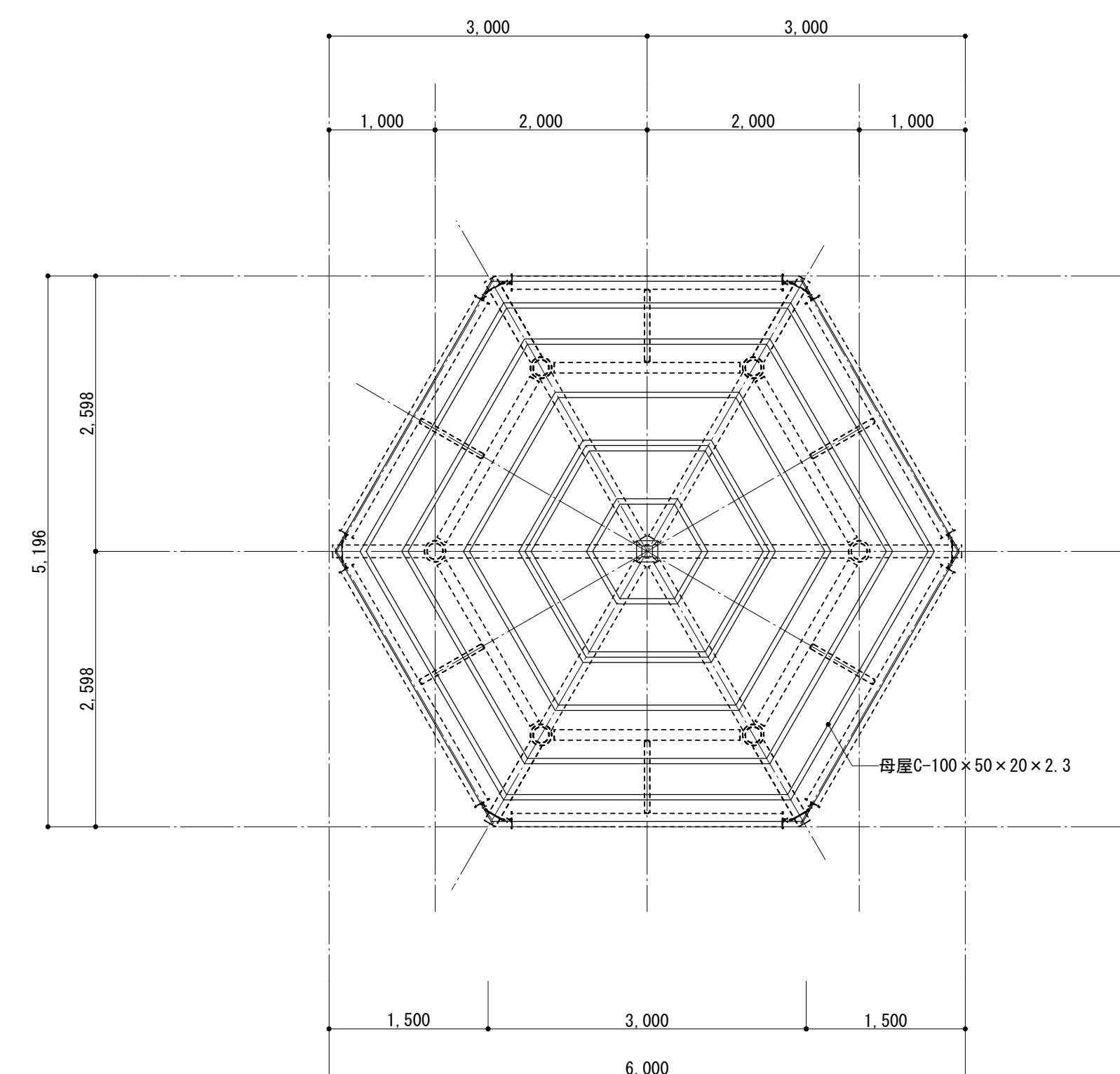
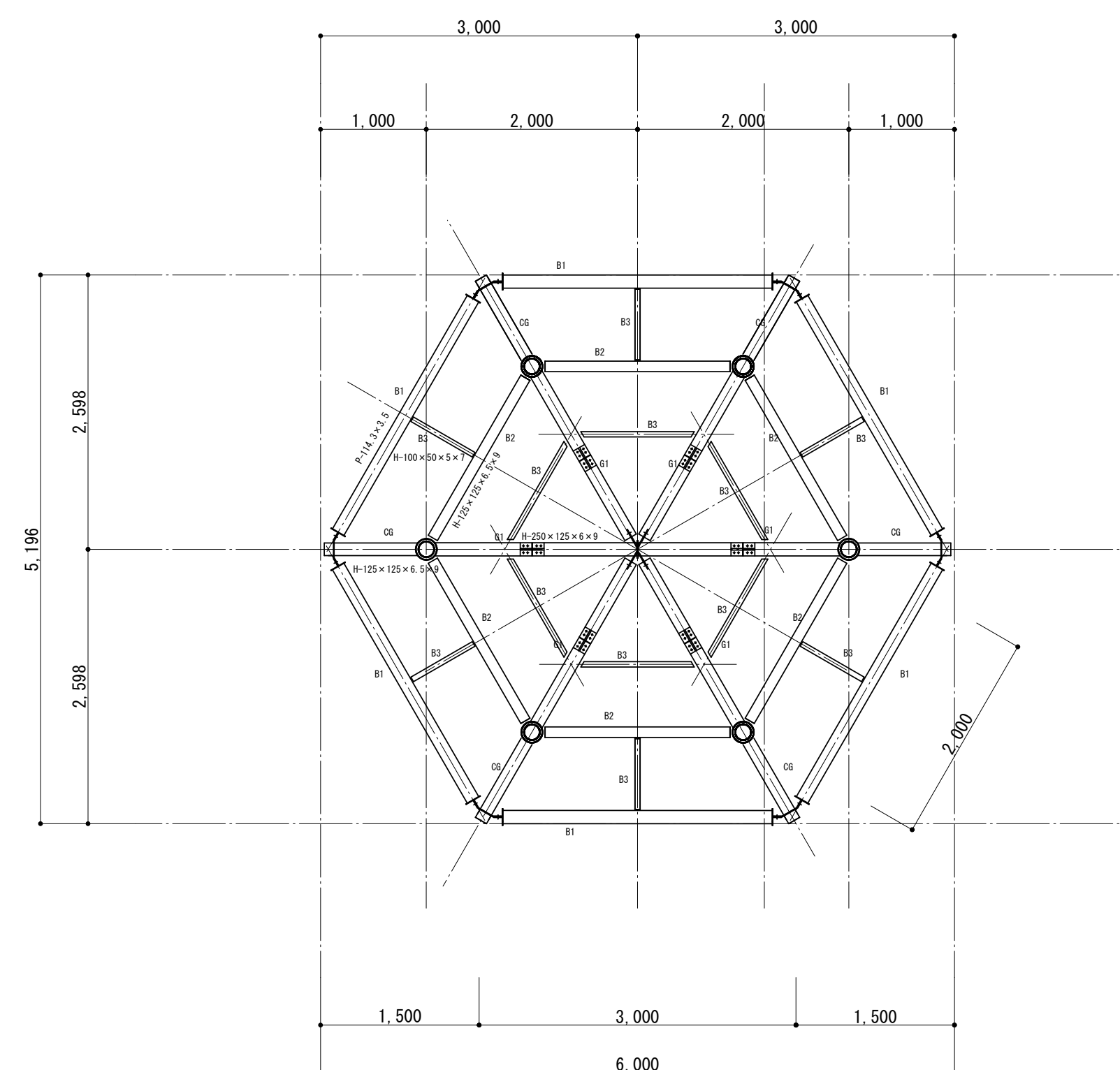
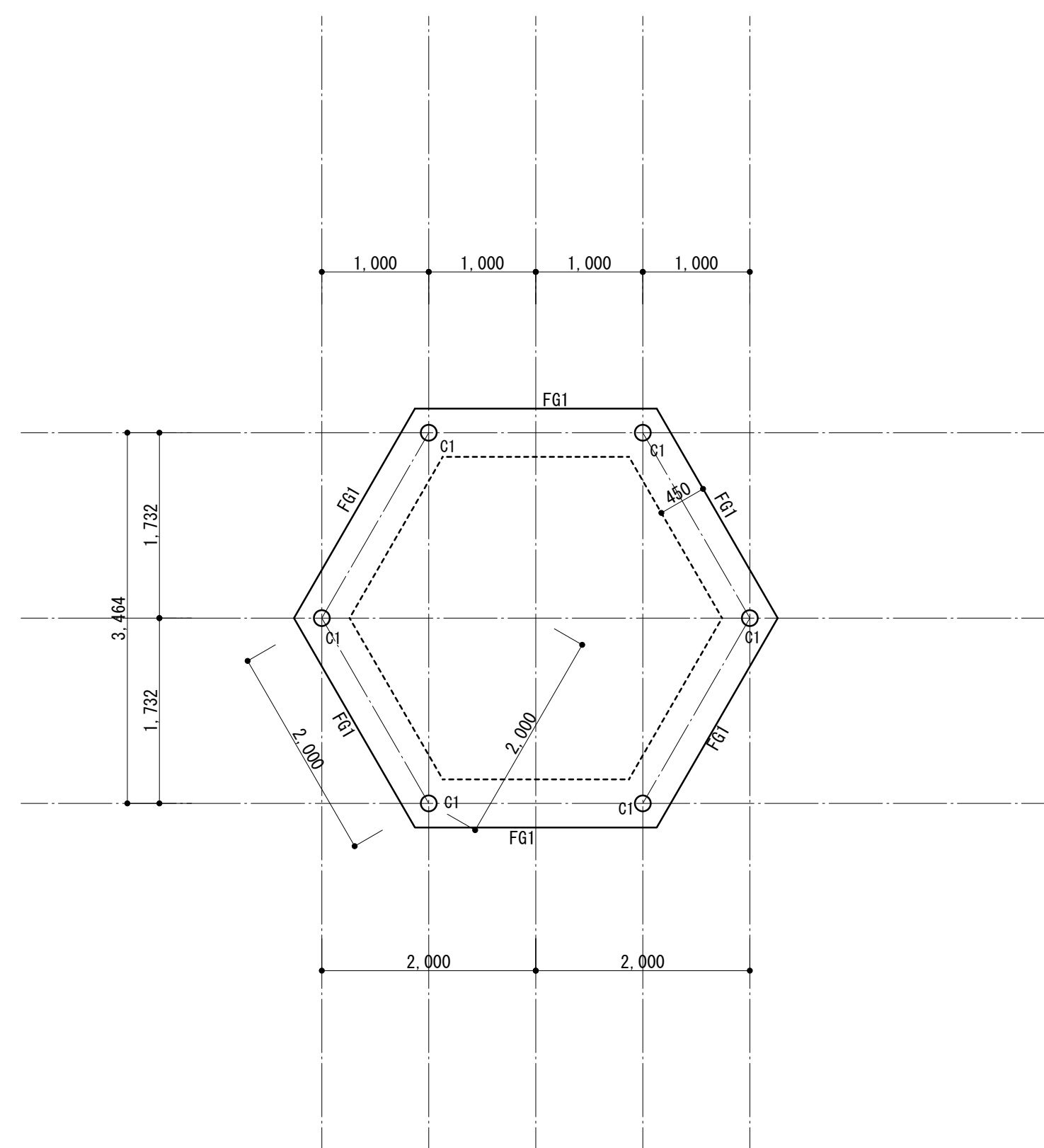
承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/50 A3→1/100
第145710号 第162184号 設計年月日
佐野 正秀 河西 聡

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
（南ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称 平面図・屋根伏図・立面図（東屋）

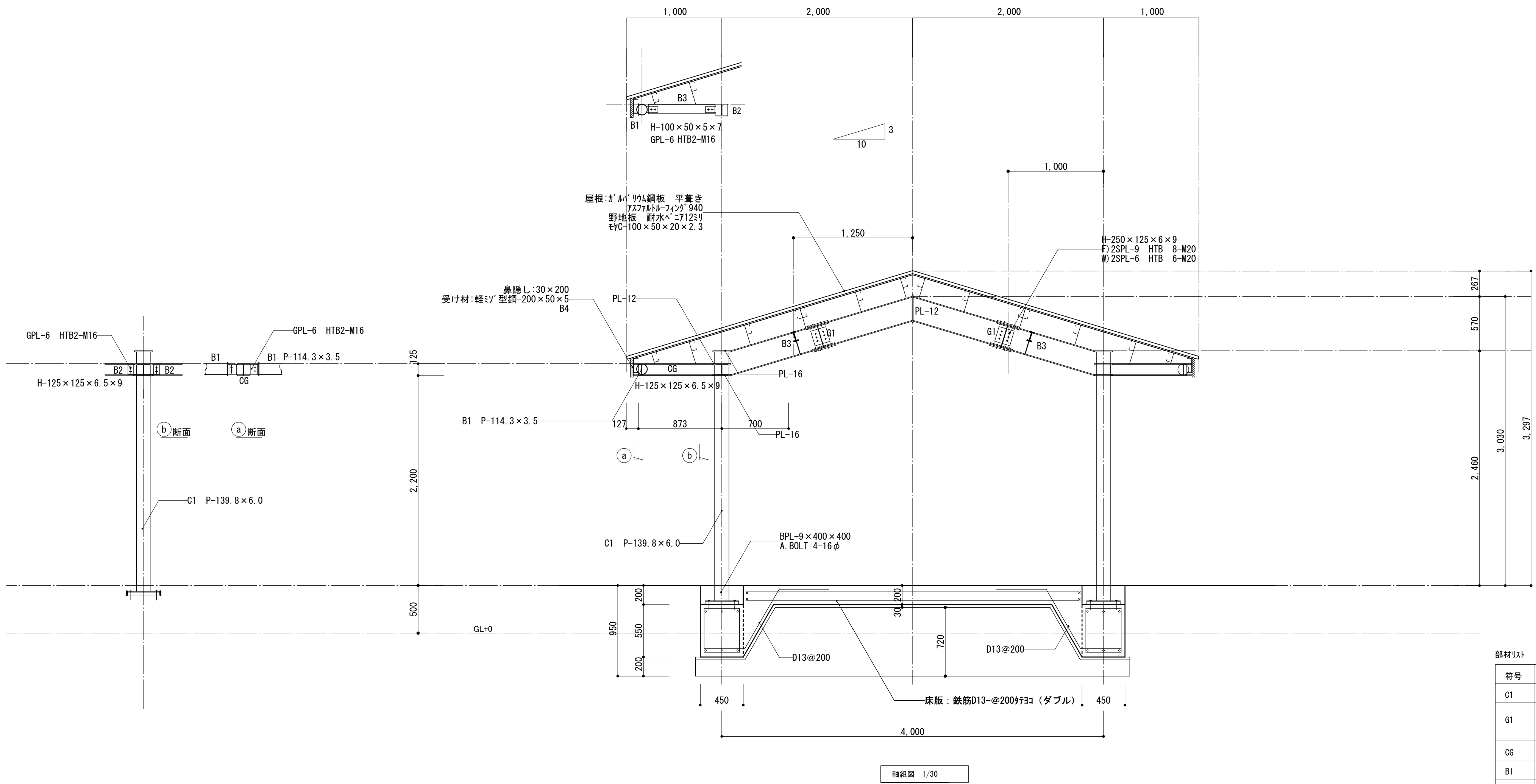
南ペ A-16
No.



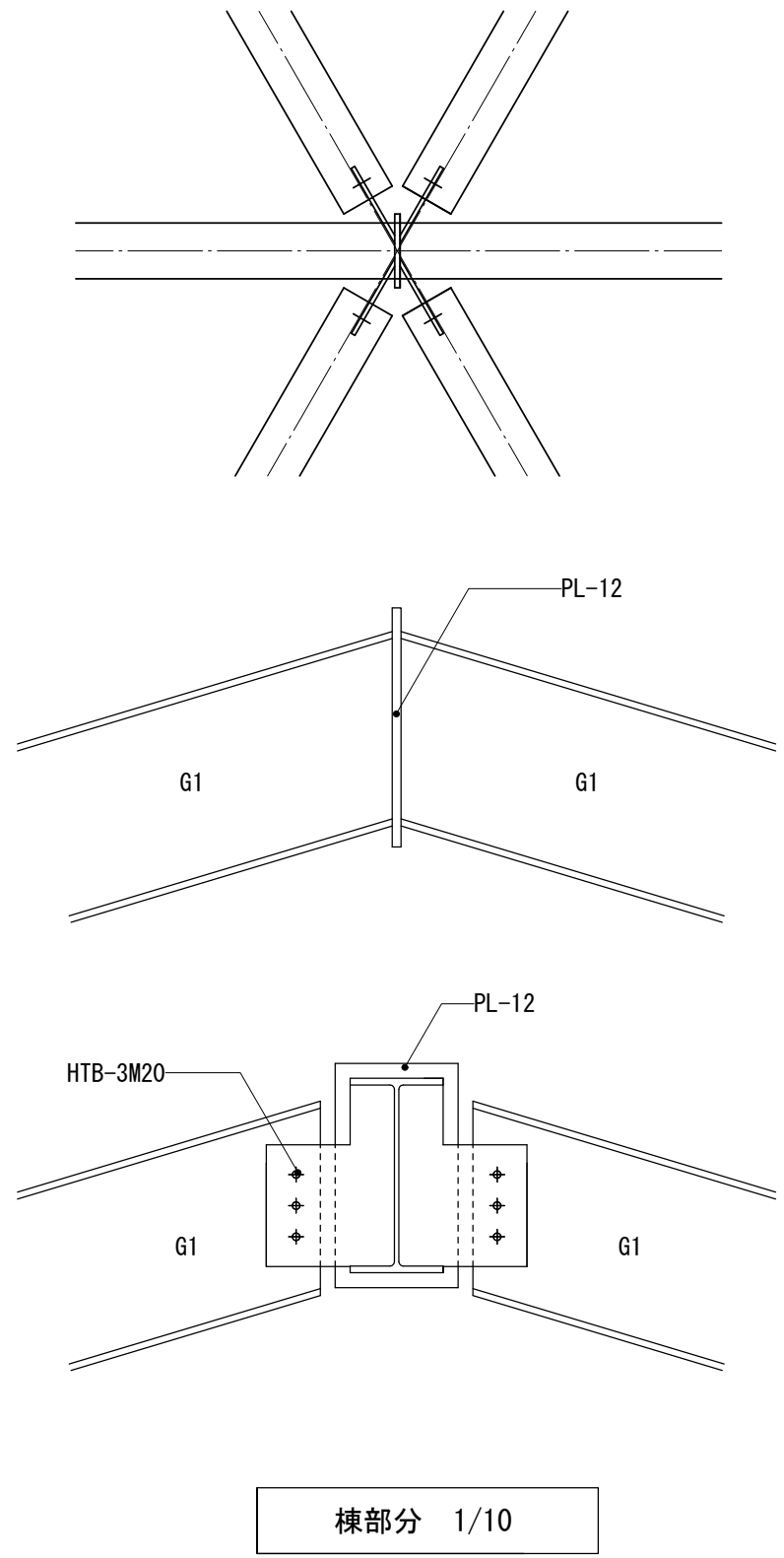
A-A' 矩計図



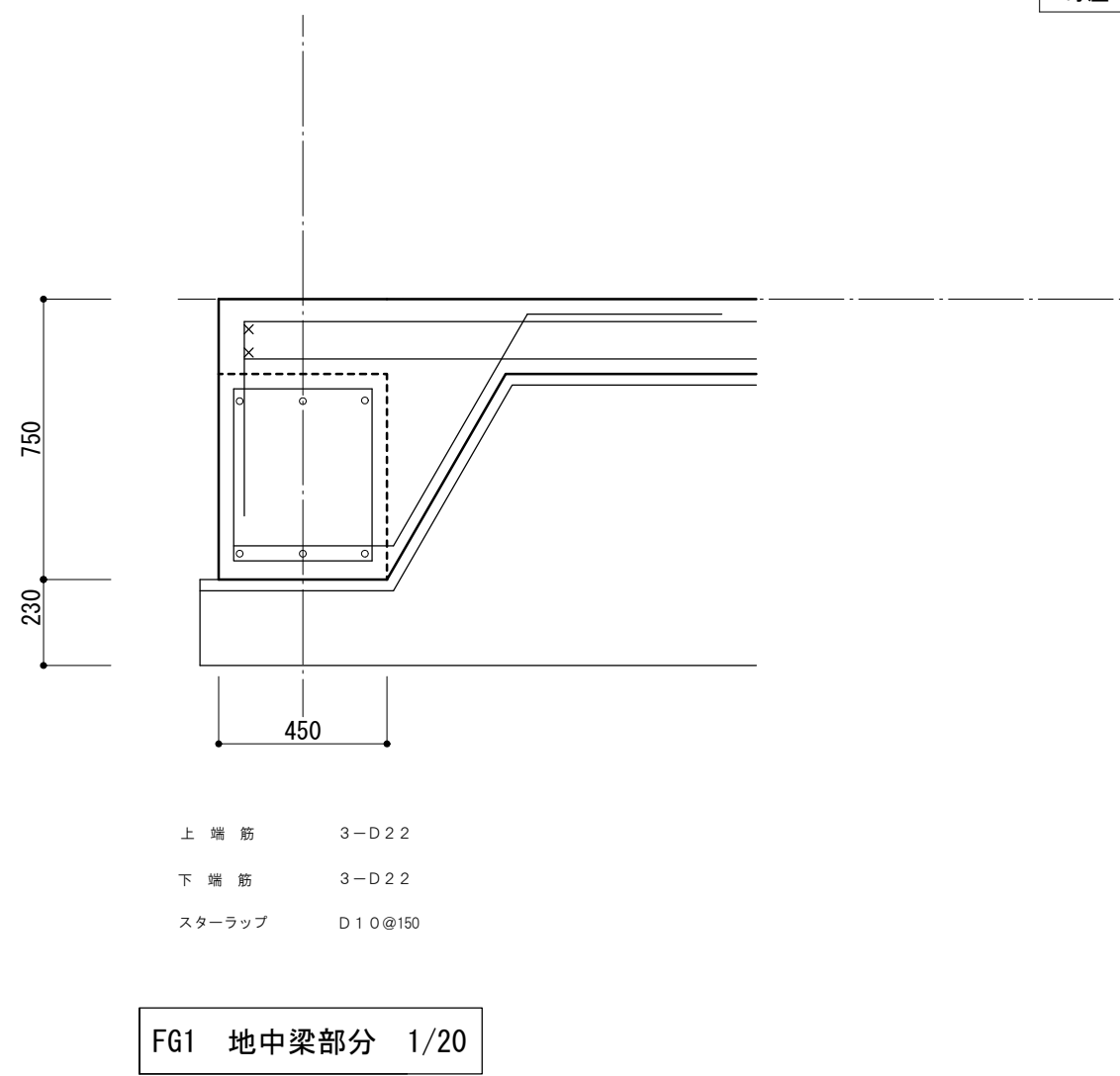
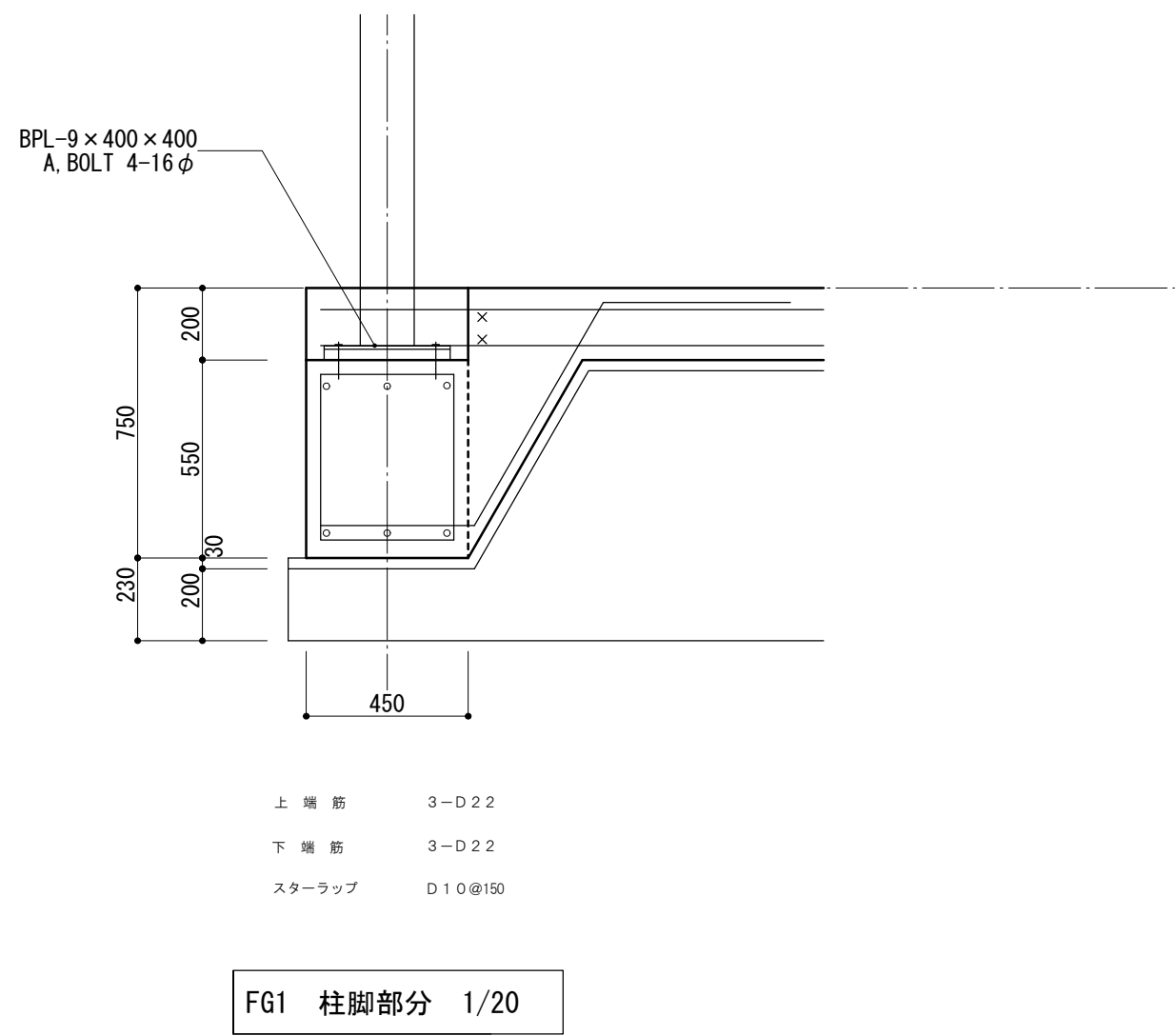
部材リスト			
符号	部 材	フランジ 接合	ウェジ 接合
C1	P-139. 8 × 6. 0		
G1	H-250 × 125 × 6 × 9	2SP/L-9 HTB 8-M20	2SP/L-6 HTB 6-M20
			GPL-9 HTB3-M20
CG	H-125 × 125 × 6. 5 × 9		
B1	P-114. 3 × 3. 5		GPL-6 HTB2-M16
B2	H-125 × 125 × 6. 5 × 9		GPL-6 HTB2-M16
B3	H-100 × 50 × 5 × 7		GPL-6 HTB2-M16
B4	軽シ ^① 型鋼-200 × 50 × 5		GPL-6 HTB2-M16
(破風受材)			
母屋	C-100 × 50 × 20 × 2. 3		GPL-6 HTB2-M16



軸組図 1/30



部材リスト			
符号	部 材	フランジ 接合	ウェブ 接合
C1	P-139.8 x 6.0		
G1	H-250 x 125 x 6 x 9 (SM400B)	2SPL-9 HTB 8-M20	2SPL-6 HTB 6-M20 GPL-9 HTB3-M20
CG	H-125 x 125 x 6.5 x 9		
B1	P-114.3 x 3.5		GPL-6 HTB2-M16
B2	H-125 x 125 x 6.5 x 9		GPL-6 HTB2-M16
B3	H-100 x 50 x 5 x 7		GPL-6 HTB2-M16
B4	軽鋼-200 x 50 x 5		GPL-6 HTB2-M16
母屋	C-100 x 50 x 20 x 2.3		GPL-6 HTB2-M16



特記事項

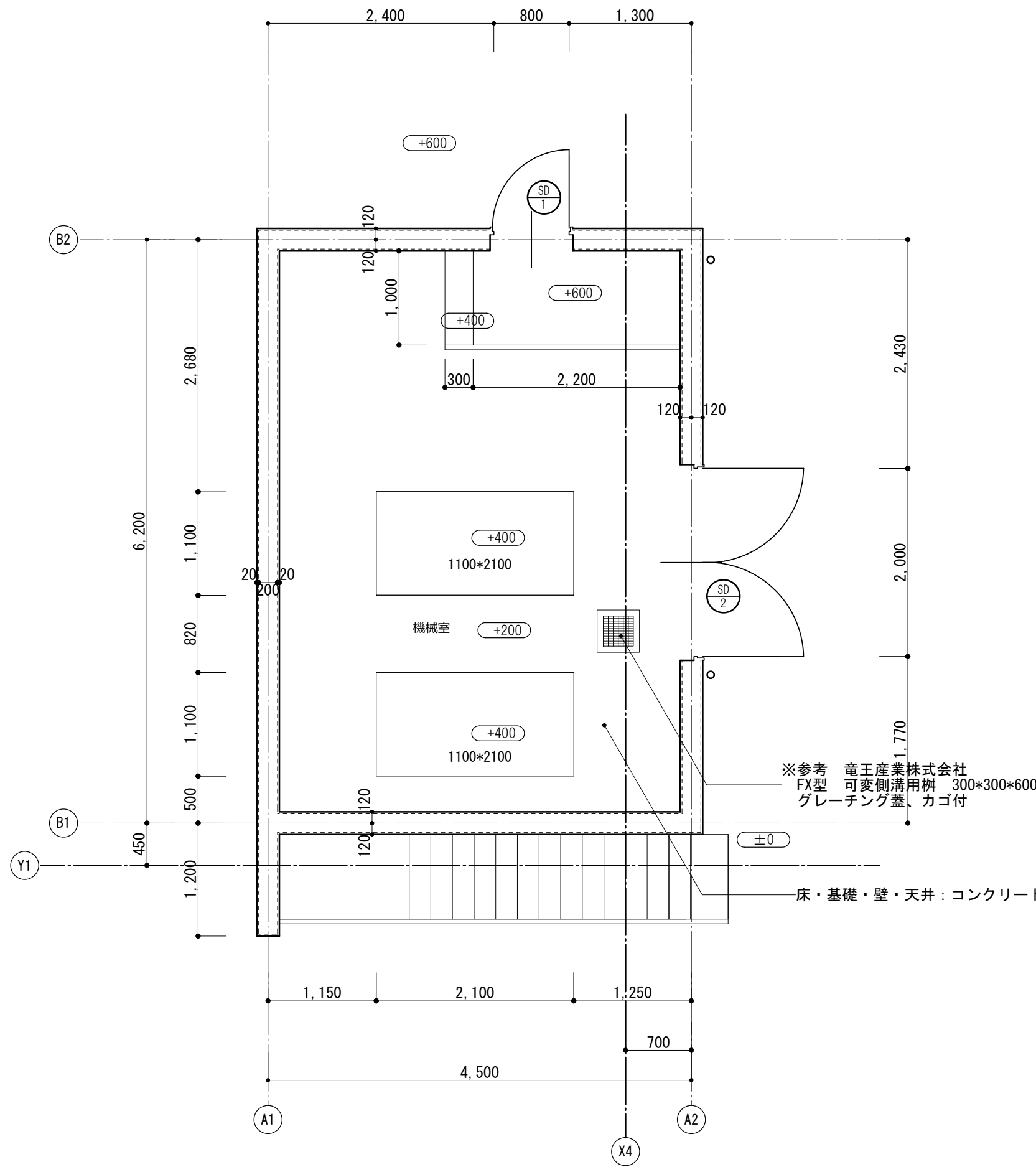


山梨建築設計監理事業協同組合

承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/30 A3→1/60
第145710号 第162184号
佐野 正秀 河西 聡
設計年月日

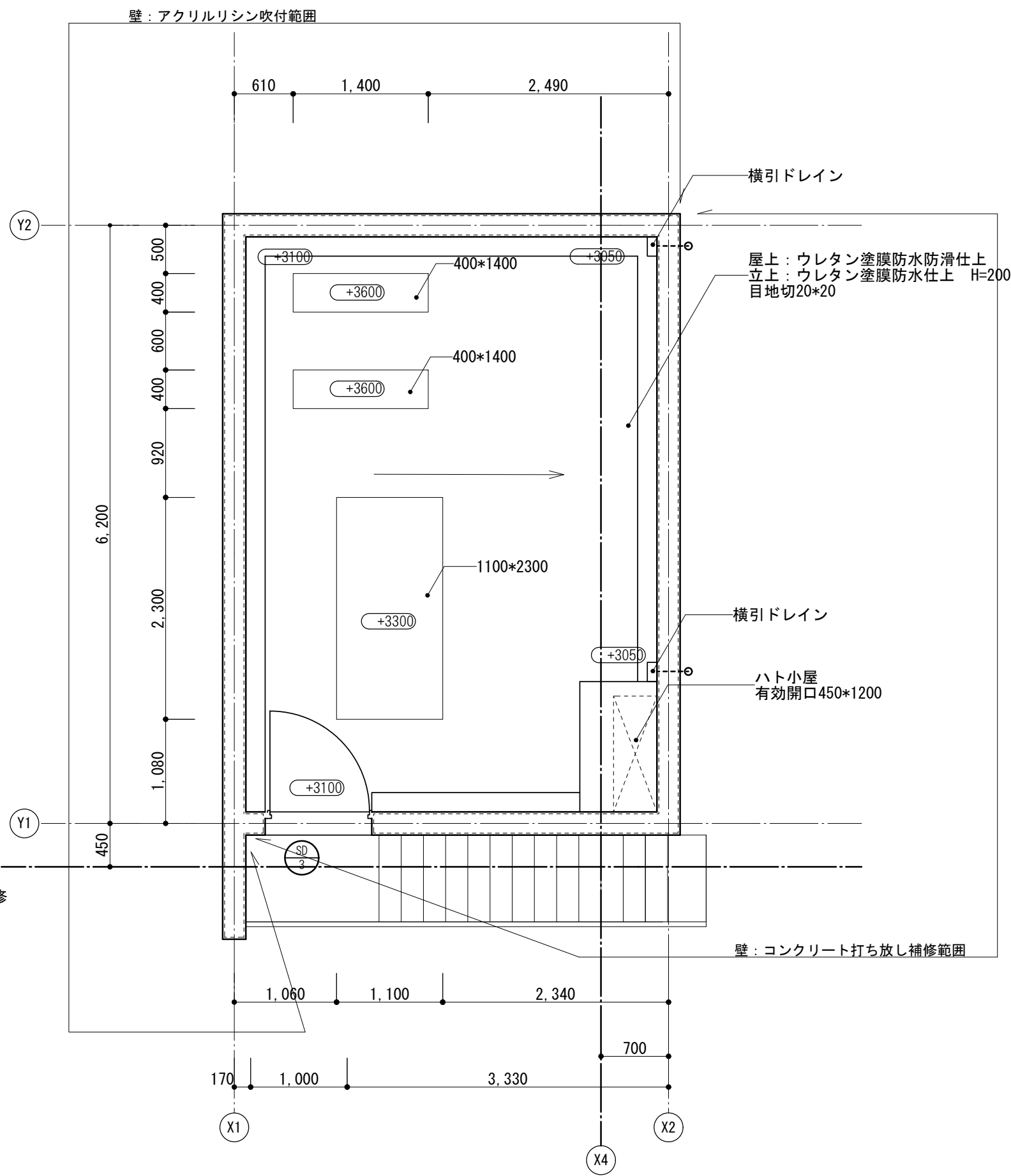
工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
（南ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称 鉄骨詳細図（東屋）

南ぺ A-19
No.

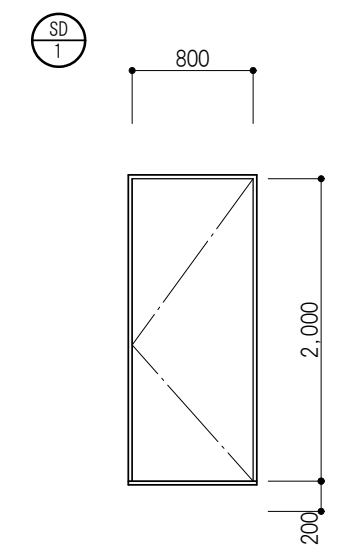


平面図

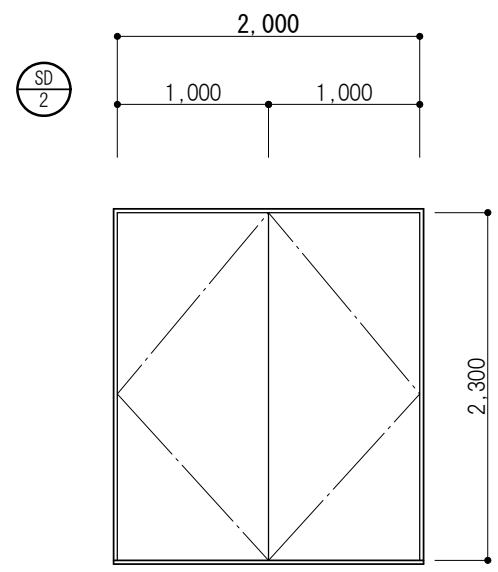
※設計GL=0=260. 92



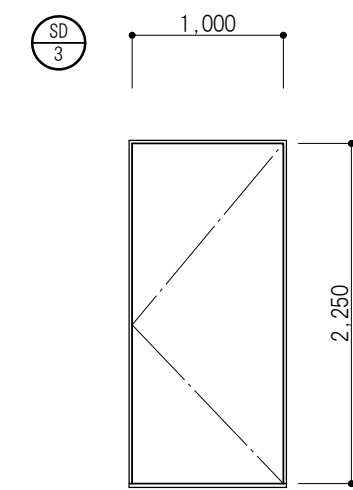
屋根伏図



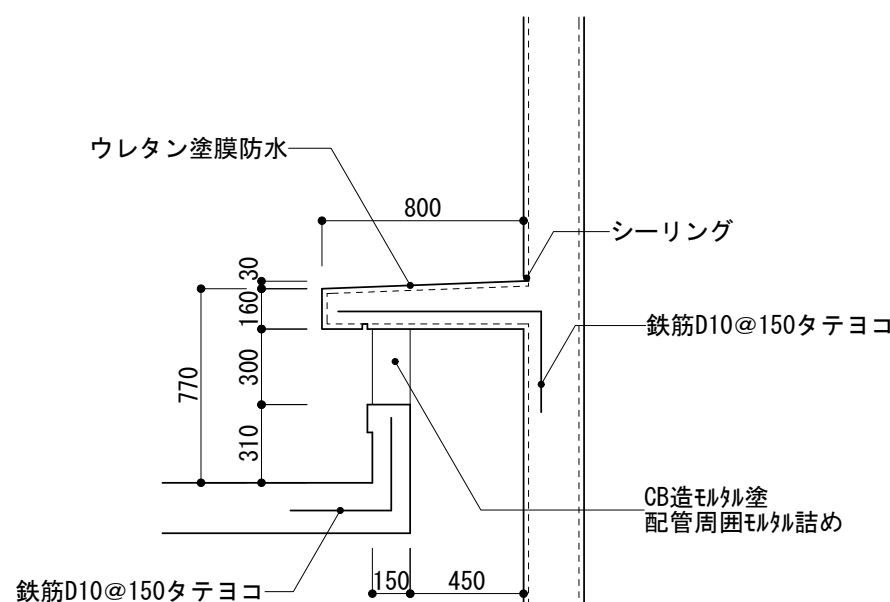
額付片開きドア 100
溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6 2-U-E
標準金物一式、丁番、D.C.、レバーハンドル、3方棒、下枠
外/シリンダー錠・内/サムターン



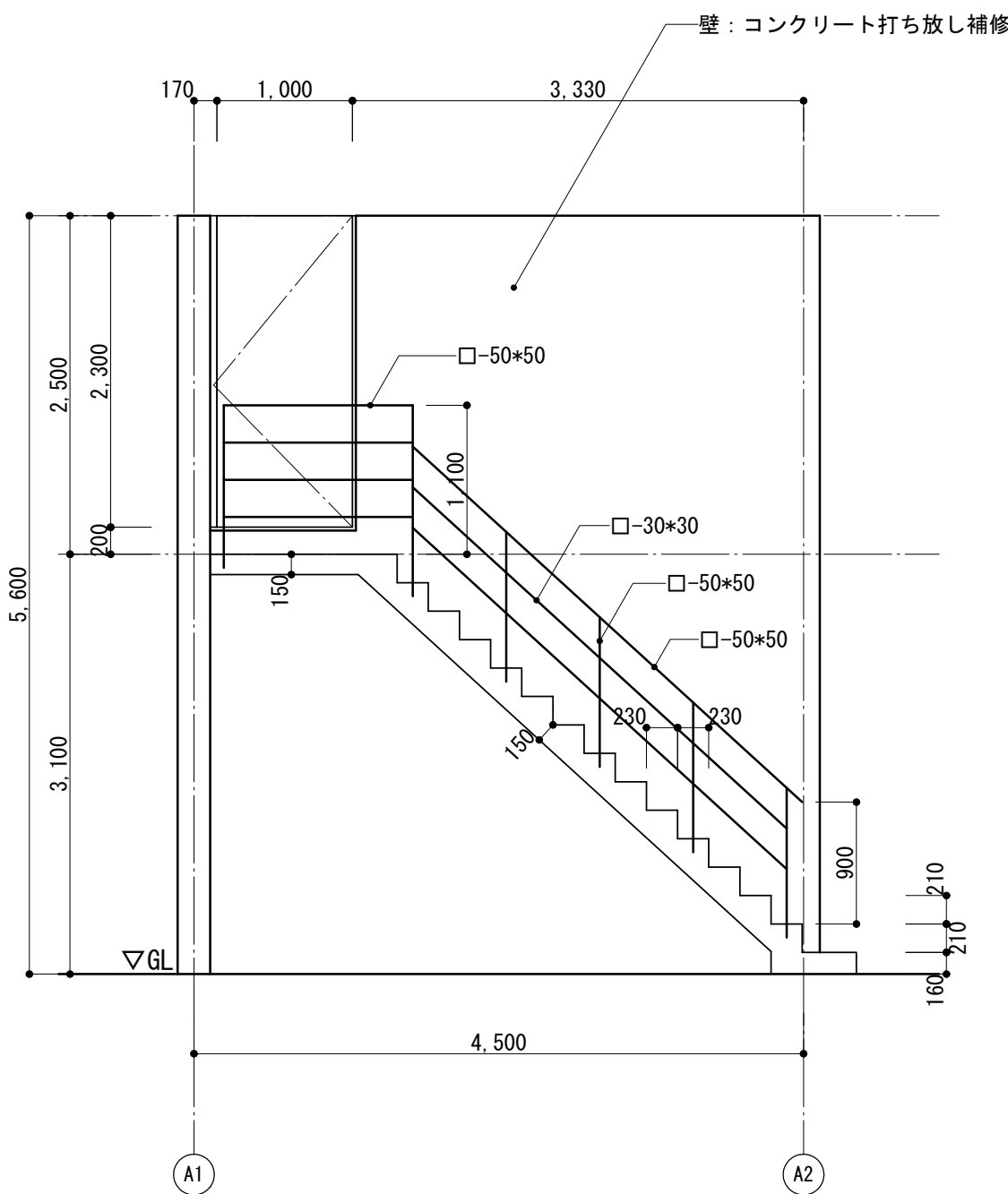
額付親子開きドア 100
溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6 2-U-E
標準金物一式、丁番、D.C.、レバーハンドル、3方棒、下枠
外/シリンダー錠・内/サムターン



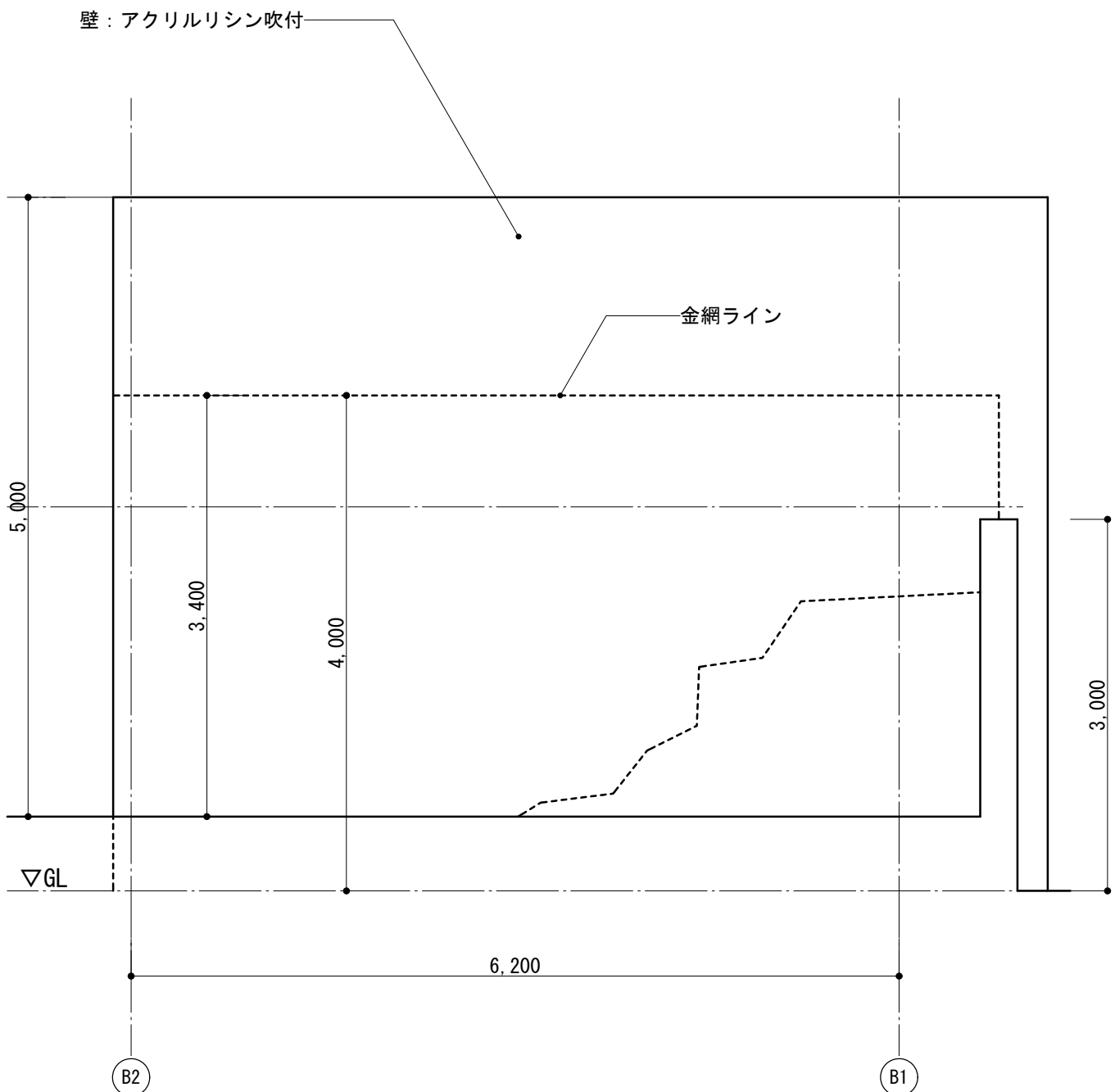
片開きドア
溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6 2-U-E
標準金物一式、丁番、レバーハンドル、両側受枠、下枠
外/シリンダー錠・内/サムターン



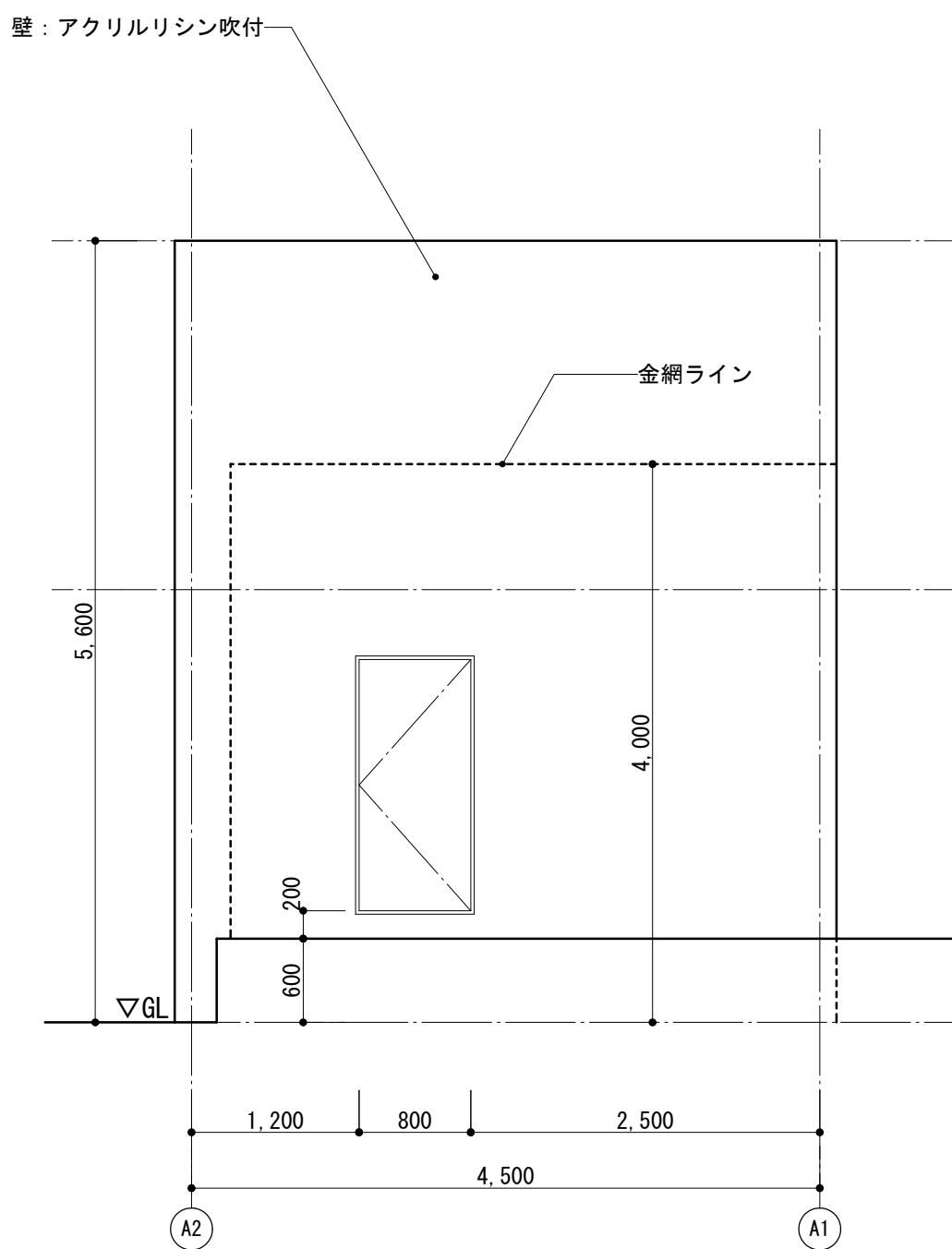
ハト小屋 1/30



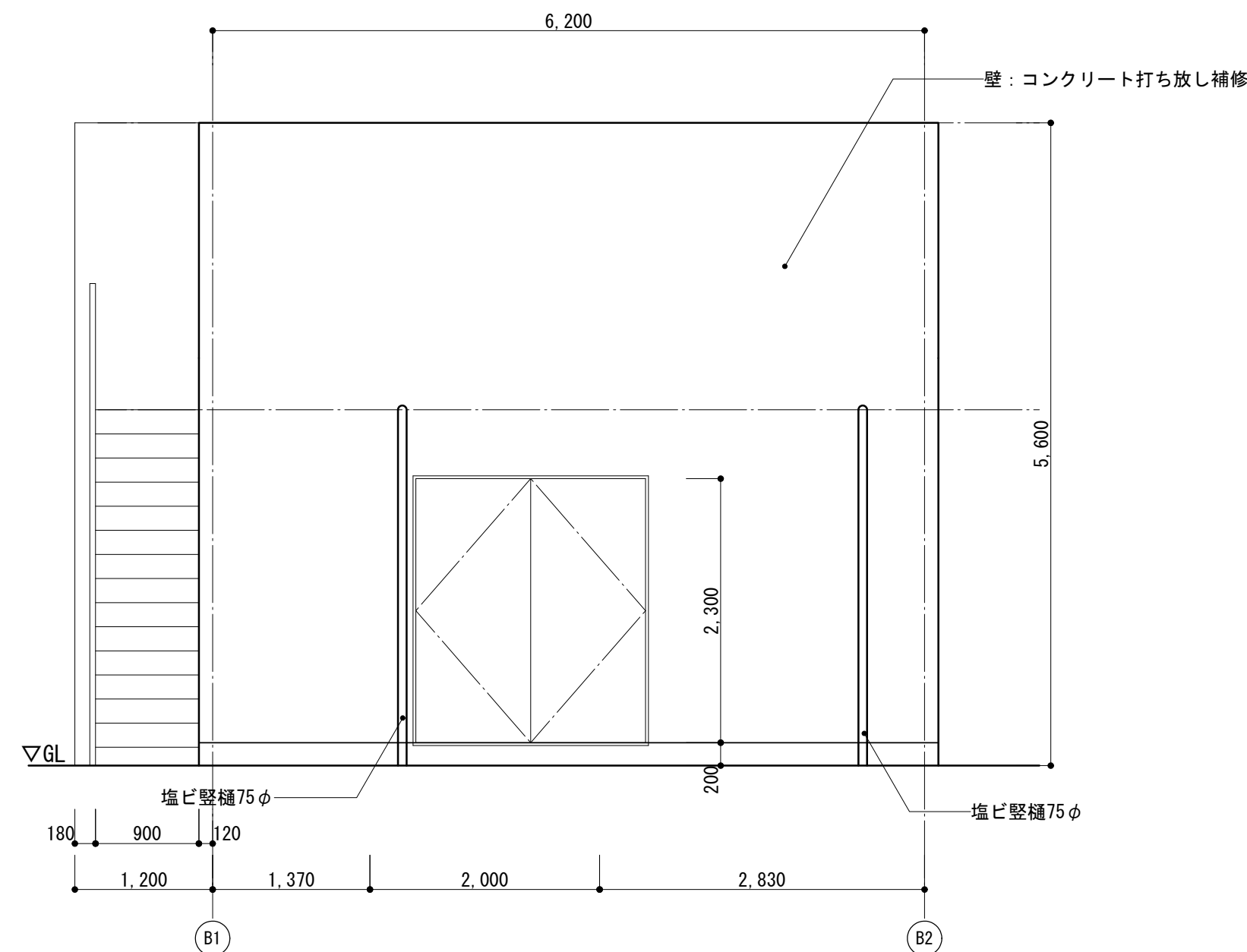
南側立面図



西側立面図



北側立面図



東側立面図

特記事項

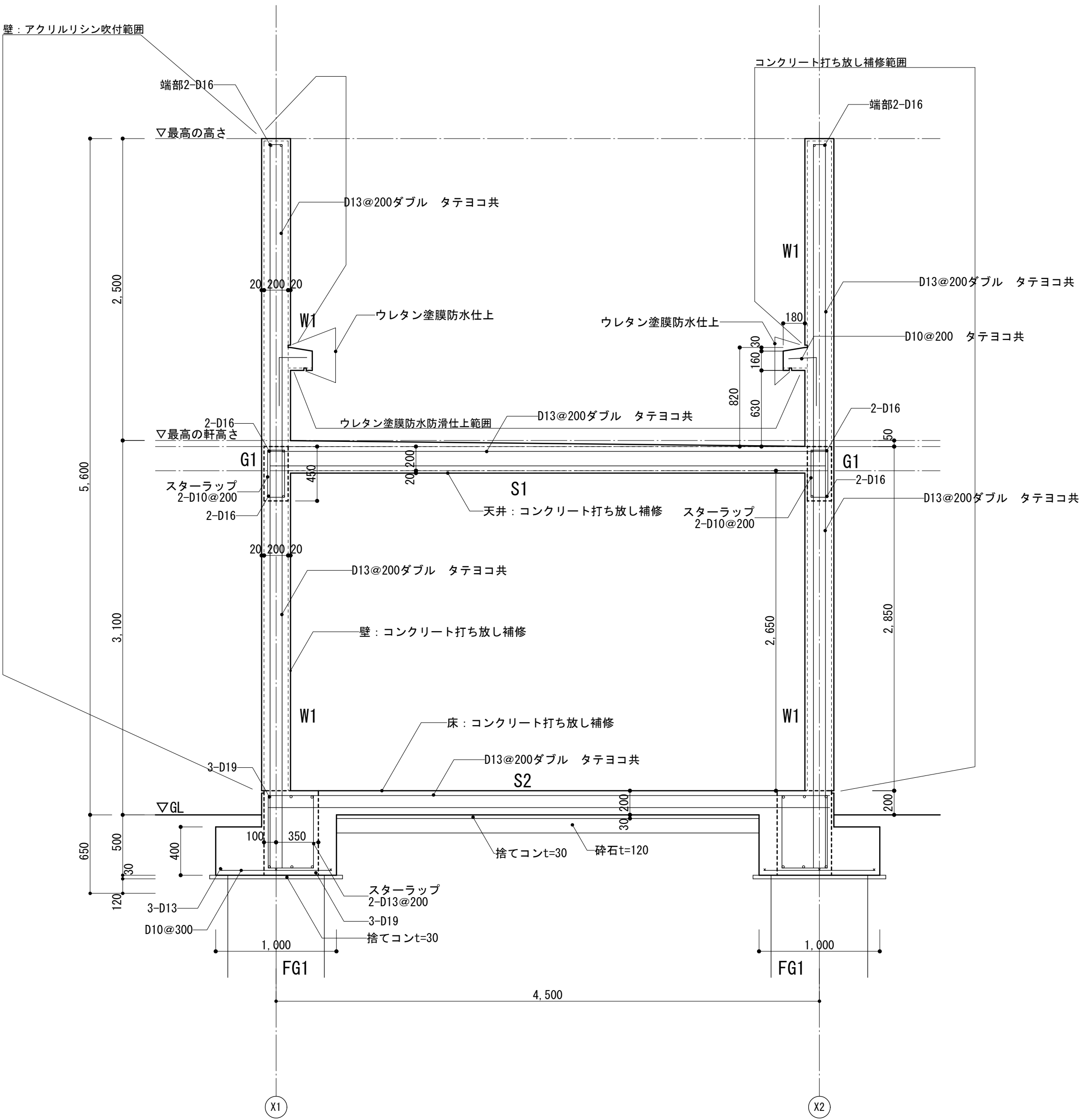


山梨建築設計監理事業協同組合

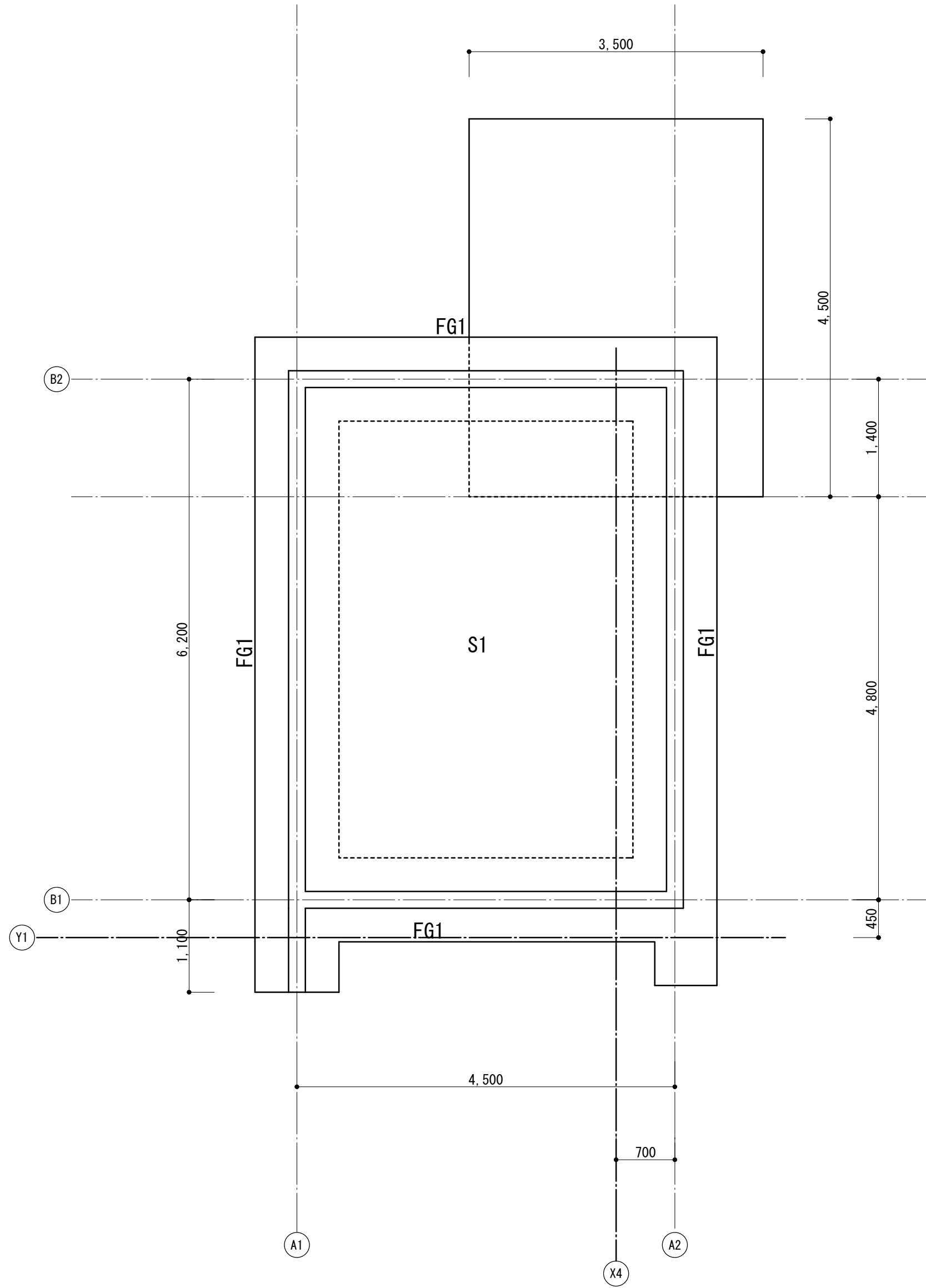
承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/50 A3→1/100
第145710号 第162184号
佐野 正秀 河西 聡
設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
（南ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称 平面図・屋根伏図・立面図（機械室）

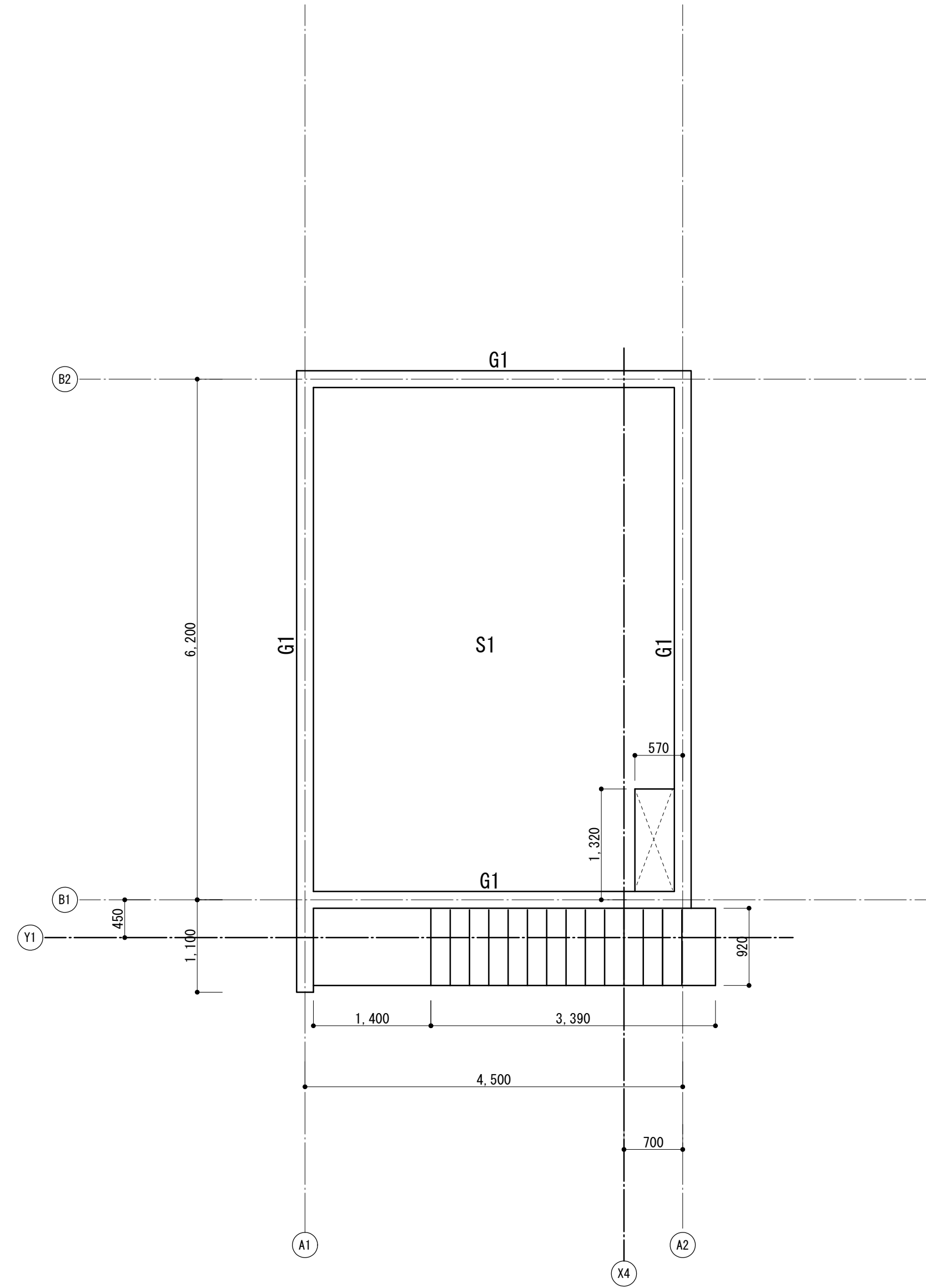
南ペ A-20
No.



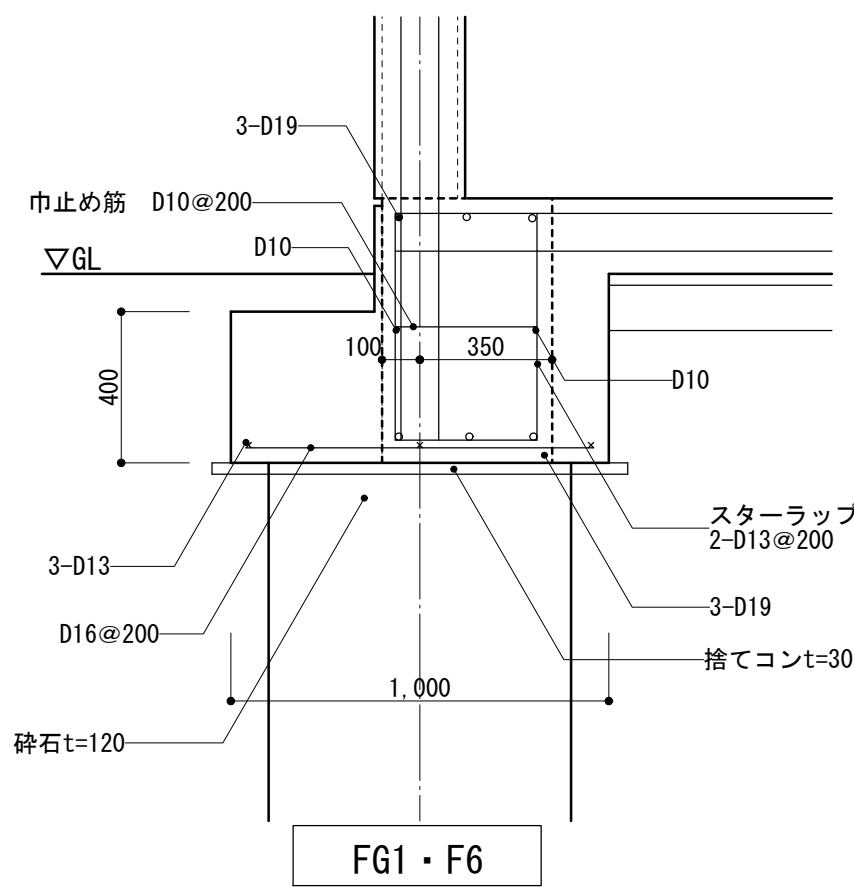
矩計図



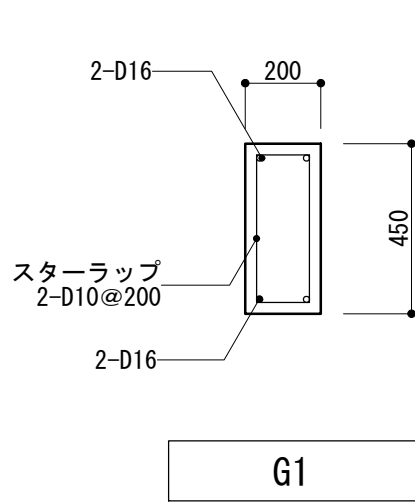
基礎伏図



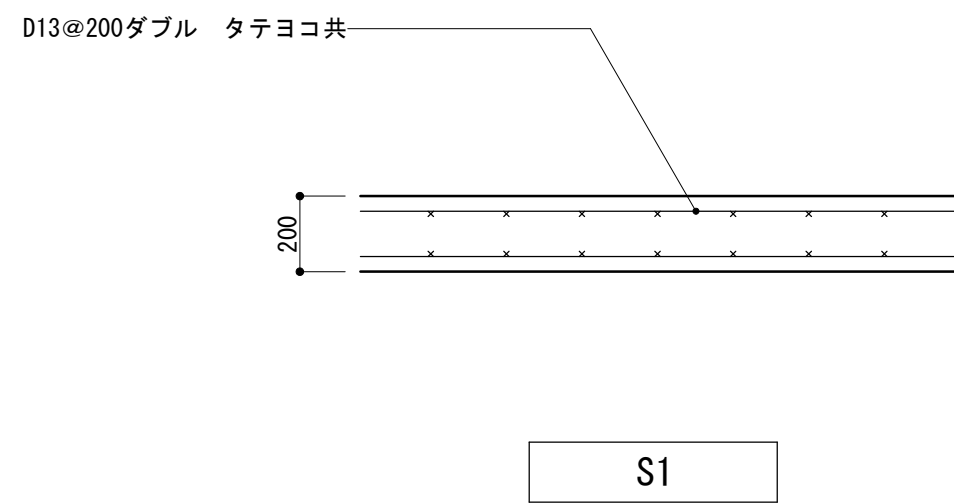
梁伏図



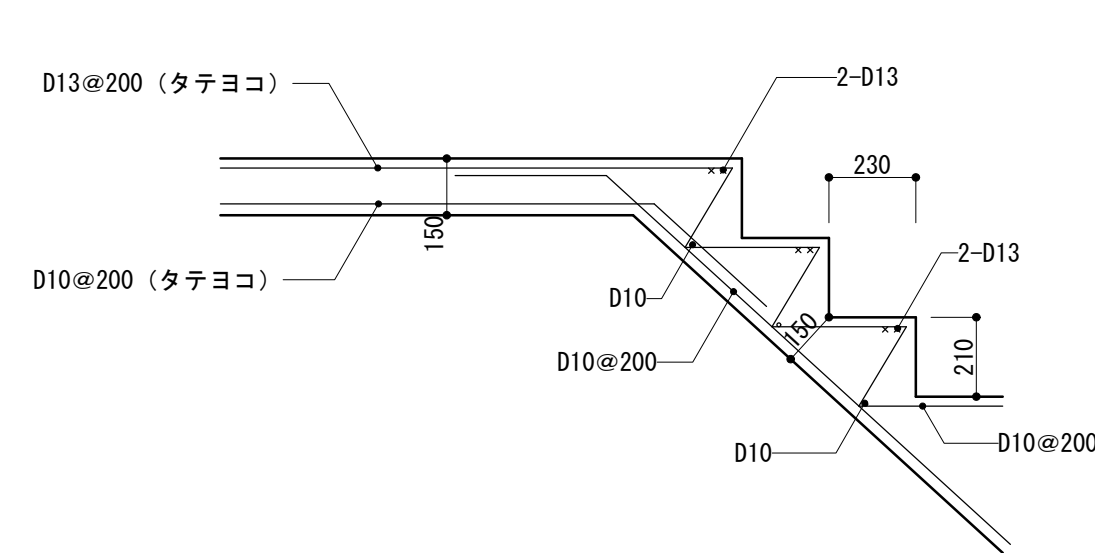
1/20



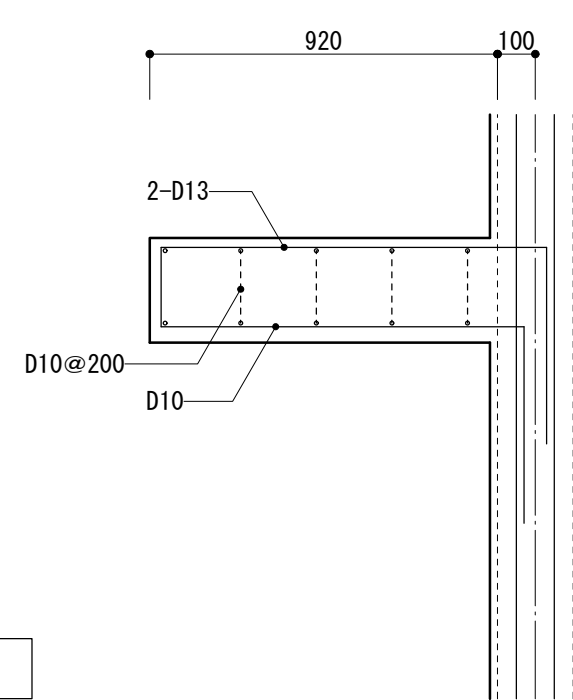
1/20



1/20



1/20



外階段

特記事項

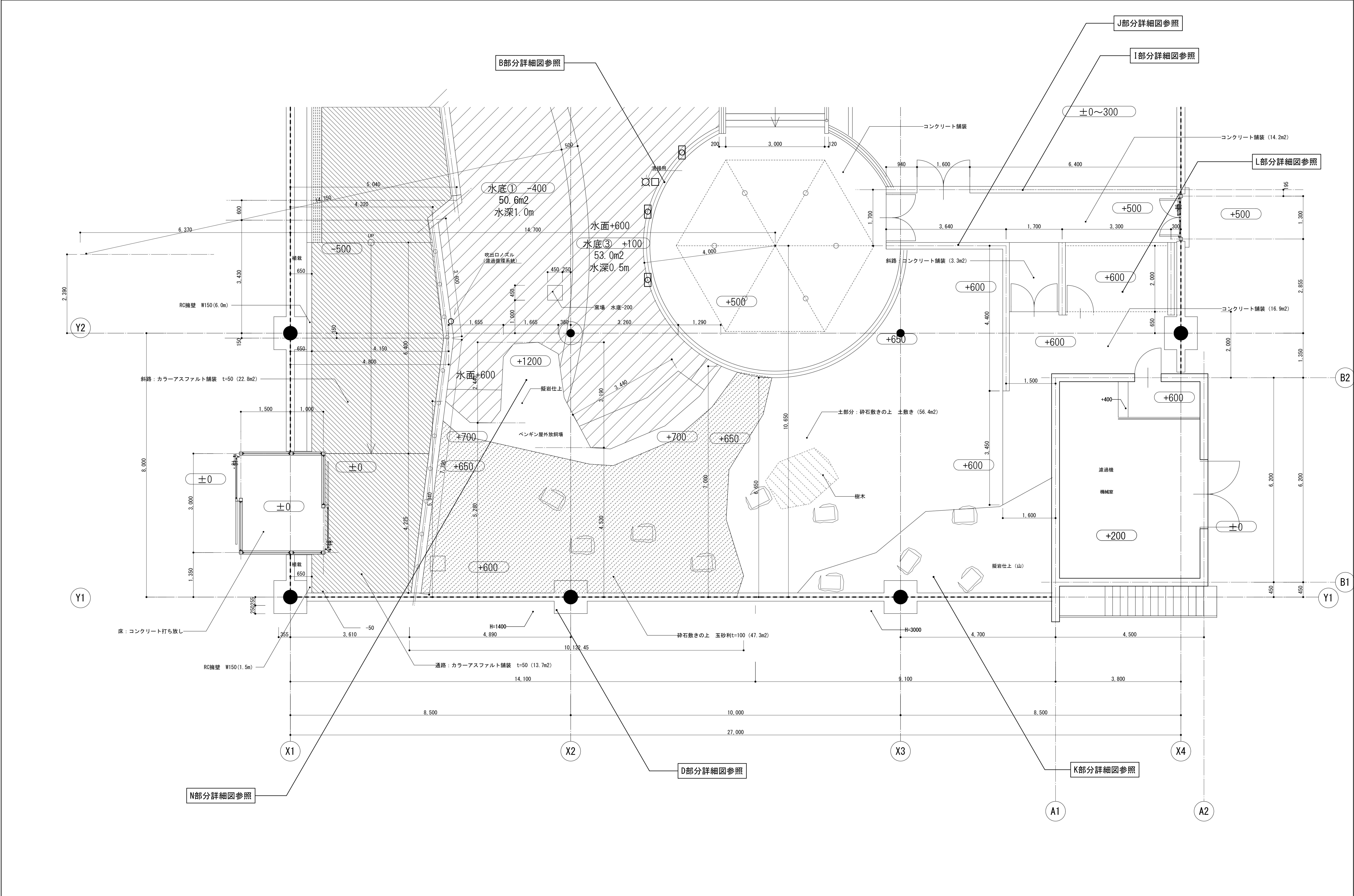


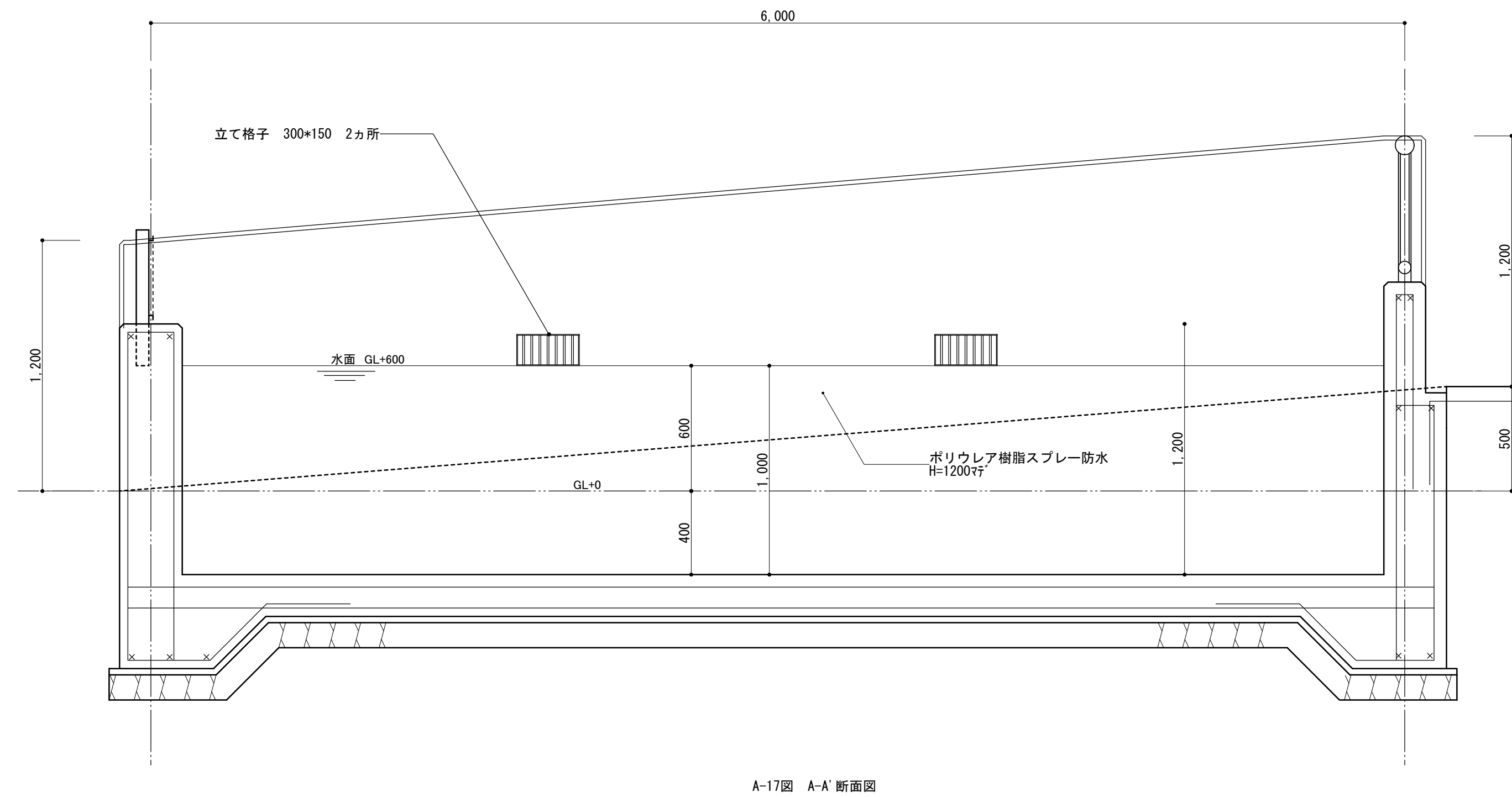
山梨建築設計監理事業協同組合

承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/50 A3→1/100
第145710号 第162184号
設計年月日
佐野 正秀 河西 聡

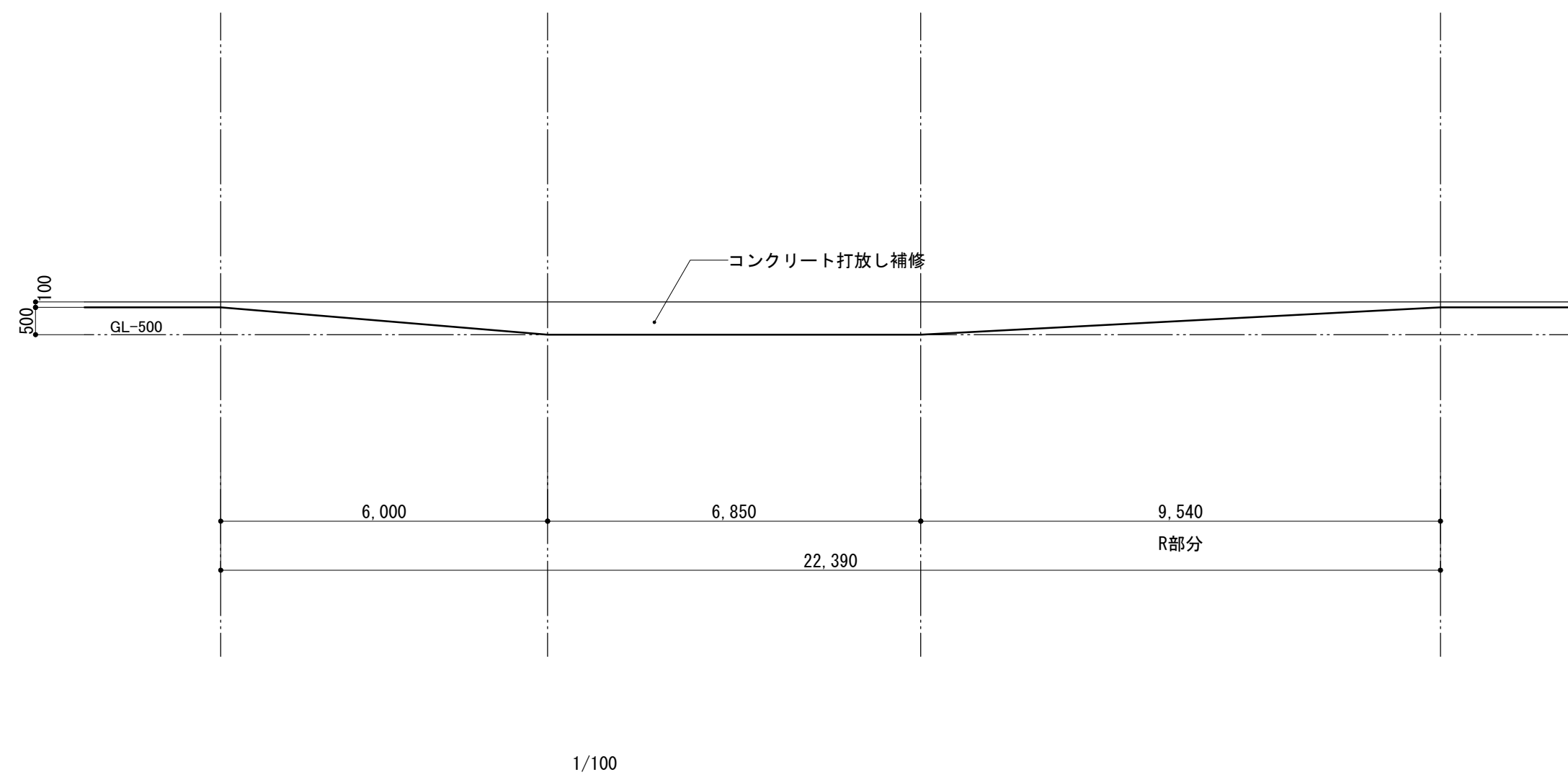
工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
（南—ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称 基礎伏図・断面図（機械室）

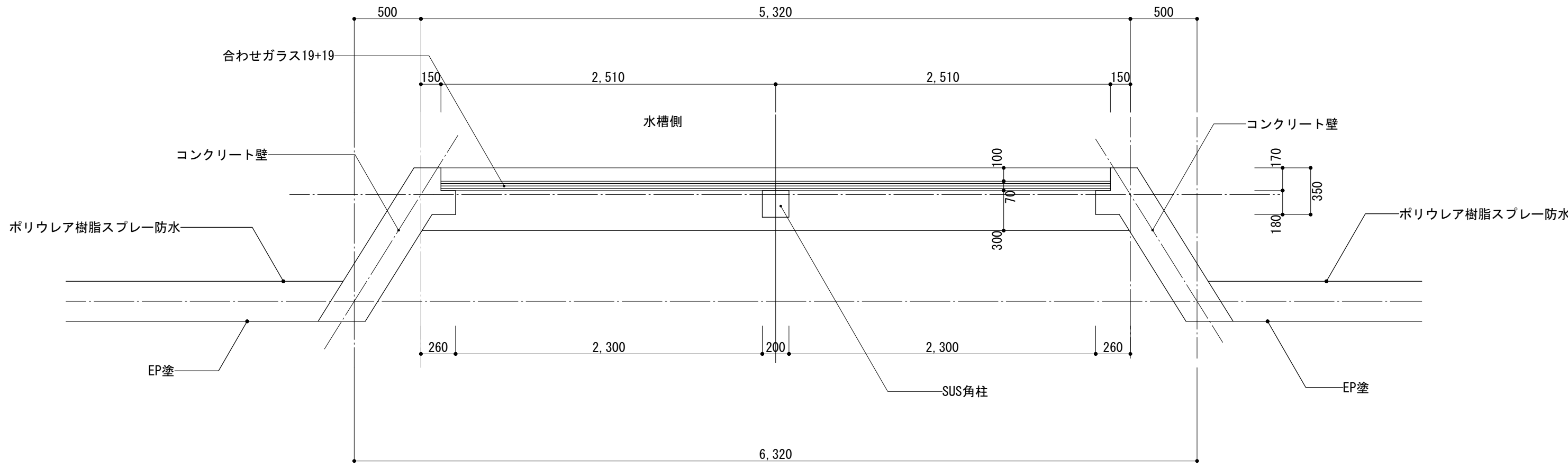
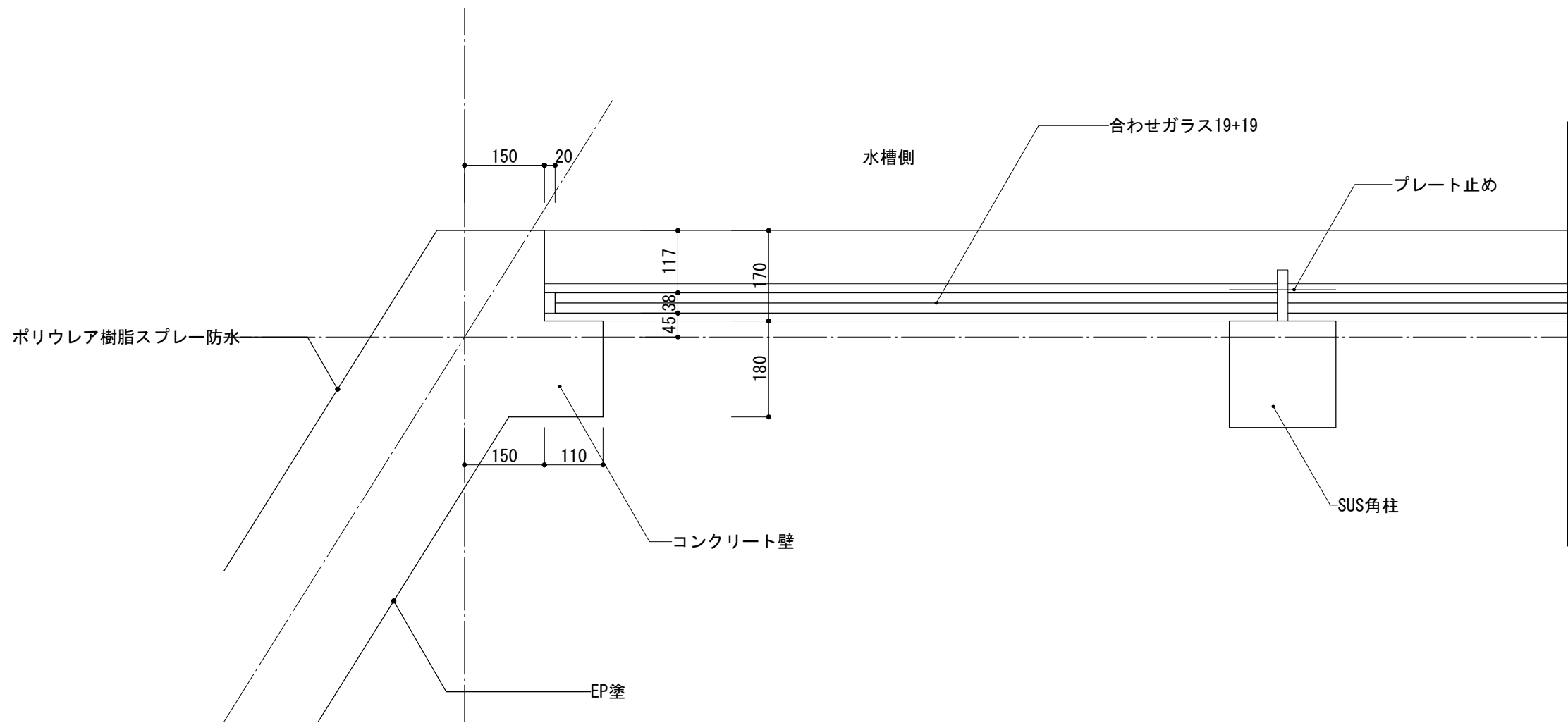
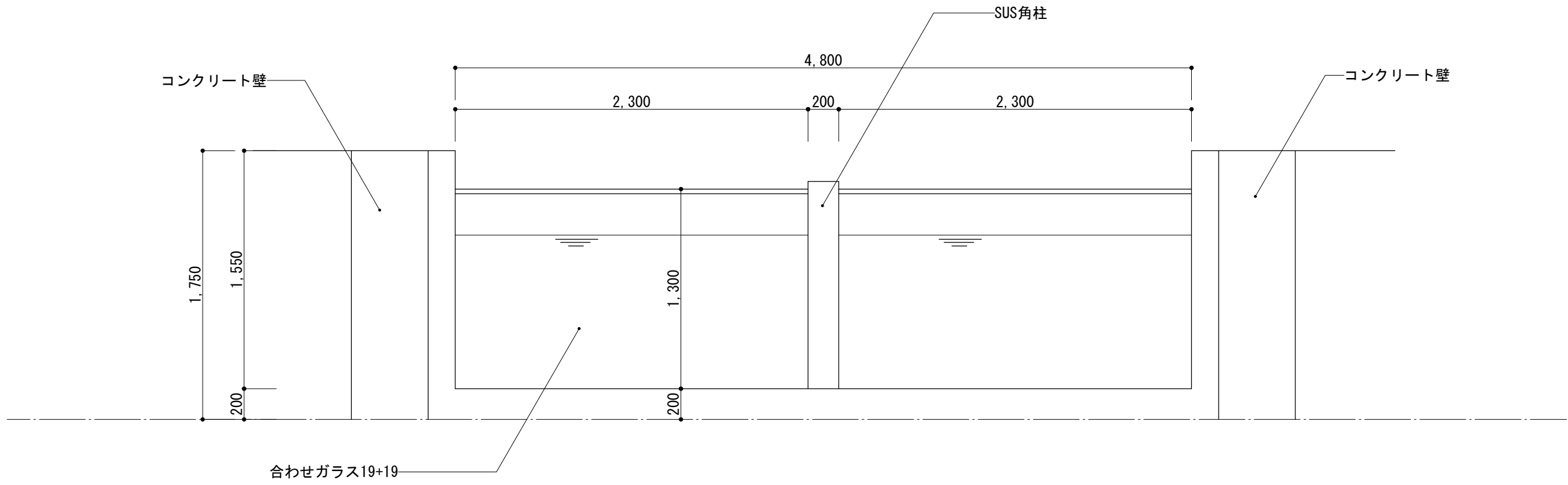
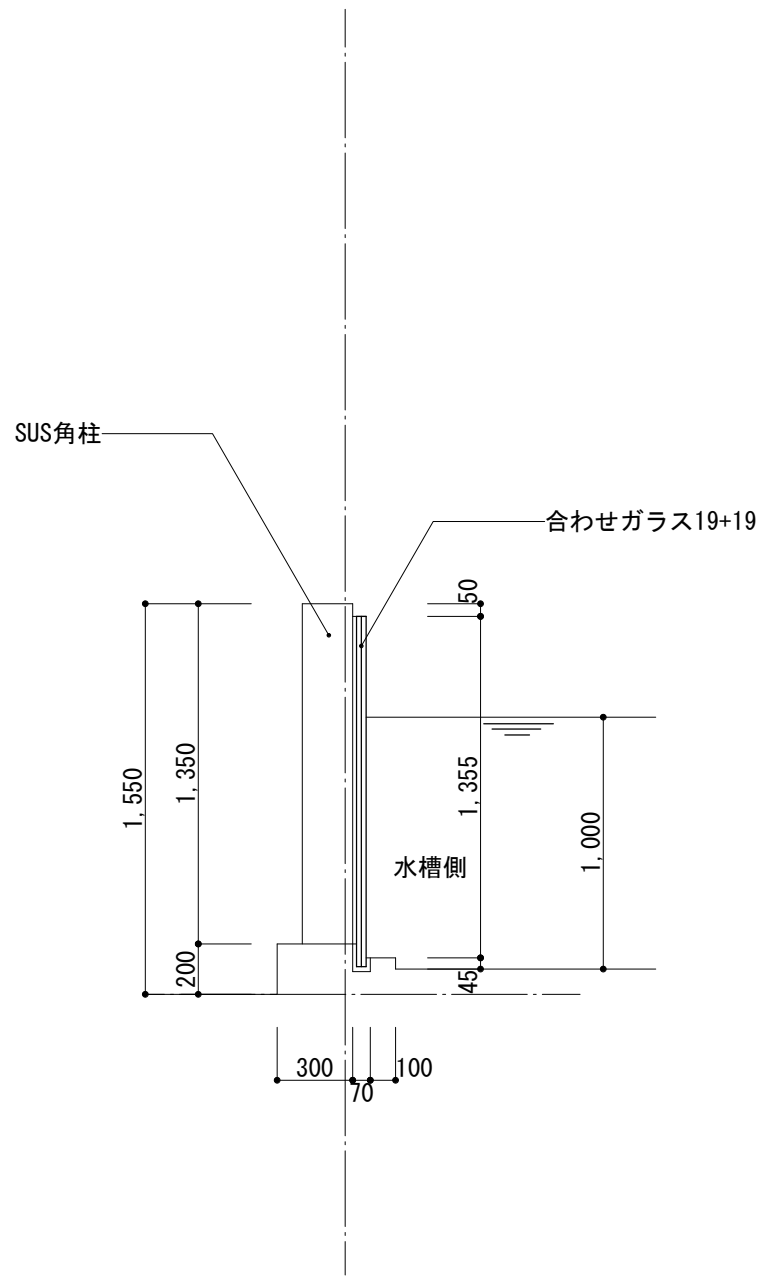
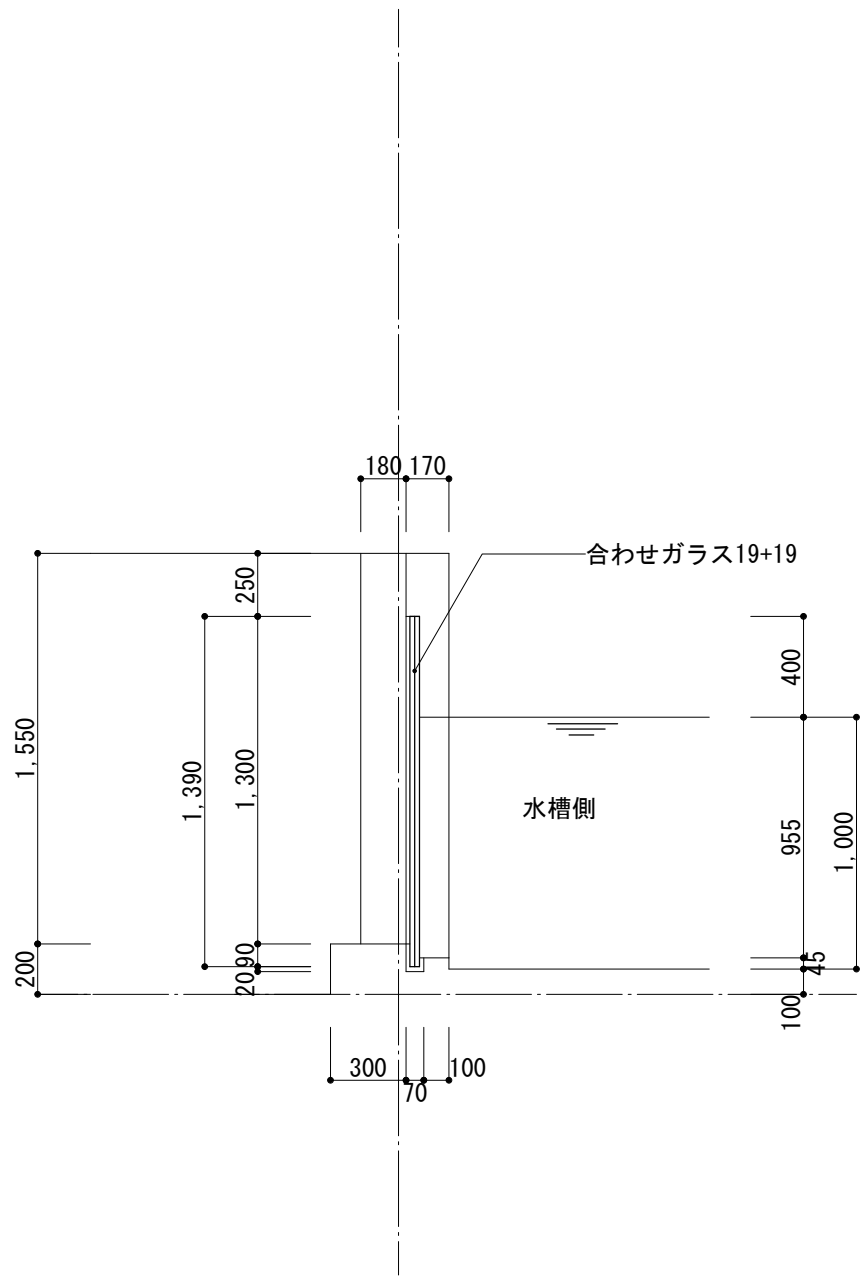
南ペ A-22
No.





A-17图 A-A' 断面图





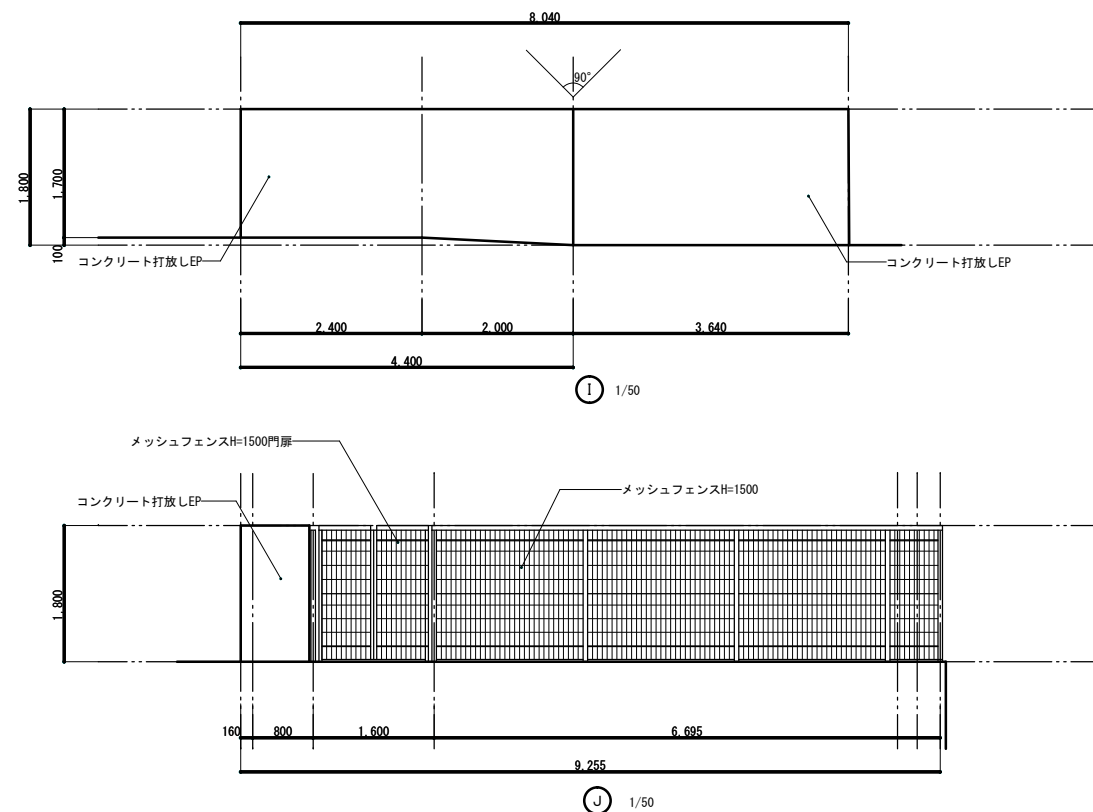
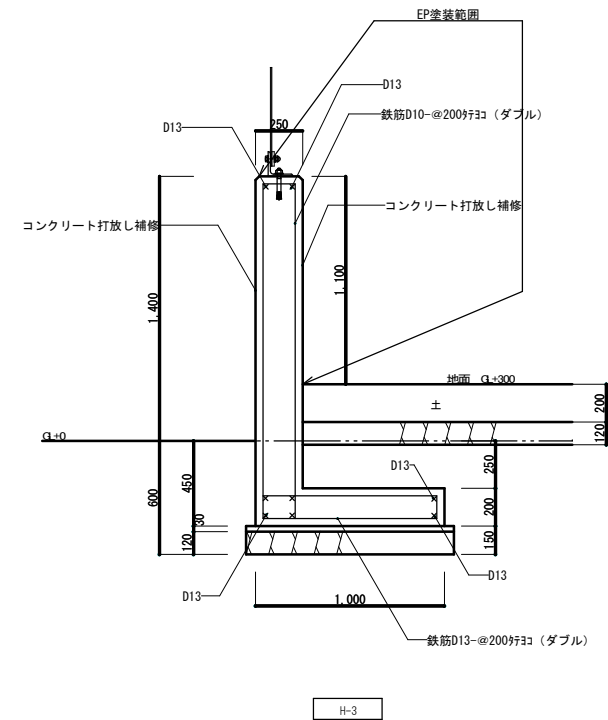
特記事項

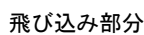
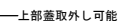
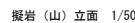
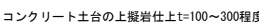
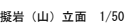
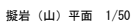
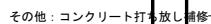


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮尺	工事名称	図面名称
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）	詳細図3

南ペ A-27
No.





特記

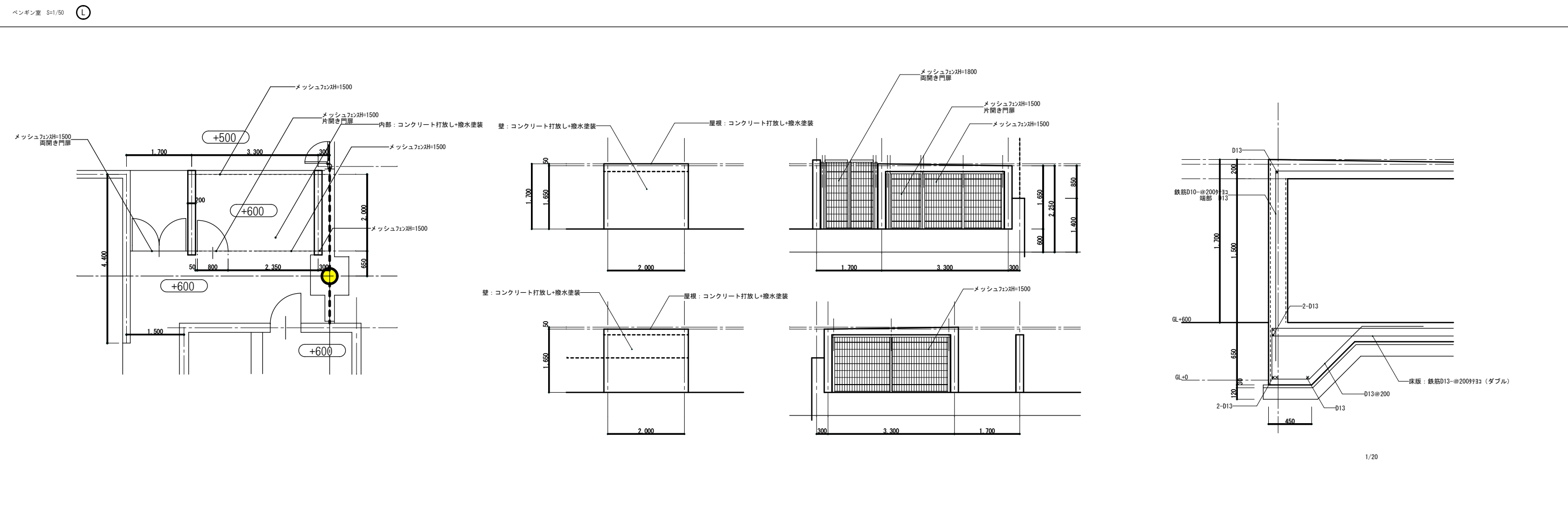
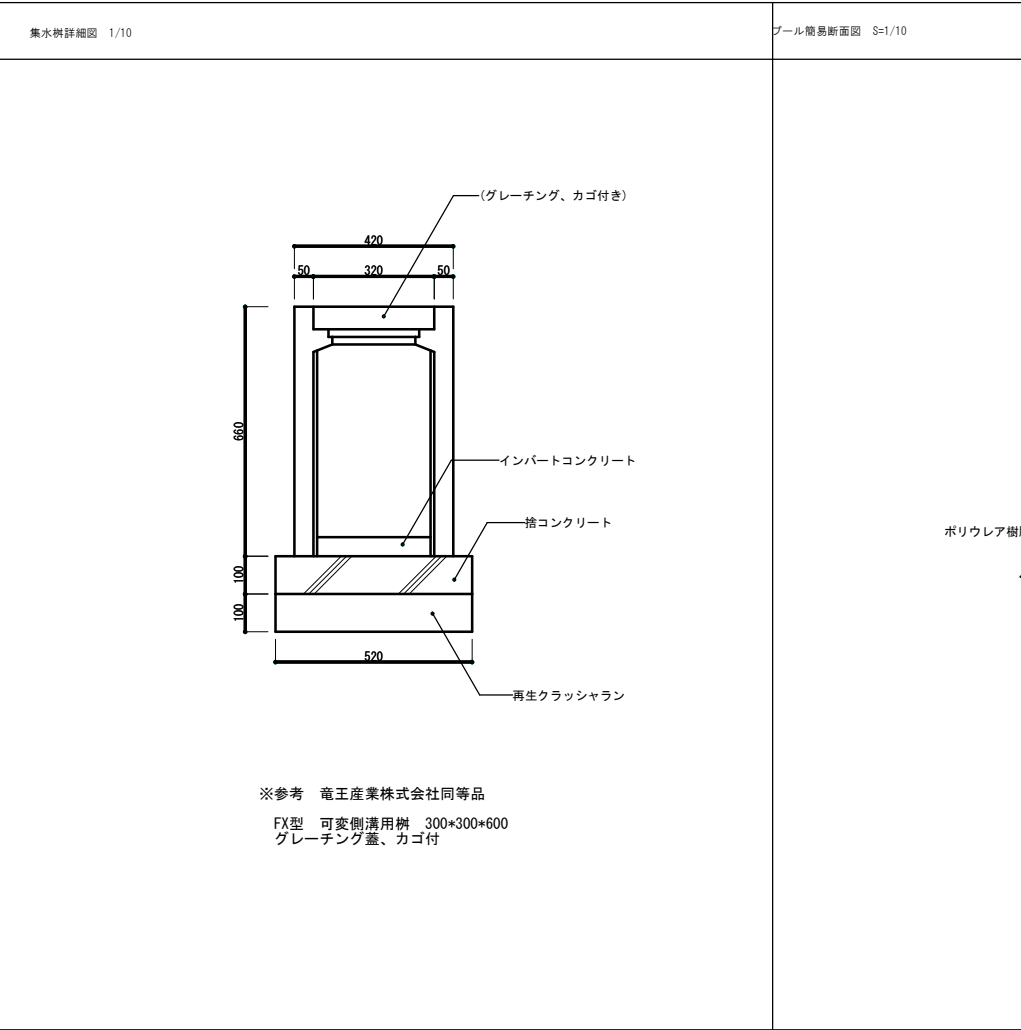
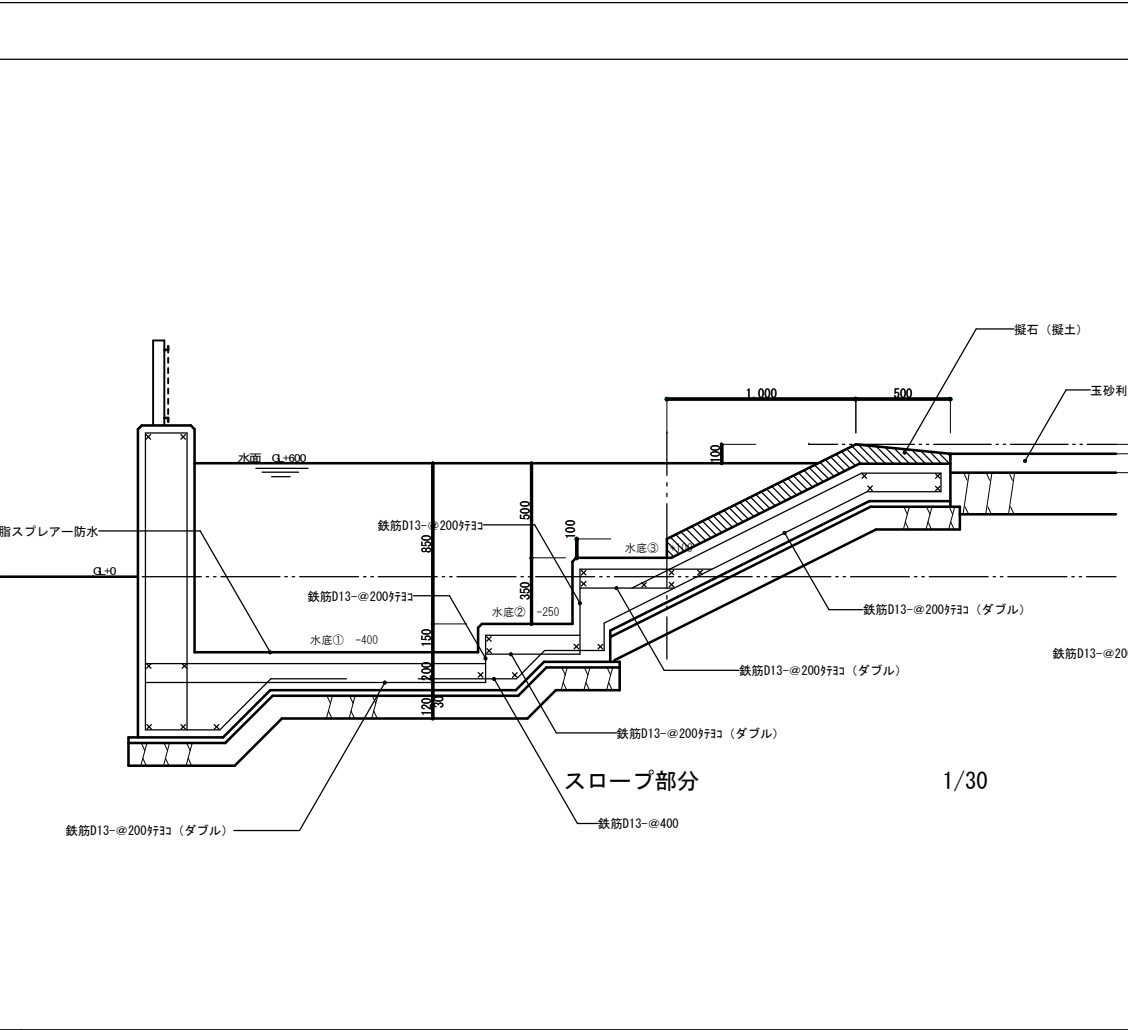
山梨建築設計監理事業協同組合承認


代表設計	
------	--

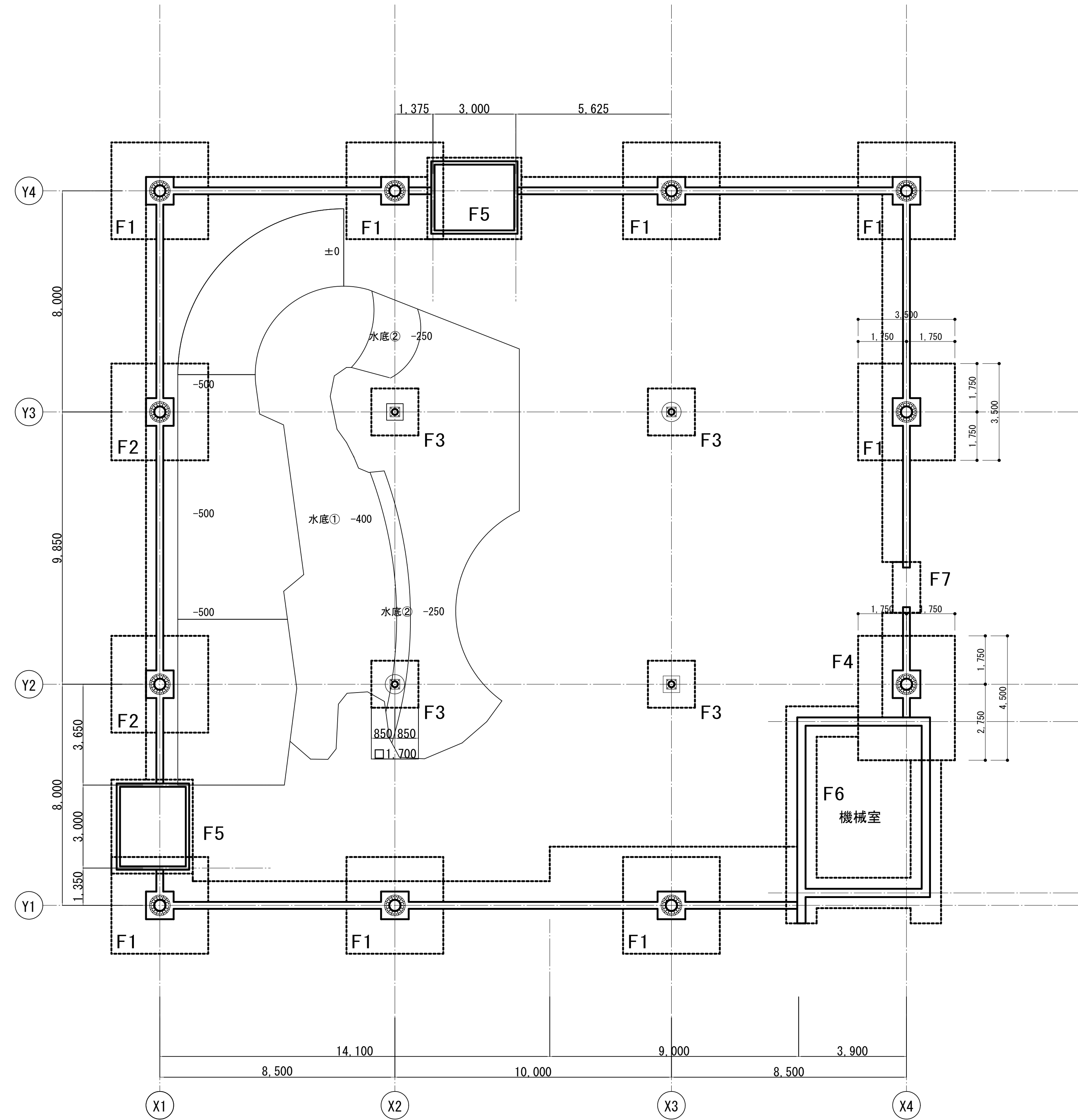
設計担当縮
$$A1 \rightarrow 1/20 \quad A3 \rightarrow 1/40$$
設計年月日

工事名称

図面名称

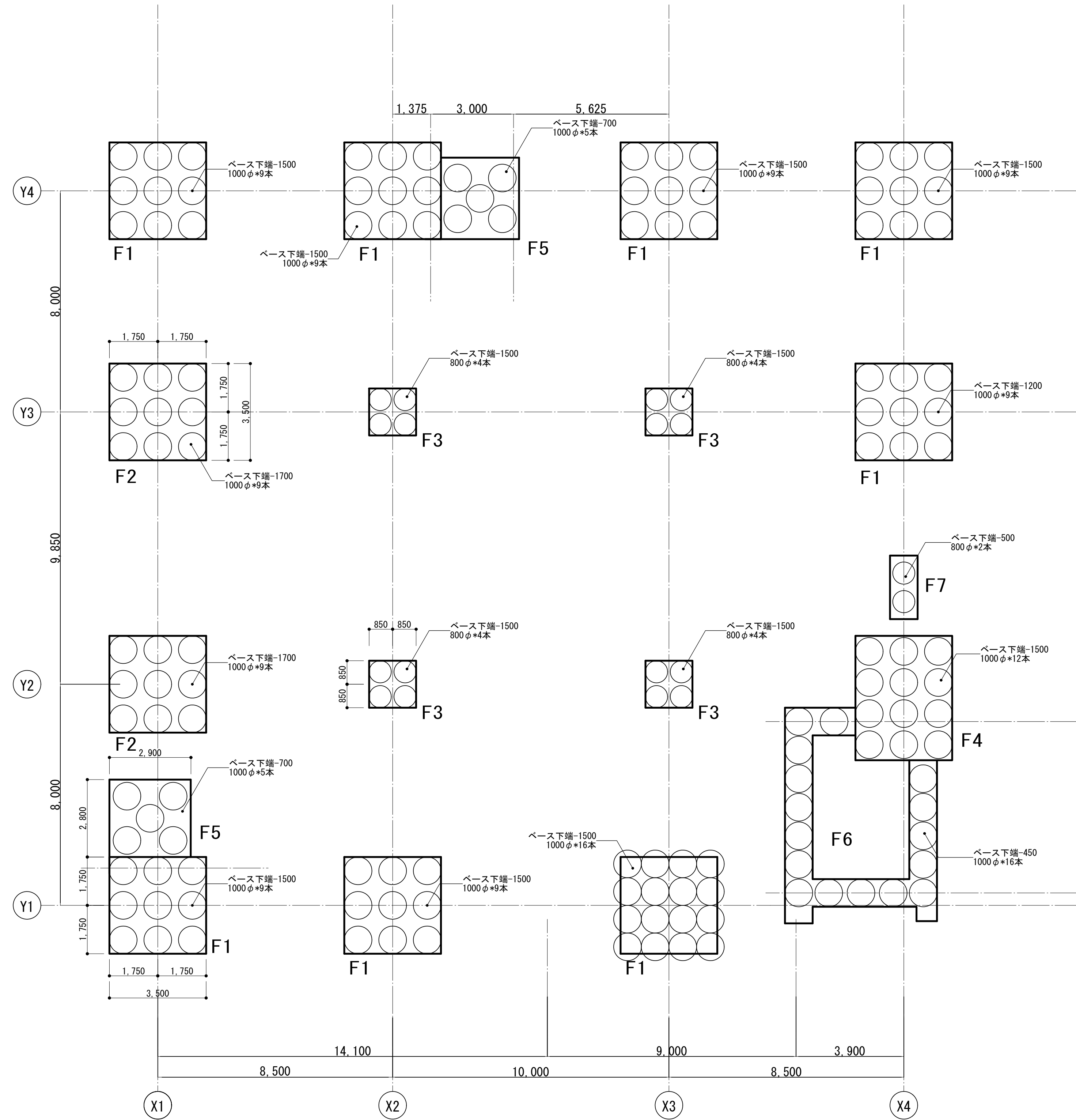
ペンギン舎 S=1/50			L										
			1/20										
集水溝詳細図 1/10			プール簡易断面図 S=1/10										
 <p>※参考 竜王産業株式会社同等品 FX型 可変側溝用柵 300*300*600 グレーチング蓋、カゴ付</p>			 <p>階段部分</p>										
<div>特記事項</div>			<div>山梨建築設計監理事業協同組合</div>										
			<table><tr><td>承認</td><td>代表設計者</td><td>設計担当者</td><td>縮尺</td></tr><tr><td></td><td>一級建築士 第145710号 佐野 正秀</td><td>一級建築士 第162184号 河西 聡</td><td>A1→1/50 A3→1/100 設計年月日</td></tr></table>			承認	代表設計者	設計担当者	縮尺		一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日
承認	代表設計者	設計担当者	縮尺										
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日										
			<table><tr><td>工事名称</td><td>遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南ペンギン・フラミンゴ舎）</td></tr><tr><td>図面名称</td><td>詳細図7</td></tr></table>			工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南ペンギン・フラミンゴ舎）	図面名称	詳細図7				
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南ペンギン・フラミンゴ舎）												
図面名称	詳細図7												
			南ぺ A-31 No.										

ペンギン擬岩 S=1/50 (M)		ペンギン擬岩 S=1/50 (N)														
オイルタンクフェンス S=1/50 (O)																
<div>特記事項</div>		<div>山梨建築設計監理事業協同組合</div>														
		<table><tr><td>承認</td><td>代表設計者</td><td>設計担当者</td><td>縮尺</td></tr><tr><td></td><td>一級建築士 第145710号 佐野 正秀</td><td>一級建築士 第162184号 河西 聡</td><td>A1→1/20 A3→1/40 設計年月日</td></tr></table>	承認	代表設計者	設計担当者	縮尺		一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/20 A3→1/40 設計年月日	<table><tr><td>工事名称</td><td>遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）</td></tr><tr><td>図面名称</td><td>詳細図8</td></tr></table>	工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）	図面名称	詳細図8	<div>南ペ A-32 No.</div>
承認	代表設計者	設計担当者	縮尺													
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/20 A3→1/40 設計年月日													
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）															
図面名称	詳細図8															



基礎伏図 S=1/100

使用鋼材：普通鋼材 SS400
仕 上：有機金属不動態化塗装「エコストコート」同等品
本製品は（一社）日本公園施設業協会による
公園施設団体賠償責任保険制度の加入品とする

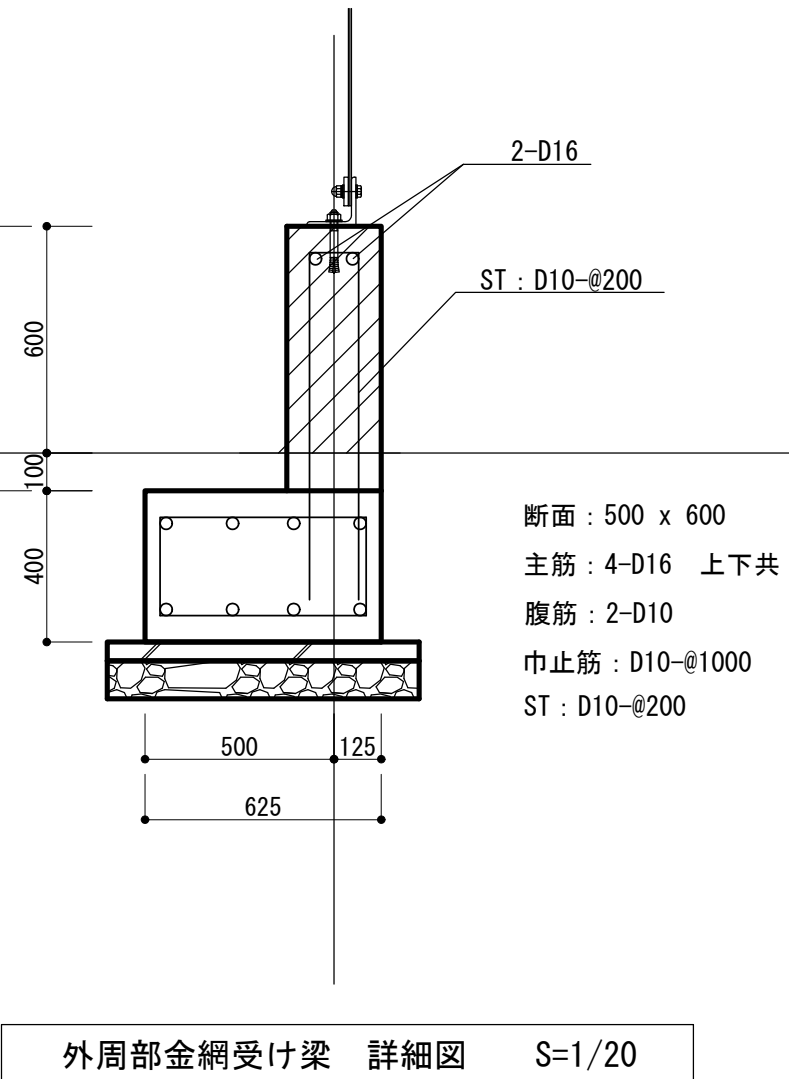
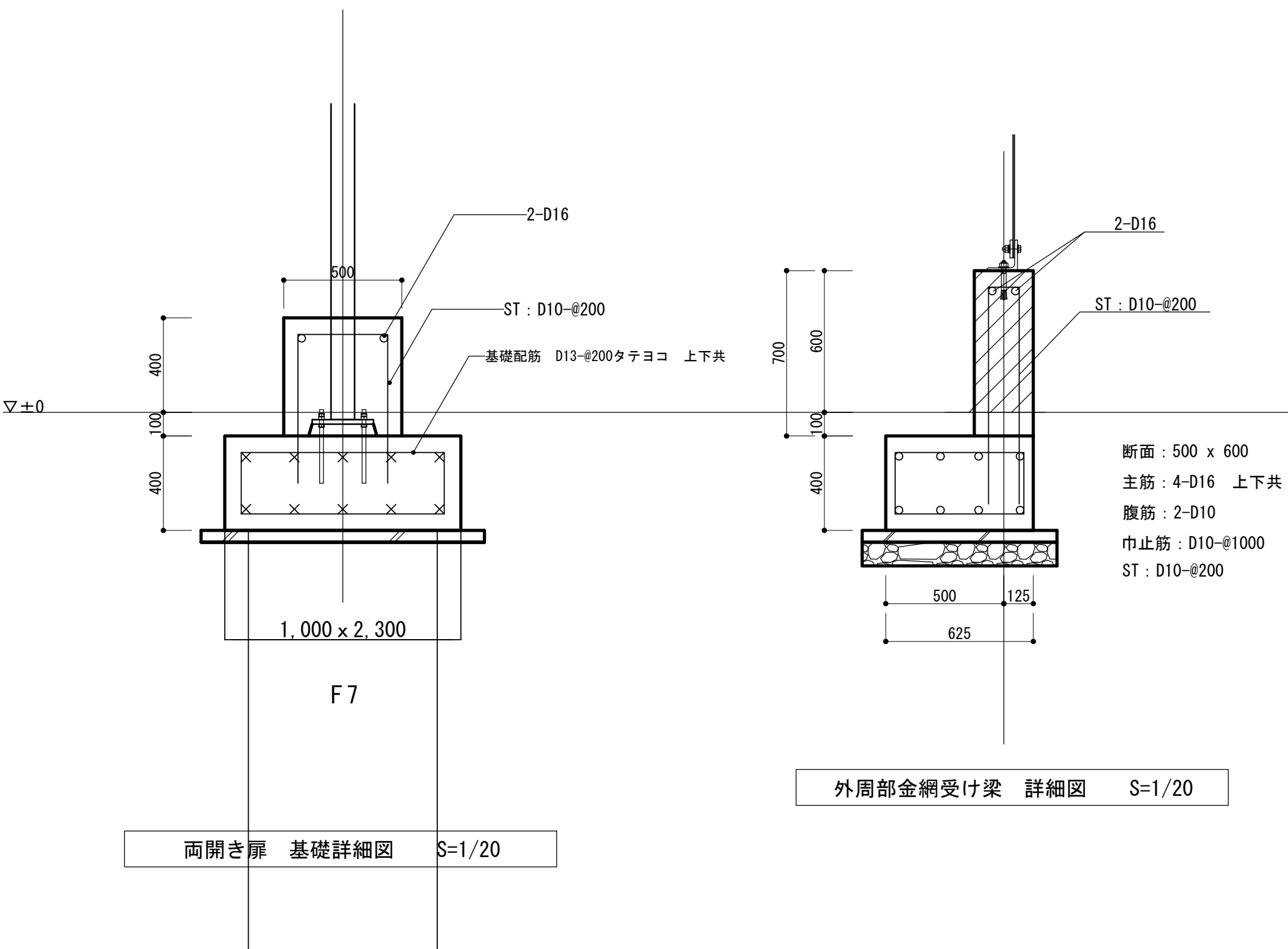
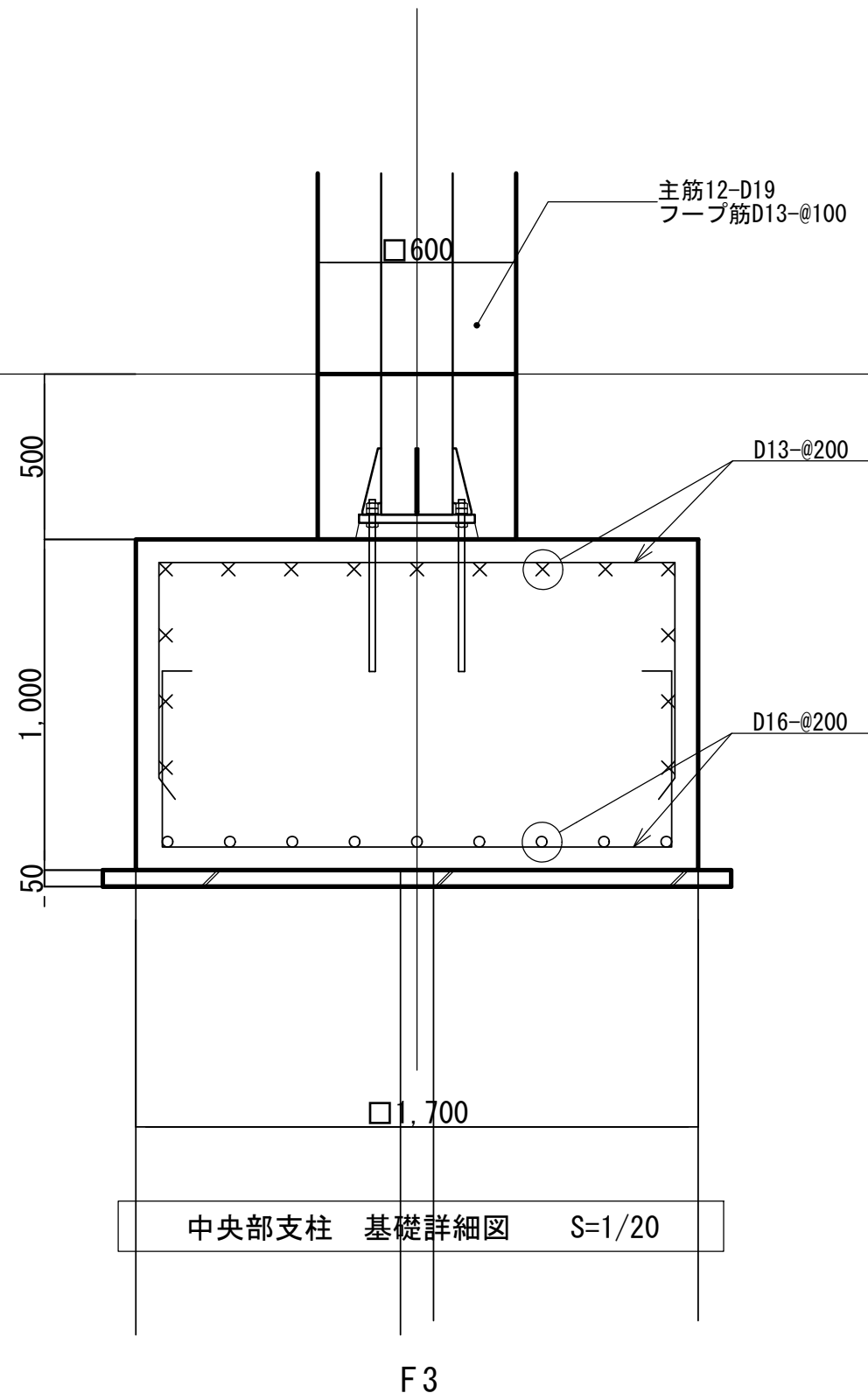
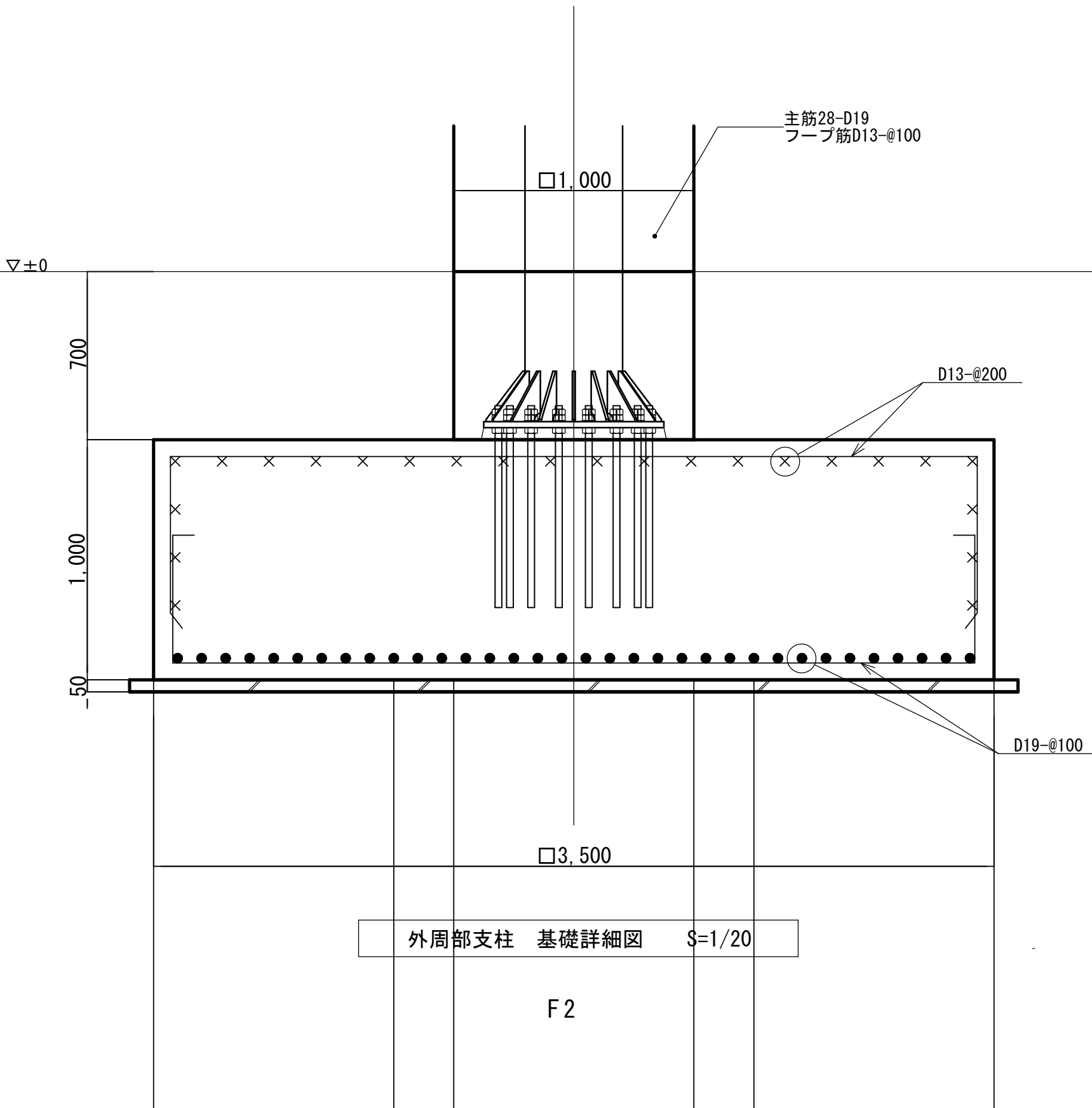
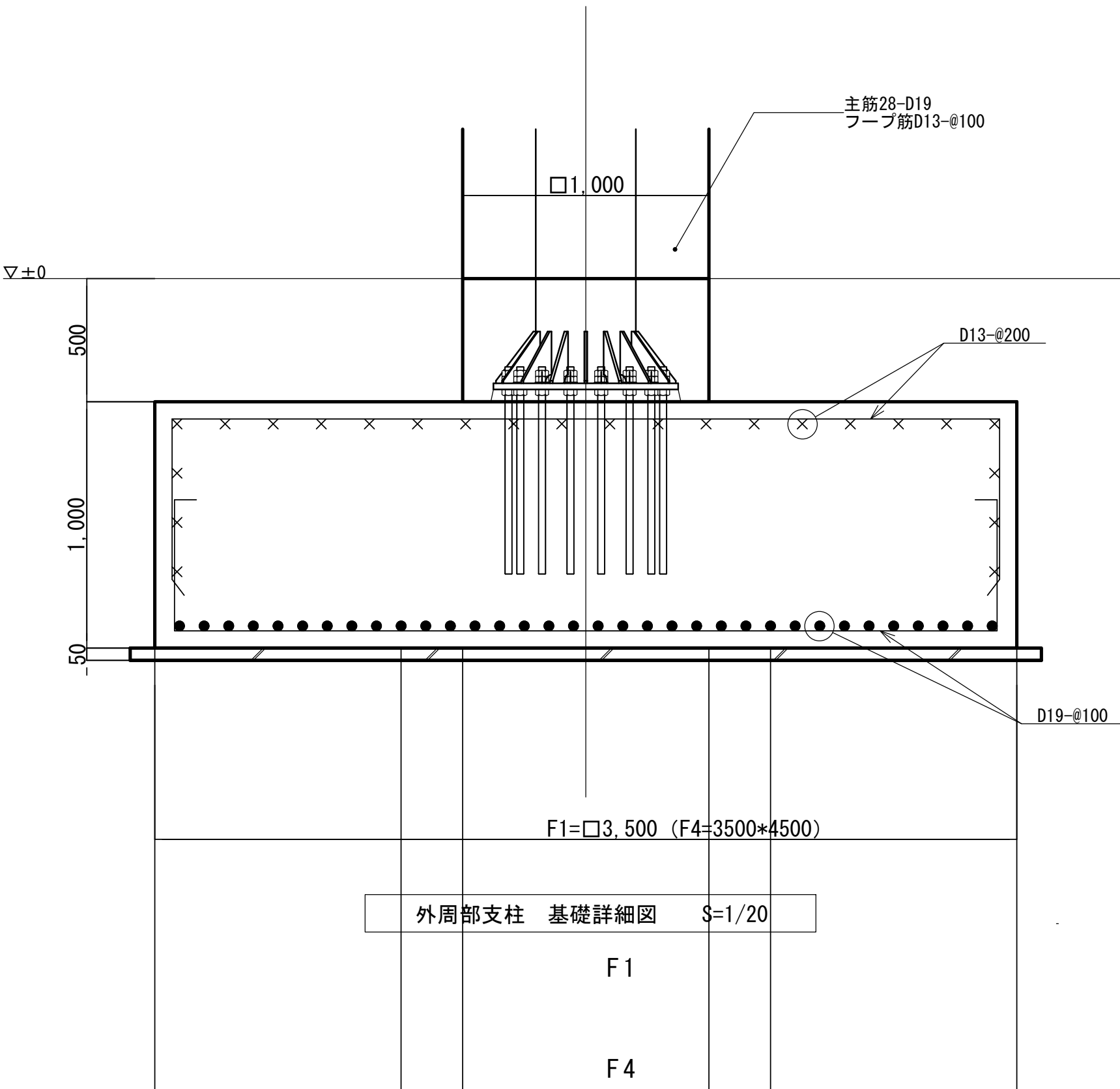


基礎伏図 S=1/100

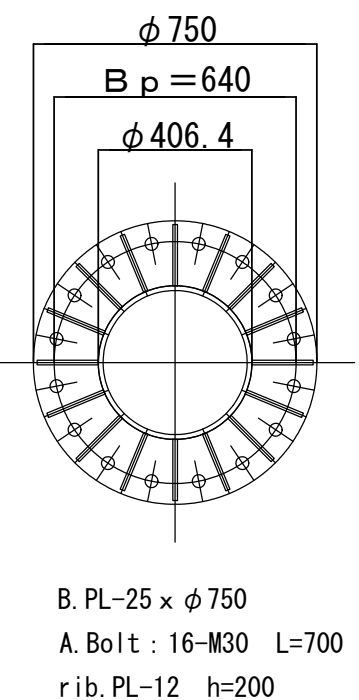
柱状地盤改良（スリーエスG-cube工法同等品）
設計GL260.92と想定

F1	1000φ	L=7.0m（平均、内空堀1.55m）	79本
F2	1000φ	L=7.0m（平均、内空堀1.75m）	18本
F3	800φ	L=7.0m（平均、内空堀1.55m）	16本
F4	800φ	L=7.0m（平均、内空堀0.55m）	12本
F5	1000φ	L=7.0m（平均、内空堀0.75m）	10本
F6	1000φ	L=7.0m（平均、内空堀0.50m）	16本
F7	800φ	L=7.0m（平均、内空堀0.55m）	2本
合計			153本

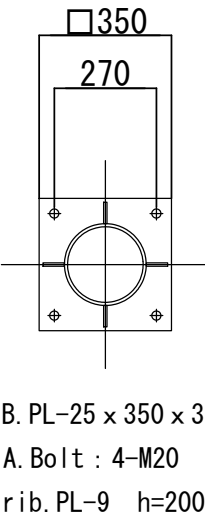
使用固化材種類 六価クロム溶出抑制型
想定固化材添加量 300kg/m3（最終決定は配合試験による）
改良体設計基準強度 600kg/m2



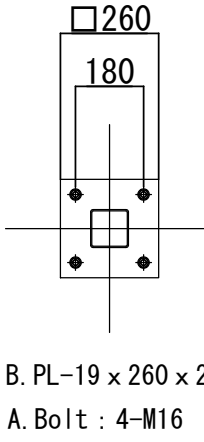
※F5 A-39参照
F6 A-22参照



外周部支柱 柱脚部詳細図 S=1/20



中央部支柱 柱脚部詳細図 S=1/20



両開き扉 柱脚部詳細図 S=1/20

特記事項

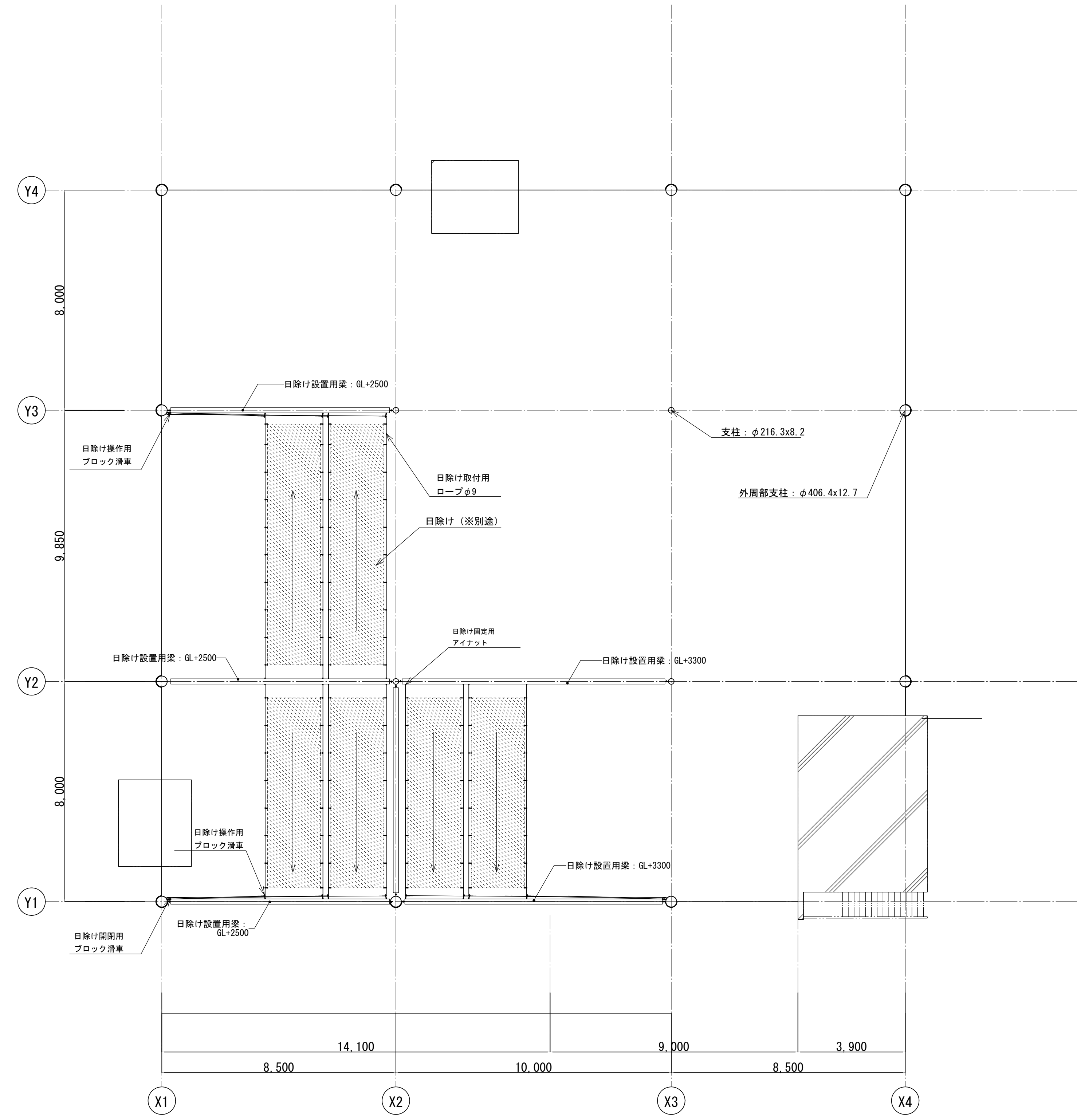
山梨建築設計監理事業協同組合

承認 代表設計者 設計担当者 縮尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/100 A3→1/200
第145710号 第162184号 設計年月日
佐野 正秀 河西 聡

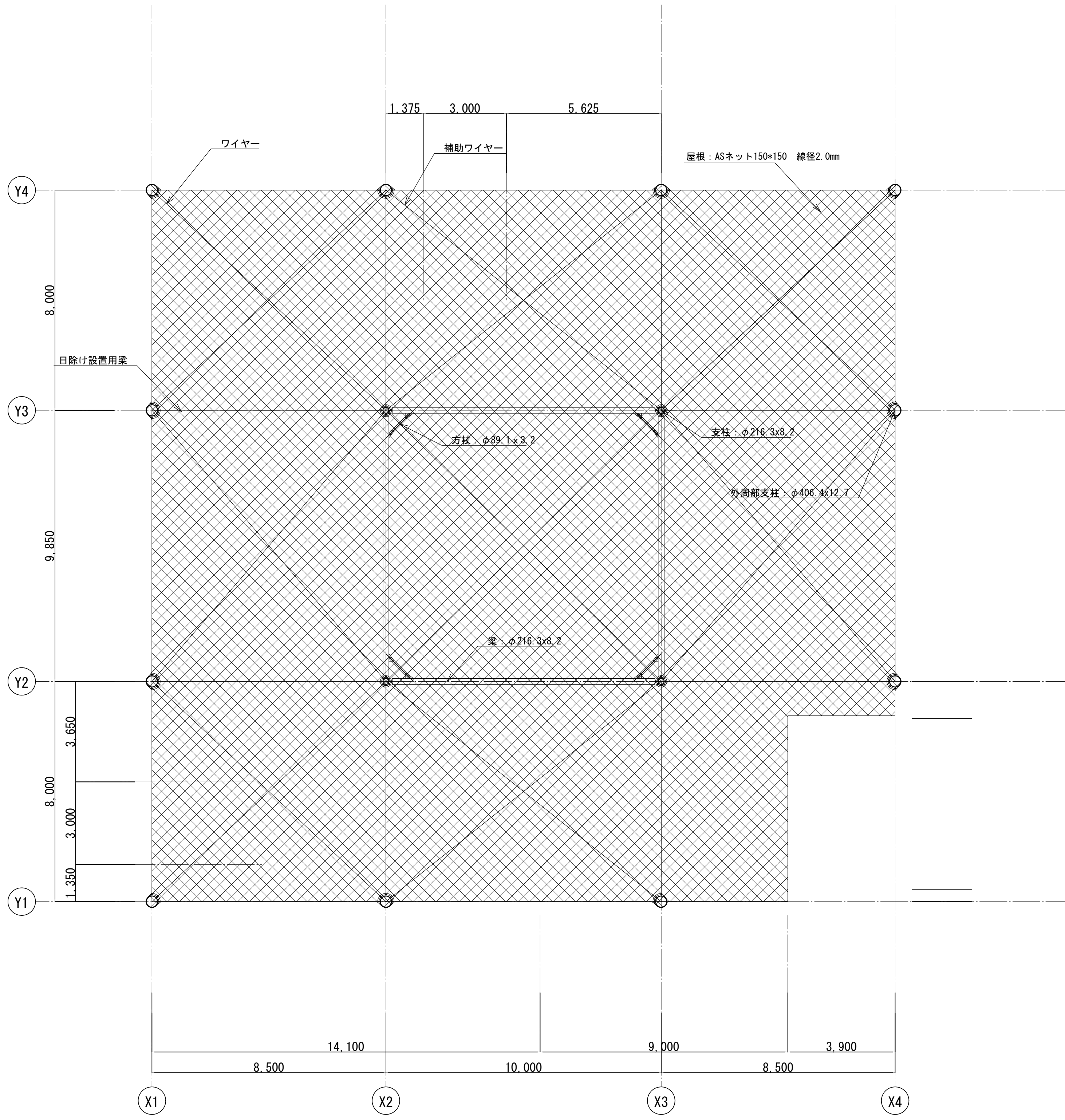
工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事
（南ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称 ケージ基礎図

南ペ A-34
No.





GL+2500レベル 梁伏図 S=1/100



屋根伏図 S=1/100

使用鋼材: 普通鋼材 SS400
仕 上: 有機金属不動態化塗装「エコストコート」同等品
本製品は(一社)日本公園施設業協会による
公園施設団体賠償責任保険制度の加入品とする

特 記 事 項	



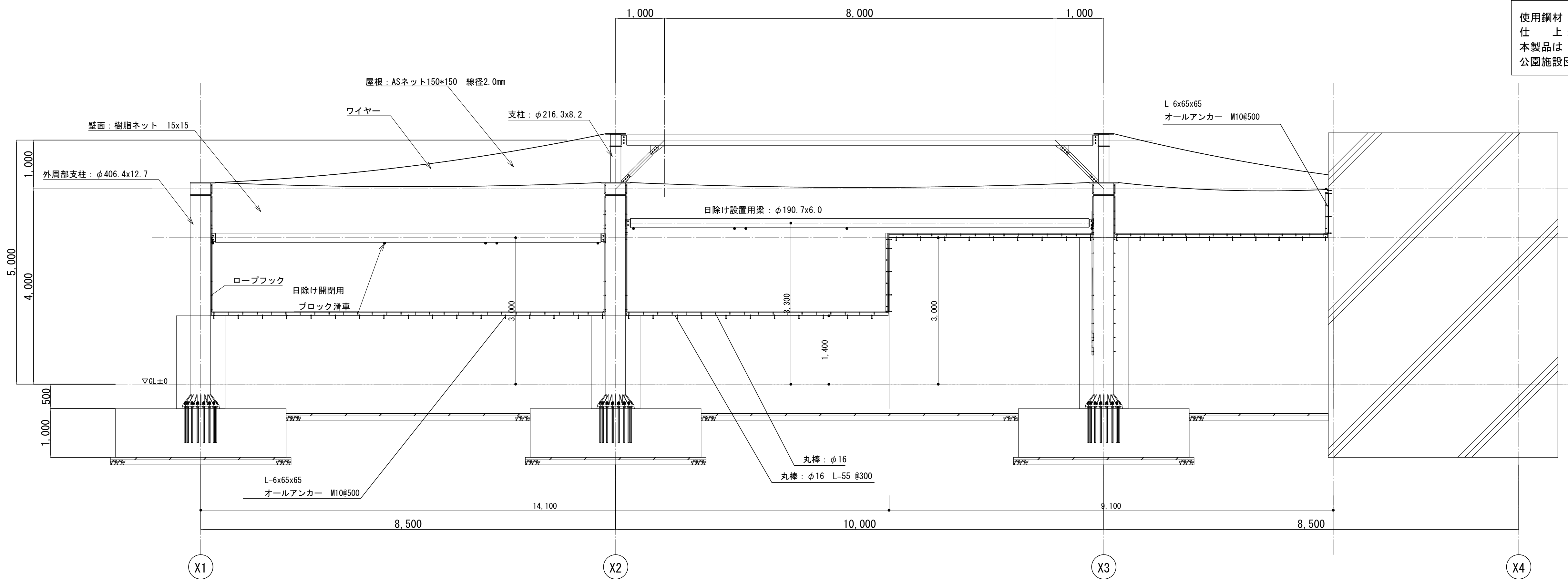
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/100 A3→1/200 設計年月日

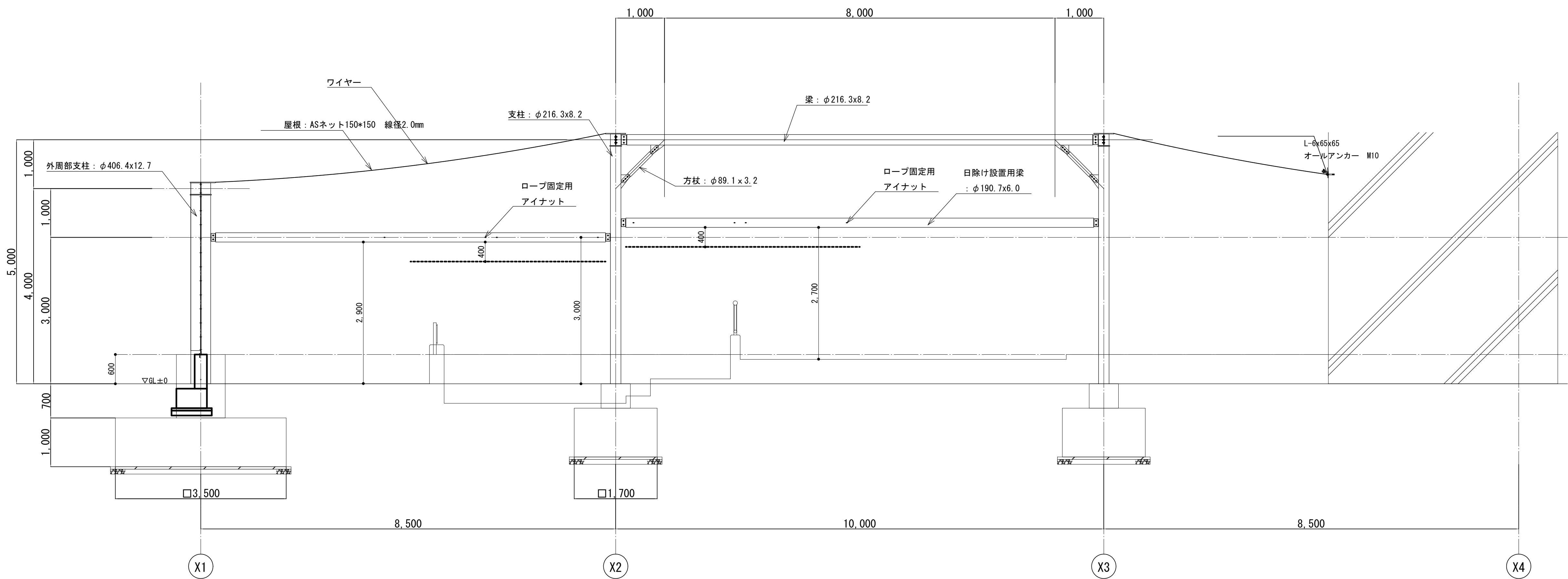
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—ペンギン・フラミンゴ舎)
図面名称	ケージ平面図・屋根伏図

南ぺ A-36
No.

使用鋼材：普通鋼材 SS400
仕 上：有機金属不動態化塗装「エコストコート」同等品
本製品は（一社）日本公園施設業協会による
公園施設団体賠償責任保険制度の加入品とする



Y1列 正面図 S=1/50



Y2列 断面図 S=1/50

特 記
事 項

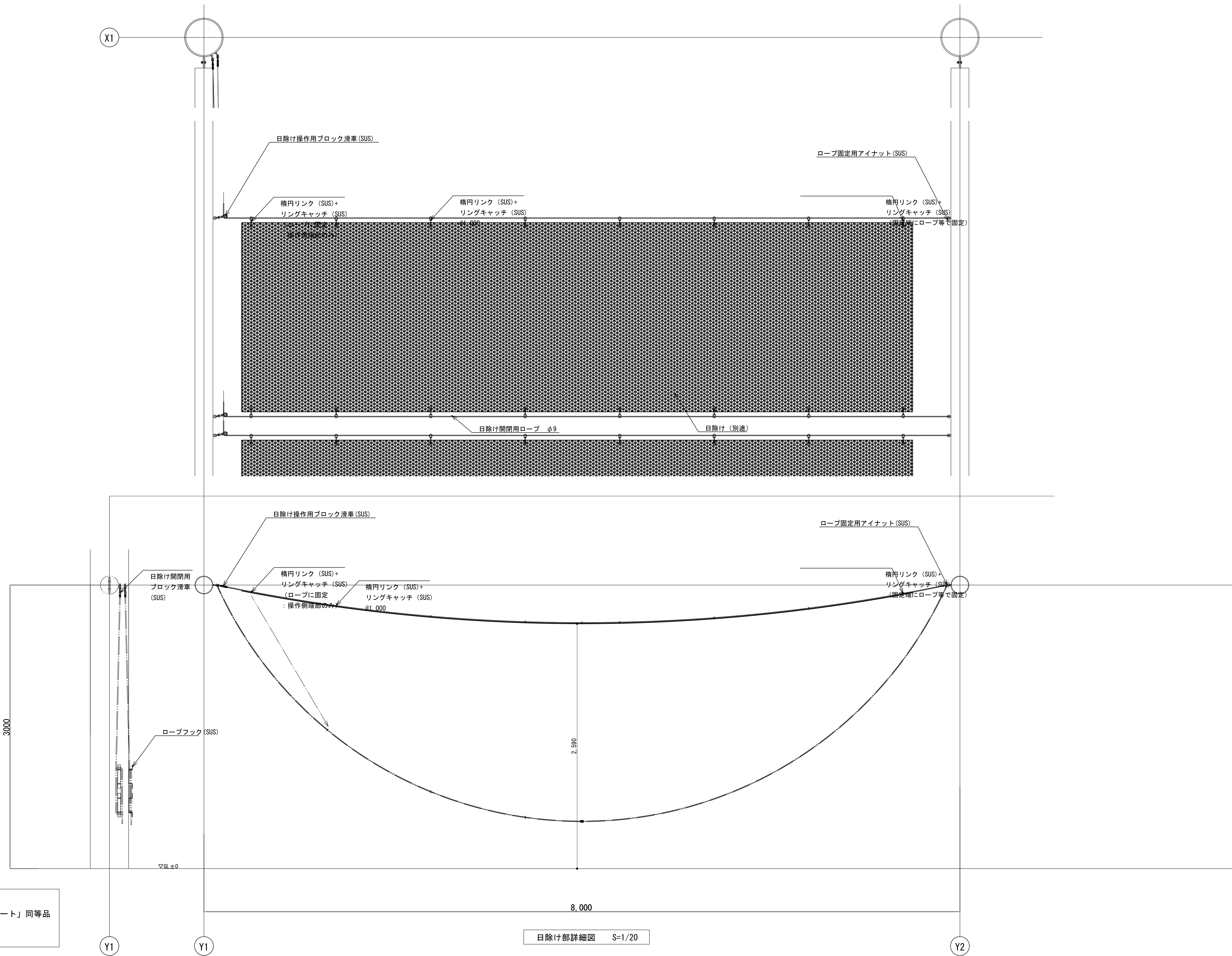


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/100 A3→1/200 設計年月日

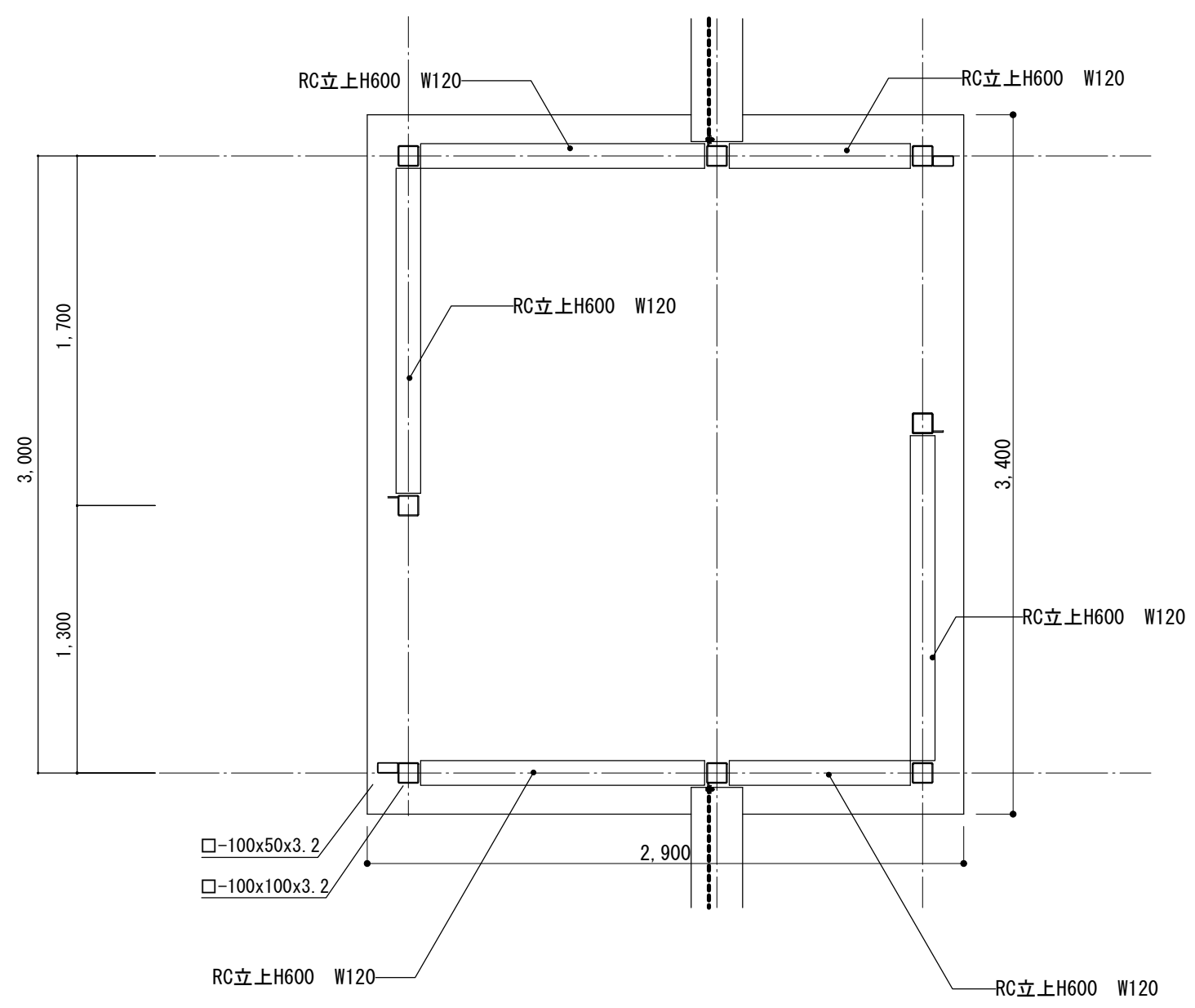
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南—ペンギン・フラミンゴ舎）
図面名称	ケージ鉄骨詳細図 1

南ペ A-37
No.

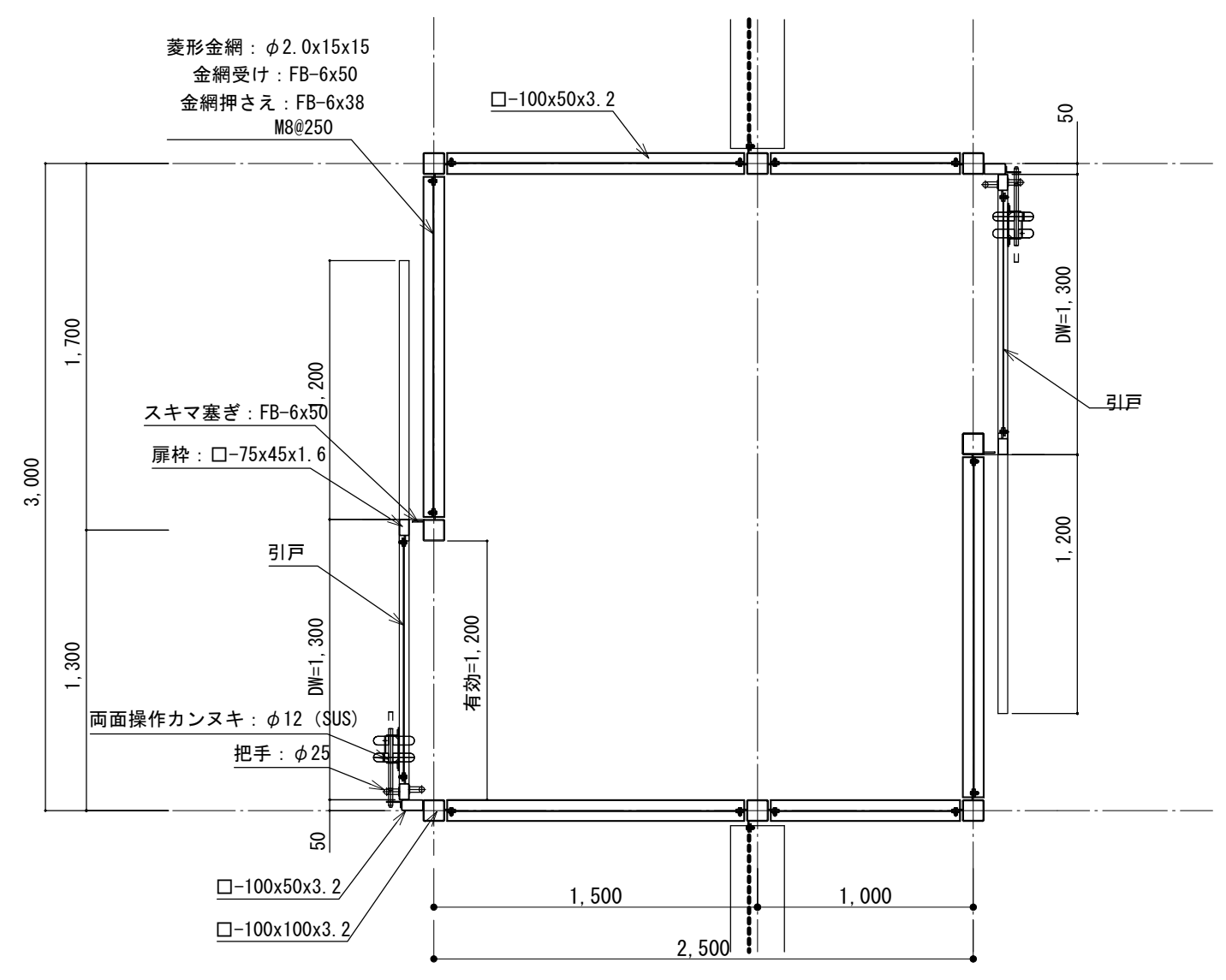


使用鋼材：普通鋼材 SS400
仕 上：有機金属不動態化塗装「エコストコート」同等品
本製品は（一社）日本公園施設業協会による
公園施設団体賠償責任保険制度の加入品とする

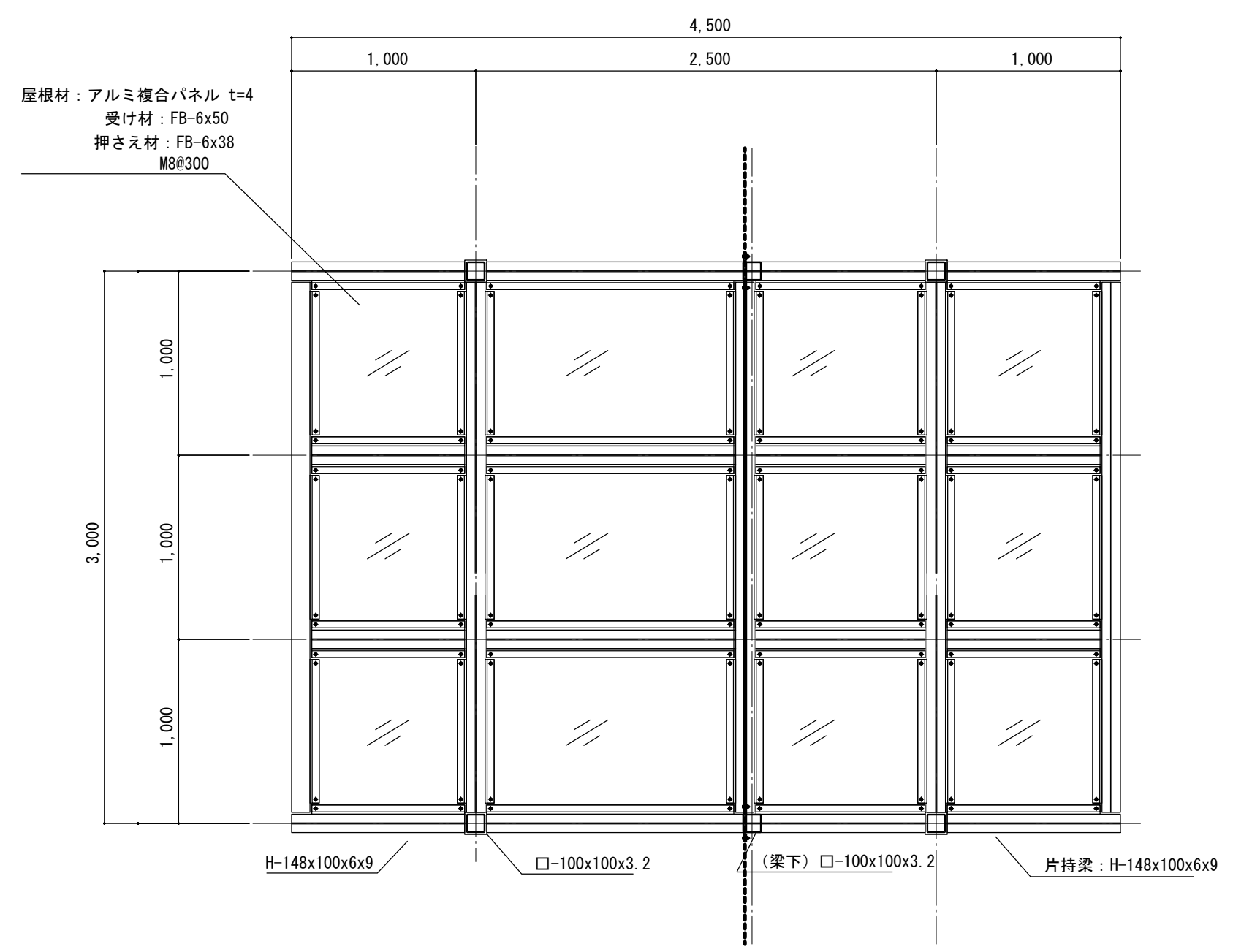
日除け部詳細図 S=1/20



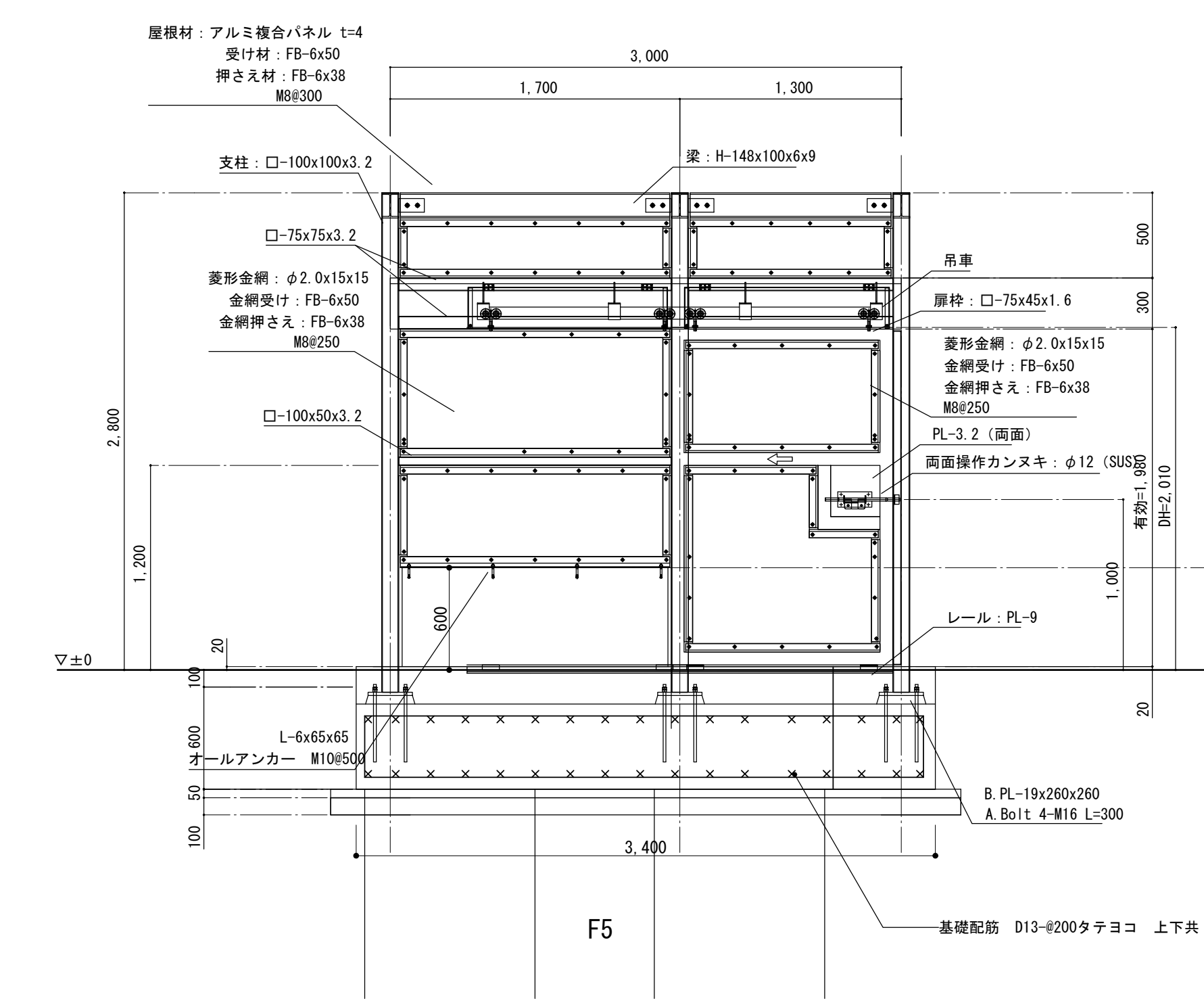
出入口ゲートA-1、2 平面図 S=1/30



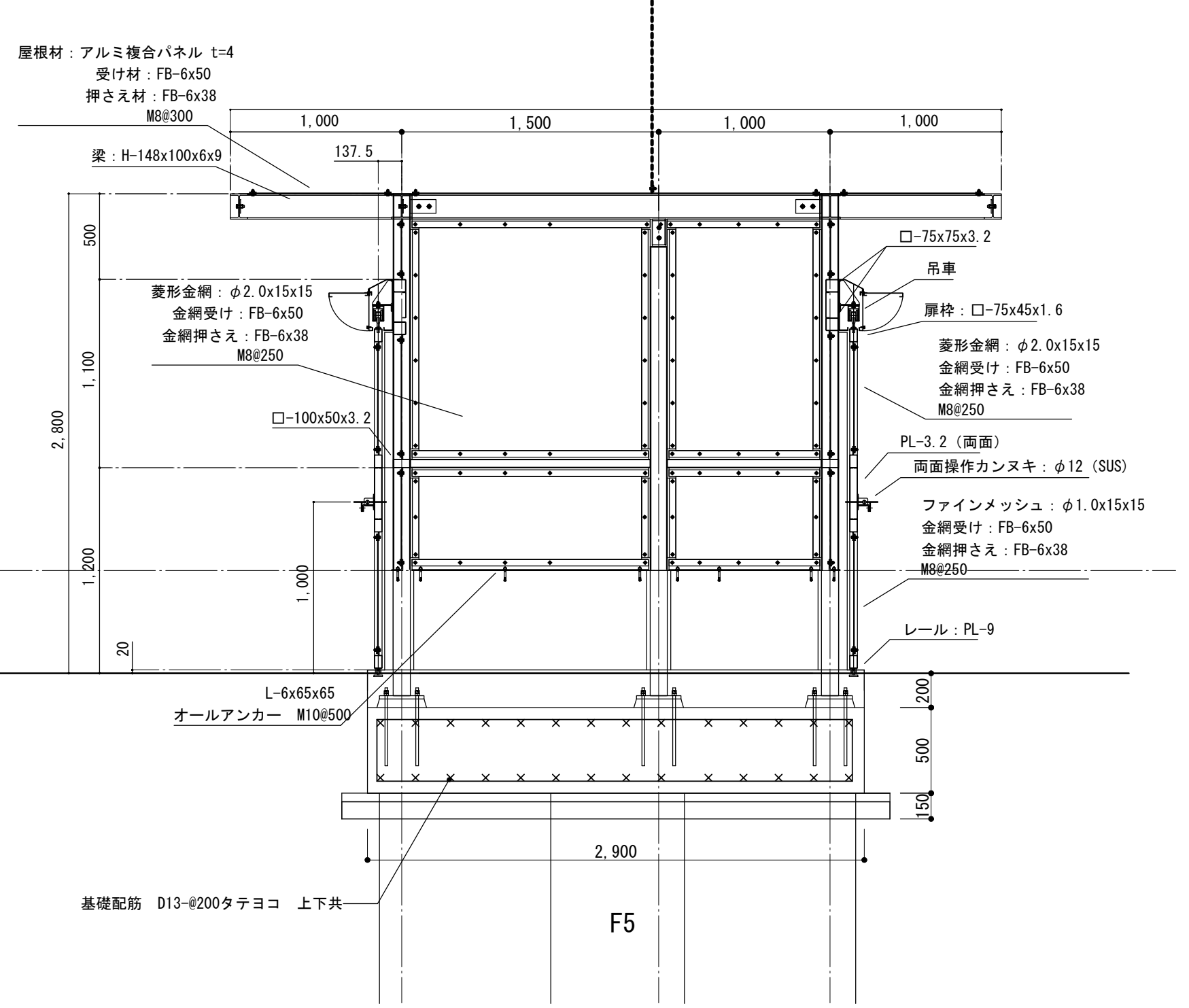
出入口ゲートA-1、2 平面図 S=1/30



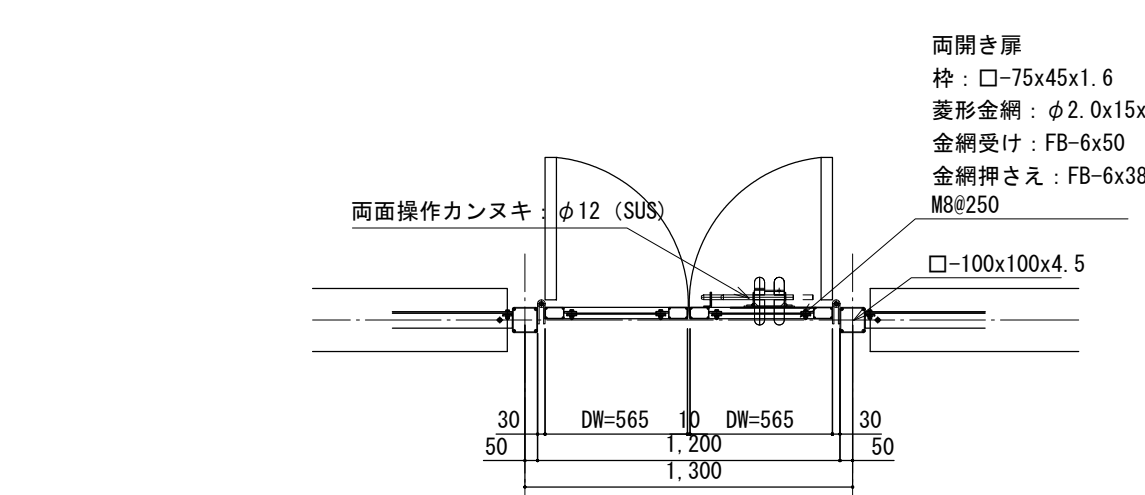
出入口ゲートA-1、2 屋根伏図 S=1/30



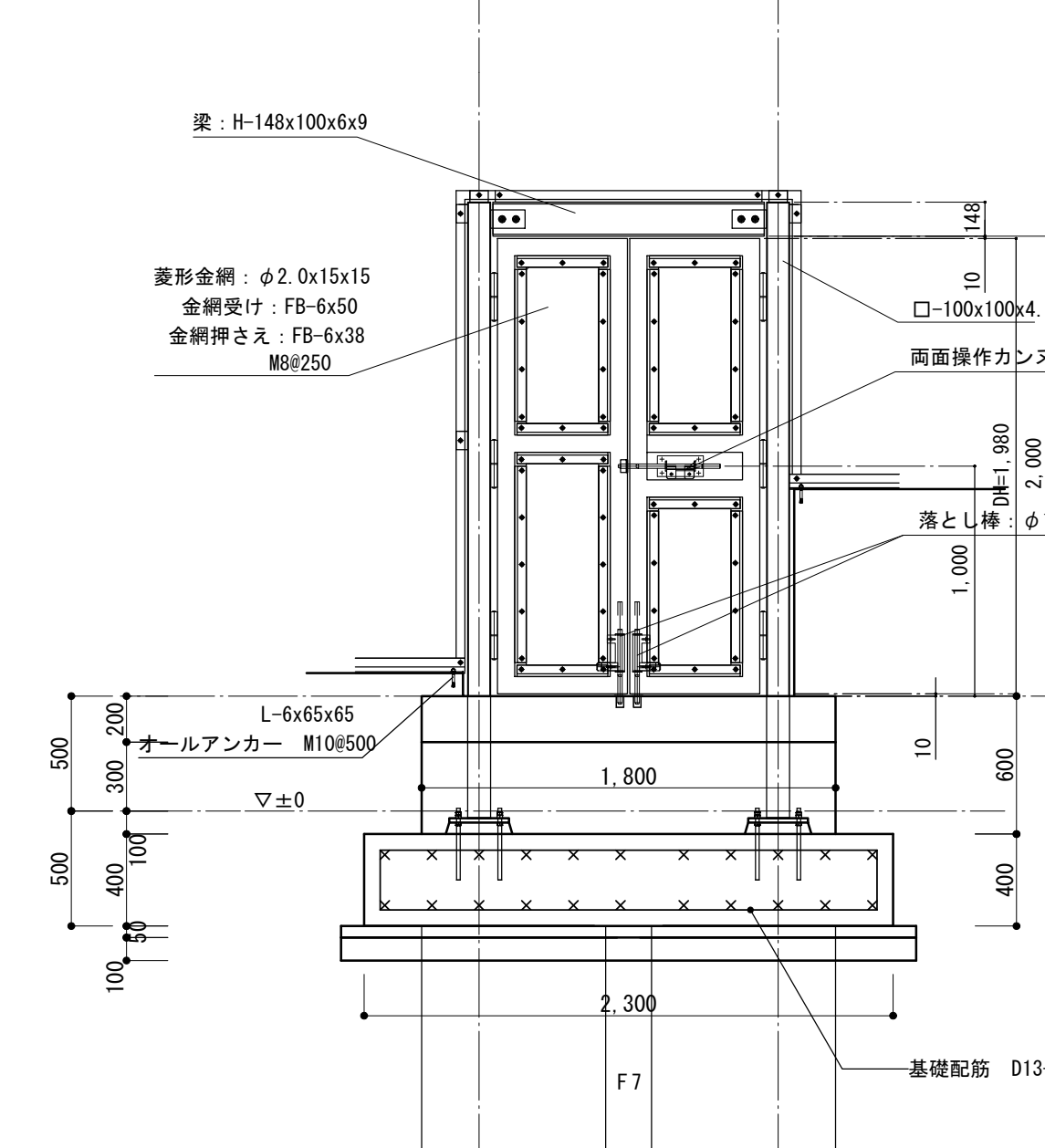
出入口ゲートA-1、2 引戸正面図 S=1/30



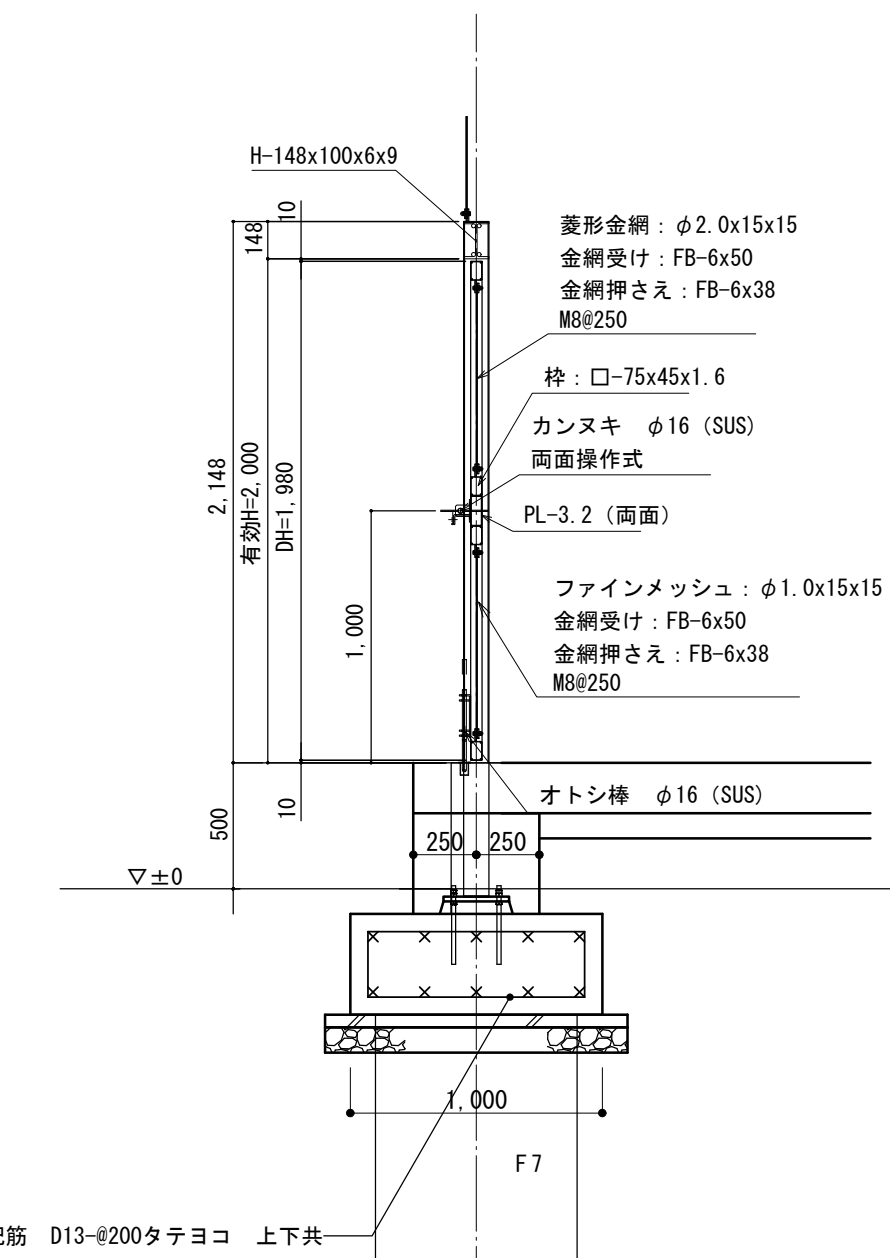
出入口ゲートA-1、2 断面図 S=1/30



出入口ゲートB 平面図 S=1/20



出入口ゲートB 正面図 S=1/20



出入口ゲートB 断面図 S=1/20

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認 代表設計者 設計担当者 縮尺 A1→1/30 A3→1/60 設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南ペンギン・フラミンゴ舎) 図面名称 ケージ鉄骨詳細図3

南ペ A-39 No.